

# 目次

1. 序論 .....	1
1.1 研究背景 .....	1
1.2 本研究の構成 .....	2
2. 先行研究及び問題点 .....	5
2.1 日本語の「の」と中国語の「的」に関する日中対照研究 .....	5
2.2 CLJ による名詞修飾の「の」の習得研究 .....	8
2.3 単語の出現頻度、親密度に関する先行研究 .....	11
2.3.1 言語心理学における単語の親密度、出現頻度の研究 .....	11
2.3.2 CLJ を対象とする日本語の出現頻度、親密度研究 .....	12
2.4 本研究の位置づけ .....	13
3. 本研究で分析対象とする高頻度及び低頻度日本語名詞句の抽出 .....	15
3.1 本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出 .....	16
3.1.1 語彙表における順位が高い日本語名詞の抽出 .....	17
3.1.2 コーパスにおける高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出 .....	20
3.1.3 日本語、中国語母語話者の判断テストによる日本語名詞句の抽出 ..	23
3.2 本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出 .....	26
3.2.1 日本語の名詞句における N1、N2 頻度の頻度を統制しない理由 .....	26
3.2.2 本研究の分析対象となる高、低頻度名詞句の抽出基準 .....	30
4. 日本語名詞句における CLJ による親密度、「の」の文法性判断テスト・読み上げテスト .....	33
4.1 調査協力者 .....	33
4.2 調査時期 .....	35
4.3 調査目的 .....	35
4.4 調査方法 .....	36
4.5 調査内容 .....	38
4.5.1 文法性判断テストと読み上げテストの構成及び実施内容 .....	38
4.5.2 CLJ による日本語名詞句の親密度調査の構成及び実施内容 .....	50
5. 調査結果 .....	54
5.1 テストの数値化の結果 .....	54
5.1.1 文法性判断テスト及び読み上げテストの数値化結果 .....	56
5.1.2 CLJ による各日本語名詞句の親密度の数値化結果 .....	59
5.2 CLJ における「の」の知識判断・脱落と日本語名詞句の頻度、CLJ による日本 語名詞句の親密度との関連性 .....	65
5.2.1 文法性判断テストの結果と日本語名詞句の頻度、CLJ の親密度との関連 性 .....	66

5.2.2 読み上げテストの結果と日本語名詞句の頻度、CLJ の親密度との関連性 .....	68
5.3 文法性判断テストと読み上げテストにおける CLJ による日本語名詞句の親密 度の影響 .....	70
5.3.1 文法性判断テストにおける CLJ による日本語名詞句の親密度の影響	71
5.3.2 読み上げテストにおける CLJ による日本語名詞句の親密度の影響..	72
5.4 まとめ .....	73
6. 考察 .....	73
6.1 CLJ による日本語名詞句の親密度と「の」の脱落との関連 .....	73
6.2 CLJ による日本語名詞句の親密度の高低と「の」の脱落との関連 .....	74
7. まとめと今後の課題 .....	85
謝辞 .....	89
参考文献 .....	90
添付資料 .....	94

修士論文提出者氏名	王 婧瑶 (オウ セイヨウ)
学生番号	18817105
指導教員	奥野由紀子
論文題目 (副題を含む)	中国語母語話者による日本語名詞句における「の」の脱落の要因 ーコーパスから見る日本語名詞句の出現頻度と学習者の親密度からの考察ー

## 要 旨

本研究では、上級レベルの中国語を母語とする日本語学習者 (以下、CLJ) 30 名を対象に、母語の影響を受けやすい日本語名詞句 (日本語: N1+の+N2 ⇔ 中国語: N1+N2) では、CLJ による「の」の脱落誤用の要因はコーパスにおける日本語名詞句の頻度及び CLJ による親密度とどのような関連があるかを文法性判断テストと読み上げテストを実施して検討した。

その結果、次の 4 点が明らかになった。1) 日本語名詞句では、CLJ による「の」の脱落は頻度と関係なく、親密度と強い関連があり、親密度の高低によって脱落の状況は異なるため、親密度の高低に作用されている。2) 高親密度日本語名詞句ケースにおける CLJ による「の」の脱落が生じやすいもの、低親密度日本語名詞句ケースにおける CLJ による「の」の脱落が起きにくいものがあることから、親密度の高低とともに CLJ の「の」の脱落を作用するもの (教科書における「の」の用法説明、文体、文脈、「N1+の N2」における N1、N2 が他の名詞と組み合わせて名詞句になる際の形 (N1+の+□、□+の+N2、N1+□、□+N2) など) がある。3) 高親密度名詞句ケースでは、「の」に関する暗示的知識ができており、「の」がないほうが、中国語らしく感じられるので、CLJ は母語の影響を意識的に避けて「の」を脱落しないストラテジーを使用する。それに対して、低親密度名詞句ケースでは、日本語の「の」の用法に関する知識不足で、日本語の「N1+N2」の複合語の生成ルールが不明であるため、CLJ は母語の影響を無意識に受けることで「の」を脱落してしまう。

以上の結果は第二言語習得研究における言語転移の様相に親密度も要因として関

わっていることと、日本語教育現場における「の」の指導（教科書の改善、「の」に関する文法の導入段階）などに活用できる可能性があることを述べた。

**【キーワード】**：頻度、親密度、「の」の脱落、母語の影響、「の」の指導

# 1. 序論

## 1.1 研究背景

中国語と日本語は「N1+の/的 (de) +N2」、又は「N1+N2」のように、名詞句の構造が対応している上に、多くの漢字語彙を共有している。名詞修飾としての日本語の「の」と中国語の「的」の用法は類似しているが、「中国の都市 ⇔ 中国的都市」、「公共の場所 ⇔ 公共场所」、「学校の前方 ⇔ 学校前方/学校的前方」、「婦人の服飾/婦人服飾 ⇔ 妇人服飾」のように、常に対応しているわけではない。そのため、CLJ にとっては、名詞修飾の「の」の習得は容易ではないと思われる。奥野 (2005) では、CLJ においては、「日本友達」、「車ドア」のように「N1+の+N2」における「の」の脱落が生じることもあったと指摘している。その要因としては、母語の影響の可能性が挙げられている (張 2001)。

松田ほか (2006) は名詞句の習得について「日本語学習者による日本語作文と、その母語対訳データベース ver. 2」(国立国会研究所) 7ヶ国の日本語学習者の作文データを対象に作文データ分析を行った。その結果、「の」の脱落による誤用はどの母語話者にも見られる誤用である一方、CLJ による「の」の脱落はその中では最も多く、母語の影響の可能性が示された。

奥野・王 (2019) は日本語の「の」と中国語の「的」における双方向の調査データ<sup>1</sup>を分析した。その結果、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が対応しない全ての名詞句ケースにおいては、CLJ による「の」の脱落が必ずしも生じるわけではないことが分かった。また、身近な言葉であればあるほど、CLJ による「の」の脱落が

---

<sup>1</sup> 中国語を母語とする日本語学習者 (24 名) と日本語を母語とする中国語学習者 (25 名) を対象に、被調査者に翻訳調査 (母語から目標言語への対訳) を行った。張 (2009)、張 (2011a) では、名詞句における「の」と「的」の有無を、修飾部とヘッダの意味関係に着目した日中名詞句の対照研究を行った結果に基づき、日本語では「の」を使うが、中国語では「的」を使わないケース (修飾部とヘッダが全体的と部分の関係で、修飾部がヘッダの「主」である場合のうち、修飾部が定指示ではない場合、修飾部がヘッダの内容や様式である場合)、日本語では「の」を使うが、中国語では「的」を使っても使わなくてもよいケース (修飾部とヘッダが物・人とその周囲という関係である場合) から名詞句の調査項目を抽出した。

少なくなり、「の」の脱落の要因も母語による負の影響では説明しにくくなると指摘している。更に、身近な名詞句においても、名詞句によって CLJ による各名詞句における「の」の脱落状況も異なることを示し、日本語名詞句の出現頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度が CLJ における「の」の脱落と関連していることを示唆している。

このように、奥野・王（2019）では、CLJ による「の」の脱落の要因について、今までの先行研究の観点と異なり、日本語名詞句の出現頻度、親密度が取り上げられている。CLJ が日本語名詞句で「の」の脱落を起こすのは、この両者と本当に関係があるか、もし関係がある場合、どのような関係があるか、また、母語の影響の可能性をどのように捉えていけばよいかは興味深い。

以上の背景を踏まえ、本研究では、母語の影響が起きる可能性が高いと思われる日本語の名詞句「日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2」のケースをターゲットとし、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と「の」の脱落との関係进行分析し、母語の影響の可能性がどのようになるかを検討していく。

## 1.2 本研究の構成

本節では、各章の構成内容を以下のように述べ、それに関する構成図（図 1）も提示する。

まず、第 1 章では、本研究の研究背景と構成内容を述べる。第 2 章では 3 つの観点から先行研究の内容：①「の」と「的」の日中対照研究、② CLJ による名詞修飾の「の」の習得研究、③ 言語心理学における英単語の頻度・親密度の研究および CLJ による日本語の親密度の研究を概観し、問題点をまとめ、本研究の位置づけを示す。

第 3 章では、本研究で分析対象とする高頻度及び低頻度の日本語名詞句の抽出方法について説明する。本章では、日本語名詞句の出現頻度の定義、抽出の手順、抽出したものにおける高頻度、低頻度日本語名詞句の分類基準、本研究の調査対象と

なる高頻度、低頻度名詞句の抽出基準、本研究の調査対象となる高頻度、低頻度名詞句における N1、N2 の頻度を統制しない要因などを示す。

第 4 章では、日本語名詞句における CLJ による親密度の調査内容、「の」の文法性判断テスト及び読み上げテストの調査内容を提示する。ここでは、文法性判断テスト及び読み上げテストの使用理由、文法性判断テストにおける正用判断問題・誤用判断問題の設定理由、内容、CLJ による日本語名詞句親密度調査の内容、及びこの 3 つの調査を実施した際の内容を述べる。CLJ による「の」の脱落の要因を探索する。

第 5 章では、本研究の調査結果を示す。ここでは、文法性判断テスト及び読み上げテストにおける正答人数、誤答人数の数え方、CLJ による日本語名詞句の親密度平均値の算出方、高低親密度日本語名詞句の分け方、日本語名詞句の頻度・CLJ による日本語名詞句の親密度を総合的に見ることによって抽出した本研究の分析対象の名詞句を提示する。また、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と文法性判断テスト、読み上げテストとの関係、文法性判断テスト及び読み上げテストにおける CLJ による日本語名詞句の親密度の高低の影響などを示す。

第 6 章では、第 5 章の結果に基づき、なぜ、頻度ではなく、CLJ による日本語名詞句の親密度が「の」の脱落の要因になったかについて考察する。また、CLJ による日本語親密度が高い場合と低い場合、「の」の脱落と関わる他の要因も含めて考察する。

第 7 章では、CLJ による日本語名詞句の親密度と「の」の脱落との関係に焦点を当て、第二言語習得研究における言語転移様相と親密度との関係について述べる。また、日本語教育現場における「の」に関する指導の提案、学習者の親密度「の」の脱落要因を探る際に残された課題を提示する。以上を構成図（図 1）に示す。

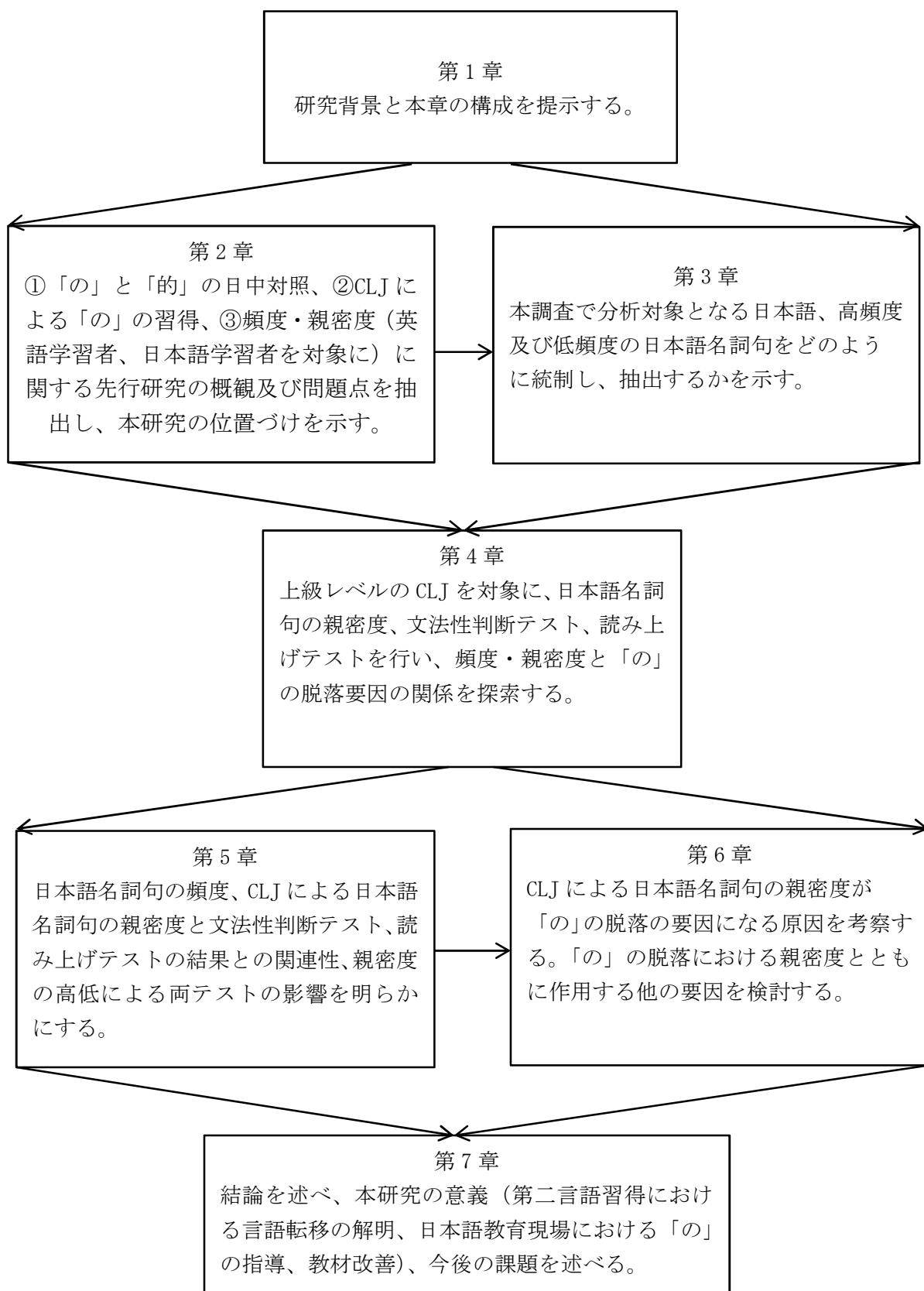


図1 本研究の構成図



## 2. 先行研究及び問題点

CLJ による「の」の脱落の要因と、日本語名詞句の出現頻度・CLJ による日本語名詞句の親密度との関連を明らかにするため、日本語の「の」と中国語の「的」に関する日中対照研究、第二言語習得における CLJ による「の」の習得研究、言語心理学における英単語の頻度・親密度の研究および CLJ による日本語の親密度の先行研究を概観する。そこからまとめた問題点に基づき、本研究の位置づけを示す。

### 2.1 日本語の「の」と中国語の「的」に関する日中対照研究

張（2009）、張（2011a）は修飾部とヘッド（修飾部に対して被修飾部のことを指す）の意味関係を①から⑫のように 12 ケースに分け、日本語の「の」と中国語の「的」の対応非対応が以下の 5 種類があるとしている。

種類 1. 日本語では「の」を、中国語では「的」を使う場合

① 修飾部がヘッドの所有者である場合

例：山田さんの財布⇔山田的钱包

② 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合

（修飾部が人の名前のとき）

例：林さんの妹さん⇔小林的妹妹

③ 修飾部がヘッドの「主」である場合

（修飾部が定指示であるとき）

例：山田さんの目⇔山田的眼睛

④ 修飾部がヘッドの存在場所か存在に関わる時間である場合

例：昨日のデモ⇔昨天的游行

⑤ 修飾部がヘッドのソース、ゴールまたは相手である場合

例：東京からのお客さん⇔从东京来的客人

⑥ 修飾部がヘッドの主体か対象である場合

例：自転車の修理⇔自行车的修理

⑦ 修飾部がヘッドの属性か状態である場合

(修飾部が名詞のとき)

例：紫色の帽子⇔紫色的帽子

種類 2. 日本語では「の」を、中国語では「的」を使わない場合

⑧ 修飾部がヘッドの内容や様式である場合

例：英語辞書⇔英语词典

種類 3. 日本語では「の」を使うが、中国語では“的”を使わない場合

② 修飾部がヘッドの擬似所有者である場合

(修飾部が代名詞のとき)

例：私の妹⇔我妹妹

③ 修飾部がヘッドの「主」である場合

(修飾部が定指示ではないとき)

例：瓶の蓋⇔瓶盖

⑨ 修飾部がヘッドの素材である場合

例：金のネックレス⇔金项链

⑩ 修飾部がヘッドの職位・身分である場合

例：弁護士の鈴木さん⇔律师铃木

種類 4. 日本語では「の」を使わないが、中国語では「的」を使う場合

⑦ 修飾部がヘッドの属性か状態である場合

(修飾部が形容詞か動詞のとき)

例：美しい風景⇔美丽的风景

失敗した結婚⇔失败的婚姻

種類 5. 日本語では「の」を使うが、中国語では「的」を使っても使わなくてもよい  
場合

⑪ 修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合

例：机の上⇔桌子上面/桌子的上面

⑫ 修飾部がヘッドの原産地か出身地である場合

例：日本の車⇔日本车/日本的汽车

以上のように、名詞と名詞を繋ぐ際に修飾部と被修飾部の意味関係に注目して日本語の「の」と中国語の「的」の対応関係を検討している。しかし、その結果から外れた名詞句もあることが一つの問題点として取り上げられる。例えば、「音楽の先生」、「音楽教師」である。張(2009)、張(2011a)によると、この二つの名詞句は、修飾部がヘッドの内容や様式であるというケースに属しているので、文法的には日本語の「の」が必要であるが、中国語の「的」が不要であるという。しかし、日本語では、「音楽教師」という名詞句は張(2009)、張(2011a)の分類から外れ、「の」が入らなくてもよい。このように、日本語の名詞句では、「の」を入れるかどうかは、ただ修飾部と被修飾部の意味関係という言語学の面だけから検討していくのは十分ではないと言える。

また、日本語及び中国語のコーパスから名詞句項目を抽出し、大量のデータに沿って分類し、対照研究を行ったわけではなかった。それゆえ、日本語、中国語では、同じ意味を表す名詞句（日本語：数学の成績 ⇔ 中国語：数学成绩）においては、「の」、「的」の使用が、実際にどのようなになっているかは不明である。このように、日本語、中国語名詞句における日本語の「の」と中国語の「的」の対応関係を見るには、ただ言語学上の対照だけではなく、日本語、中国語コーパスにおける名詞句における母語話者の「の」や「的」の使用傾向などを把握した上でみていく必要があるだろう。

更に、言語学の対照によって、名詞句における日本語の「の」と中国語の「的」の対応関係を明らかにしたが、CLJは具体的にどのように「の」を使用しているか、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が異なる名詞句では、CLJによる日本語の「の」を脱落するかは不明である。次節では、日本語名詞句におけるCLJによる「の」の習得状況を概観する。

## 2.2 CLJによる名詞修飾の「の」の習得研究

CLJによる日本語名詞句における名詞修飾の「の」の習得状況に関する先行研究については、① 作文データの調査、② 発話データの調査、③ 趙(2011)、蘇(2018)、奥野・金(2010)による文法性判断テストの調査、④ 日本語・中国語双方向的研究の調査から得られた結果をまとめている。

① 松田・森・金村・後藤(2006)は、7カ国の日本語学習者と日本語母語話者による作文データにおける名詞句を抽出し、その中における名詞句の誤用を分析した。その結果、「の」の脱落による誤用はどの母語話者にも出現し、漢字圏の学習者は非漢字圏の学習者より名詞句生成が多いため、母語の影響を受けている可能性が高いことが示されている。また、中国人日本語学習者は一人あたりの複合名詞句の使用頻度が最も多く、誤用の種類としては「の」の脱落や漢字の使用ミスが多いことが報告されている。

② 奥野・金(2010)は発話データにおいては、KYコーパスにおける英・韓・中国語母語話者の各レベルの発話における名詞句の「の」の脱落誤用を抜き出し、分析した。その結果、「の」の脱落誤用は発話においても母語にかかわらず生じる誤用だと言え、その要因として、学習者なりの「複合化」や、「置き換え」という言語処理のストラテジーが作用している可能性が示されている。また、中国語母語話者と韓母語話者の場合、上のレベルになるにつれて英語母語話者よりも多くみられ、超級になっても誤用が残ることから、言語転移が何らかの形で作用している可能性が拭い去れないことが示唆されている。

①、②から、CLJによる「の」の脱落が生じることと、その脱落要因の一つは母語の影響であることが分かった。しかし、CLJは具体的にどのような名詞句で「の」を脱落するかは検討されていなかった。また、発話データであれ、作文データであれ、どちらも産出したものなので、産出されていないものについては、「の」の使用状況は不明である。

③ 文法性判断テストを用いてCLJによる名詞修飾の「の」の習得を調査する研究が多かった。趙(2011)、蘇(2018)は名詞句における修飾部と被修飾部の意味関係

から調査を行い、奥野・金(2011)は日本語の「の」と中国語の「的」の対応関係の視点から調査している。

趙(2011)は学年(1年生～4年生)が異なる CLJ による連体修飾節の習得について、修飾部の品詞が名詞である場合、張(2009)の分類によって名詞句項目を作成し、調査を行った。修飾部は名詞である場合、CLJ による「の」の使用は全体的にできてきているが、同格、材料や原料、全体と部分の関係(普通名詞)の場合、CLJ による「の」の脱落が生じやすいこと、その要因は母語の干渉および教科書の問題だと示されている。

更に、蘇(2018)は日本語レベルが異なる CLJ (N3～N2 が複数名で、N1 が 2 名である)を対象に、連体修飾節における「の」の習得調査を行った。趙(2010)と同様に、修飾部の品詞が名詞である場合、修飾部と被修飾部の意味関係に基づいて名詞句項目を作成し、調査を行った。修飾部の名詞が所属、所有、生産地を表す場合は、CLJ にとっては習得しやすいが、内容や場所指定などを表す場合、N2 になっても正答率が低かったことが示されている。また、その要因として、母語の影響や CLJ は名詞句における修飾部と被修飾部の意味関係によって「の」の使用・不使用のルールが不明であることが挙げられている。

これらのことから、張(2009)における修飾部と被修飾部の意味関係に基づいて分類した対照研究を参考に、上記の修飾部の名詞が同格、材料や原料、内容や場所指定である場合、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が対応していないことが分かる。つまり、上級レベル以下の CLJ は日本語の「の」と中国語の「的」の用法が対応していない名詞句ケースでは、「の」の脱落を起こすことが分かった。

また、奥野・金(2011)は日本語では必ずしも「の」が必要である名詞句においては「(의) 韓国語」「(的) 中国語」の有無が、母語と日本語との対応関係「一致/不一致/任意」という観点から、日本語レベルが上級である中韓母語話者による「の」の脱落に対する正答率の差を分析した。その結果、CLJ は「一致」が「不一致」「任意」よりも有意に高く、母語との対応関係が一致しているほど、正しく判断していることが明らかにされている。

以上のことから、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が対応しない名詞句ケ

ースでは、CLJによる日本語名詞句における「の」の脱落は初級から上級の学習段階で生じていること、母語や教科書の影響、日本語の複合語ルール不明はその要因の一つであることが分かった。

④ 更に、奥野・王（2019）は日本語、中国語の名詞句における修飾部と被修飾部（ヘッド）の意味的な関係に基づいて分類した中国語、日本語の名詞句の3ケース（ケース①修飾部がヘッドの「主」である場合と、ケース②修飾部がヘッドの内容や様式である場合、ケース③修飾部とヘッドが物・人とその周囲という関係である場合）から名詞句を選択し、CLJと日本語を母語とする中国語学習者を対象にした翻訳調査（母語から目標言語への対訳）のデータを分析した。

その結果、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が対応しない全ての名詞句ケースにおいては、CLJによる「の」の脱落が必ずしも生じるわけではないこと、CLJによる各異なる名詞句ケース（ケース①、ケース②、ケース③）における「の」の脱落状況が異なっていること、同一のケースであっても、名詞句によってCLJによる各名詞句における「の」の脱落状況も異なることが示されている。また、身近な言葉であればあるほど、CLJによる「の」の脱落が少なくなり、その脱落の要因も母語による負の影響では説明しにくくなり、身近な名詞句においても、名詞句が異なることによってCLJによる各名詞句における「の」の脱落状況も異なることから、日本語名詞句の出現頻度、CLJによる日本語名詞句の親密度がCLJにおける「の」の脱落との関連性を指摘している。

日本語の名詞句ではCLJによる「の」の脱落が起きること、また、その要因として母語影響の可能性、日本語の複合語生成ルール不明なども挙げられている。しかしながら、具体的に日本語の「の」と中国語の「的」の用法が不一致のケースにおける、どのような名詞句では、CLJによる「の」の脱落が生じやすいか、その脱落の特徴が言及されていなかった。奥野・王（2019）では、日本語の頻度、CLJによる日本語名詞句の親密度の影響が示唆されているが、具体的に「の」の脱落とどのような関連があるかが未だ不明である。

## 2.3 単語の出現頻度、親密度に関する先行研究

単語の親密度 (familiarity)、出現頻度 (frequency) は言語心理学の分野において言語認知の過程を解明する為に重要な役割を働いており、よく使われている用語である。

門田 (2006) では、単語の親密度 (familiarity) は、ある単語が一般的にどの程度馴染み深く感じられるか、即ち単語の馴染み度を指す概念である一方、単語の出現頻度 (frequency) は、実際に新聞・雑誌などの特定の文書や、言語コーパスにおいて、何回使用されているかという単語の実際の出現頻度であり、単語の客観的な語彙特性であると述べている。単語の出現頻度、親密度が言語心理学研究において具体的にどのように作用しているか、以下 2-3-1 の先行研究を概観する。

### 2.3.1 言語心理学における単語の親密度、出現頻度の研究

天野・近藤 (2000) は、日本語母語話者を対象に、日本語単語の出現頻度、親密度のどちらが単語の認知に影響を及ぼすかについて調査を行った。その結果、親密度の効果が認められたが、単語の出現頻度の効果は認められず、親密度が主に単語認知に影響を及ぼしていることが判明した。

横川・藪内・谷村 (2004) は日本人英語学習者 (26 名) を対象に、2990 語で分類した 4 つの実験群 (親密度高・頻度高、親密度高・頻度低、親密度低・頻度高、親密度低・頻度低) を用いて、語彙性判断課題を行い、語彙性判断時間 (反応時間) や単語・非単語判断における誤答数を比較することにより、親密度や頻度が英単語の認知に与える影響を検討した。分散分析を行った結果、反応時間においても、誤答数においても同じような傾向が見られており、親密度、頻度とも主効果が認めれ、両要因とも英単語認知の早さや正確さに影響を及ぼすが、親密度が頻度より大きな要因である可能性があると示されている。

Takahashi (2005) は英語専攻の日本人大学生 31 名 (有効データ 29 名) を対象に、動詞の親密度及び頻度 (親密度高・頻度高群、親密度高・頻度低群、親密度低・頻

度高群、親密度低・頻度低群)がガーデンプラス文の理解にどのような影響を与えるか、検討した。その結果、内容理解問題の正答率は親密度高・頻度高と親密度高・頻度低の群においては90%以上の正答率で、被験者の殆どが正確に内容を取られていたのに対して、親密度低・頻度高と親密度低・頻度低では、正答率は50%程度にとどまり、文の理解には親密度が大きく影響することが明らかになった。

このように、親密度、頻度は単語の認知や文の理解に与える影響を検討し、日本語の頻度、日本語母語話者による日本語の親密度や英語の頻度、日本人英語学習者による英語の親密度を対象とするものが多かったが、日本語を第二言語とする学習者を対象とするものが少なかった。

### 2.3.2 CLJを対象とする日本語の出現頻度、親密度研究

言語心理学分野だけではなく、日本語教育分野においても、心理言語学的手法を用いた研究が行われるようになってきた。その中で、日本語学習者を対象とする日本語の出現頻度、親密度の検討は陳(2014)、松島(2009)、姚(2018)がある。

陳(2014)は日本語単語親密度を反映したデータベースを構築する為に、BCCWJ『日本語書き言葉均衡コーパス』とCSJ『日本語話し言葉コーパス』の単語頻度リストを作成し、その中の上位3000位語を用いてCLJによる日本語単語親密度の特徴を明らかにした。その結果、BCCWJとCSJから抽出した単語の頻度の順位とCLJによる親密度の順位との間に、中程度の相関があることが示された。また、CLJにとっては親密度の高い語は日常的に接触する機会が多そうな語や生活用語などの漢字語彙と外来語語彙が多いこと、親密度が低い語は難易度が高い語と専門分野の用語が多いこと、頻度順位が下位で親密度の順位が上位である語(具象名詞、漢字語彙、外来語彙が多い)と、頻度順位が上位で親密度順位が下位の語(難易度が高い和語が多い)が存在していることが指摘されている。

松島(2009)では、日本語能力が中級レベル以上のCLJ(有効データ48名)を対象に、習熟度(日本語能力試験出題基準のN2、N3、N4の語彙)、単語タイプ(音読み・



同根語、音読み・非同根語、訓読みを考慮して二字の漢字語彙 224 語を選定し、漢字二字熟語の親密度調査を行った。その結果、級別に見ると、N2、N3、N4 の順で親密度の評定平均値が上がっていることから、習熟度が上がるにつれて親密度も上がる傾向が見られると示された。また、単語タイプでは、音読み・同根語、音読み・非同根語、訓読みの順に親密度の評定平均値が下がっていることから、日・中二言語間の語彙関係が親密度に影響を与えており、中国語と関係の強い日本語漢字語彙の方が、関係の弱い日本語漢字語彙よりも親密度が高くなる傾向があることが指摘されている。即ち、習熟度、単語タイプの違いが親密度に大きく影響を与えていることが分かった。

姚 (2018) は、上級レベルの CLJ (57 人) を対象に、「名詞+動詞」の形の慣用句を 26 個選択し、慣用句の理解度は、慣用句の親密度、透明度<sup>2</sup>と関連しているかどうかを明らかにした。その結果、親密度と理解度の間、及び透明度と理解度の間に高い正の相関関係があることが示されている。

以上のように、CLJ による日本語の親密度の特徴、及び親密度の高低が日本語の理解度との関係を明らかにした。しかしながら、日本語の単語や慣用句に留まり、CLJ による日本語の親密度の効果は検討するものが多かったが、日本語の頻度の効果および、この両者は単語や慣用句以外のケースに対する効果に関する検討はなかった。

## 2.4 本研究の位置づけ

趙 (2010)、奥野・金 (2010)、蘇 (2018) で示されたように、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が不一致の名詞句では、CLJ による「の」の脱落が生じる。また、奥野・王 (2019) ではその脱落の要因は日本語名詞句の出現頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と関係があると示唆されている。

以上のことを踏まえ、本研究では、日本語の「の」と中国語の「的」の用法が不一致の（日本語では、「の」が必要であり、中国語では「的」が不要）ケースでは、

---

<sup>2</sup> 姚 (2018) では、透明度は慣用句の文字通りの意味と慣用句としての意味との関連性を指しているとされている。

CLJ は日本語の「の」を具体的にどのように脱落しているか、また、日本語名詞句の出現頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と関係があるか、関係がある場合、どのような関係があるか、以下の 4 パターン（頻度高×親密度高、頻度高×親密度低、頻度低×親密度高、頻度低×親密度低）を検討していく。

### 3. 本研究で分析対象とする高頻度及び低頻度日本語名詞句の抽出

この章では、本研究の調査項目となる高頻度、低頻度の日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）の抽出方法、高頻度、低頻度の分け方などを提示する。

調査項目の日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）は、日本語、中国語のコーパス対照、及び日本語母語話者による日本語「の」、中国語母語話者による中国語の「的」の判断テストに基づいて抽出する。日本語と中国語のコーパスを対照し、抽出する手法を使用した理由は以下のとおりである。

これまでの、名詞句における日本語の「の」と中国語の「的」の対照研究から、以下、2つの問題点があげられた。張(2009)、張(2011a)において日本語の「の」と中国語の「的」の対応関係を分析しきれない部分があったことと、分析対象となる名詞句は研究者が作例したものが多かったことである。日本語では「の」が必要であり、中国語では「的」が不要な日本語名詞句を抽出する際には、単に言語学上の対照を行うだけでは不十分であると言える。

建石(2018)では、研究者自身の内省が働かない部分に対する例文の補強や裏付けのためにコーパスを利用することが日中対照研究においても有効であることと示されている。

それゆえ、本研究では、言語学上の「の」と「的」の用法に関する対応関係の分類ではなく、日本語と中国語のコーパスの対照、それらの名詞句における、日本語母語話者による「の」、中国語母語話者による「的」の使用、不使用判断を元に日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）を抽出していった。具体的な抽出方法は以下のとおりである。

日本語、中国語母語話者の使用実態が反映されている、『現代日本語書き言葉均衡コーパス：BCCWJ』<sup>3</sup>と『現代中国語コーパス：CCL』<sup>4</sup>を対照しながら、コーパスから日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）を抽出した。そこから、抽出

---

<sup>3</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス：BCCWJ』 国立国語研究所 ([https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/))

<sup>4</sup> 『北京大学中国語コーパス』 [現代汉语語料庫] (CCL) 北京大学中国语言中心 (Center for Chinese Linguistics PUK) (<http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp>)

した名詞句を、日本語では「の」が必要であるかを日本語母語話者に、中国語では「的」が不要であるかを中国語母語話者に判断テストによって判断してもらう。以上の二つの作業によって抽出した、日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）を、本研究の調査項目として使用している。以下、コーパスで検索した際の手順を説明する。

『北京大学中国語コーパス：CCL』では、中納言における短単位検索の機能が付いていないので、中国語の「N1+N2」を直接抽出できない。それゆえ、本研究では、調査項目となる日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）を抽出した際に、まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス：BCCWJ』における中納言の短単位検索機能を用いて「N1+の+N2」を検索する。検索を通して出てきた「N1+の+N2」は日本語には「N1+N2」の形があるかどうかを検索する。その日本語名詞句は「N1+の+N2」という形のみを持っている場合、更に、以下の検索を行った。

「N1+の+N2」という形のみを持っている名詞句を中国語の「N1+的+N2」、「N1+N2」に翻訳する。翻訳した中国語の「N1+的+N2」、「N1+N2」を『北京大学中国語コーパス：CCL』で検索する。もし、中国語では「N1+N2」のみの場合、その名詞句は本研究の調査項目として抽出される。本研究の調査対象となる日本語名詞句に関する抽出の詳細は以下 3.1、3.2 で示す。

### 3.1 本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出

#### ・日本語名詞句の出現頻度の定義

門田（2006）では、単語の出現・使用頻度とは、ある単語は実際に、新聞、雑誌など特定の文書や言語コーパスにおいて、何回使用されているかというものであり、客観的な語彙特性であると示す。それに基づき、本研究では、日本語名詞句の出現頻度とは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス：BCCWJ』における出現頻度とするものであり、以下、日本語名詞句の頻度という。

#### ・本研究の分析対象となる日本語名詞句

日本語、中国語の名詞句における語順は同じであり、被修飾部が修飾部の後に置かれる名詞後方型である。両言語の名詞句における修飾部の品詞によって、多種類の名詞が形成できるが、本研究では使用する日本語、中国語の名詞句は以下の条件を満たすものとする。

- (1) 名詞句の構造：「日本語：名詞 1+の+名詞 2 ⇔ 中国語：名詞 1+名詞 2」のように、日本語では「の」が必要であるのに対して、中国語では「的」が不要なものである。
- (2) 名詞 1、名詞 2 は 2 字漢字の名詞である。
- (3) 日本語の名詞 1、名詞 2 は現代中国語<sup>5</sup>又は古代中国語<sup>6</sup>と意味が同様に、字形がほぼ同様のものである。

### 3.1.1 語彙表における順位が高い日本語名詞の抽出

『BCCWJ 短単位語彙表 (Version 1.1)』における 12 ジャンル<sup>7</sup> (PB\_rank、PM\_rank、PN\_rank、LB\_rank、PBfixed\_rank、PB\_variable\_rank、PM\_fixed\_rank、PM\_variable\_rank\_rank、PN\_fixed\_rank、PN\_variable\_rank、LB\_fixed\_rank、LB\_variable\_rank) から、各ジャンルにおける順位は同じく前 5 万位以内の名詞を以下図 1 のように、Excel で抽出した。

<sup>5</sup> 《現代汉语词典》(第 7 版) を参考する。

<sup>6</sup> 《古代汉语词典》(第 2 版) を参考する。

<sup>7</sup> この 12 ジャンルは無作為抽出法に抽出したものであり、真正性が高いため、使用した。また各ジャンルの以下とおりである。PB\_rank は出版・書籍における順位、PM\_rank は出版・雑誌における順位、PN\_rank は出版・新聞における順位、LB\_rank は図書館・書籍における順位、PB\_fixed\_rank は出版・書籍・固定長における順位、PB\_variable\_rank は出版・書籍・可変長における順位、PM\_fixed\_rank は出版・雑誌・固定長における順位、PM\_variable\_rank は出版・雑誌・可変長における順位、PN\_variable\_rank は出版・新聞・可変長における順位、LB\_fixed\_rank は図書館・書籍・固定長における順位、LB\_variable\_rank は図書館・書籍・可変長における順位を表す。

	A	F	G	H	I	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AD
1	lemma	PB_rank	PM_rank	PN_rank	LB_rank	PB_fixed_r	PB_variable	PM_fixed	PM_variable	PN_fixed	PN_variable_r	LB_fixed_rank	LB_variable_r	選出可否
2	自分	78	89	150	75	78	78	92	89	166	115	76	74	○
4	問題	114	204	93	138	119	114	214	201	94	93	138	137	○
9	地域	269	818	175	443	257	268	778	848	179	165	448	443	○
155	前条	11529	65245	41582	26498	11458	11651	42553	63507	35309	34391	26070	26040	✕
156	同項	10028	65245	41582	47385	11720	9829	42553	63507	35309	34391	39771	49743	✕
163	支所	36124	30844	9080	43158	33725	39149	21703	33634	8733	9476	63158	42060	✕

図2 日本語名詞句における名詞の抽出の方法

図2で示したように、ある名詞は各ジャンルにおける順位は同じく前5万位以内の名詞である場合、抽出し「○」を付け、そうではない場合、抽出せず「✕」を付ける。このような手順に従って名詞を抽出した。抽出した名詞の総数は9588個であり、中では、本調査で分析対象とする名詞は表1ように示したように、603個であった。

表1 BCCWJの12ジャンルから抽出した使用可能な名詞

問題、社会、事業、世界、地域、情報、学校、企業、委員、時代、方法、経済、女性、年度、環境、状況、技術、大学、内容、保険、状態、一般、部分、政府、制度、対象、基本、地方、事件、国民、程度、中心、機関、文化、国際、目的、主義、理由、全体、最後、家族、以下、効果、対策、都市、個人、自然、期間、政治、大臣、商品、事務、作品、法律、自動、歴史、産業、病院、価格、条件、精神、行為、責任、医療、文字、市場、土地、団体、資料、新聞、同時、福祉、銀行、基準、住宅、行政、構造、政策、外国、世紀、家庭、男性、市民、警察、自己、全国、専門、法人、年金、能力、国家、種類、現実、道路、中央、具体、患者、選手、規模、業務、被害、事故、方向、様子、資金、音楽、高齢、人生、価値、少年、年齢、利益、公園、住民、農業、主人、目標、動物、体制、所得、範囲、地区、地域、知識、友人、資本、権利、最大、金額、特徴、人口、材料、資産、分野、傾向、海外、学生、細胞、費用、国内、職員、課題、本人、距離、電気、人物、予算、興味、最終、英語、
--

業務、財務、地球、物質、老人、表情、基礎、機會、自治、神經、醫師、事情、工場、民間、性格、会場、夫婦、機械、集團、空間、印象、周辺、関心、航空、他人、図書、公共、感情、教室、犯罪、電子、小説、財産、女子、態度、画面、協会、症状、思想、工業、中学、生命、椅子、過程、空氣、議員、資格、收入、宇宙、債權、姿勢、植物、民族、单位、方式、民主、魅力、内部、長期、方針、生物、伝統、世代、背景、雑誌、周囲、美術、部門、地下、食品、舞台、近代、需要、文学、憲法、効率、水準、男女、芸術、職業、要因、内閣、数字、文章、化学、教師、事態、条約、鉄道、現状、疑問、住所、戰略、項目、革命、各種、心理小学、危機、政權、両親、栄養、形式、出身、話題、空港、実態、国会、温泉、成果、首相、本部、意思、少女、証券、証拠、電車、初期、時計、作家、機構、複数、表面、犯人、青年、景気、素材、神社、刑事、暴力、季節、未来、主体、面積、医学、軍事、機器、兄弟、長官、森林、階段、理事、現地、理想、男子、道具、定期、会員、習慣、風景、血液、車両、療法、婦人、事前、海岸、各地、部隊、視点、地上、金属、世間、従業、博士、国立、日記、候補、付近、各国、模様、燃料、漫画、帝国、趣味、作戦、体重、成分、外交、農家、読者、限界、常識、中間、勢力、成績、正面、方面、心臓、数値、顧客、人数、蛋白、博物、個性、収益、商店、手法、首都、衛星、主婦、大陸、武器、幹部、路線、勇氣、兵器、天然、感想、体力、意欲、光景、衝撃、官僚、血管、先端、関節、被告、全面、米軍、業績、著者、作者、長男、一家、実力、伝説、看板、評判、業界、秘書、東洋、日中、部長、文庫、観客、絵画、焦点、冒頭、著書、主流、夫妻、中年、視野、年代、画家、焦点、絵画、家具、女王、観客、文庫、部長、体質、衣装、頂点、局面、感性、文芸、庭園、後継、高原、一流、重点、品質、信号、路線、正月、報酬、根本、物理、物価、定期、実質、経費、地位、犠牲、論文、肉体、講師、真実、意義、実績、総額、名称、早期、背後、上司、店舗、西洋、先進、短期、地面、商業、最新、例外、現金、気温、劇場、室内、美容、原稿、現行、典型、永遠、動機、压力、指標、作者、原料、前方、古典、学者、物件、書店、最小、国籍、体質、国境、任意、両国、家具、旅館、重量、産地、主題、年代、視野、店員、藥物、私立、歌手、学園、意向、悲劇、郊外、上級、視覚、海

水、強度、西部、書籍、原点、前面、内外、倉庫、視覚、店内、主任、起源、顧問、信念、感触、色彩、青春、局面、英雄、主力、名人、外觀、題材、情景、短編、弱点、公民、数学、幼児、相对、様式、現金、運輸、景觀、商人、景色、親戚、用途、食物、主題、視野、食材、生態、食欲、郊外、上流、友情、娯楽、模型、原型、高層、特産、素質、人脈、必需、主観、社交、夜景、中等、物流、言論、体裁、高低、格言、外形、策略、木炭、各県、奇数、天災、長文、客船、幼年、魔王、羊毛、嫌疑、習俗、小腸、樹林、長城、自費、威信、海拔、各位、武術、商務、貧富、品格、抱負、乳房、題目、春季、品位、乳液、姓名、中小、母語、客人、客車、各項、晩婚、精彩、外向、産婦、故宮、各章、内径、民航、副食、綠色、外事、賞罰、婚前、恋情、科研

### 3.1.2 コーパスにおける高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出

3.1.1 で抽出した名詞をそれぞれ修飾部、被修飾部として図 3、4 のように、『中納言』で以下のように、検索（以下、数学を例とする）し、存在する名詞句を抽出した。

図 3 修飾部としての名詞句抽出法

「数学」は修飾部をした際に、被修飾部の名詞は品詞の小分類である「名詞－普



通名詞一般」に設定して検索した。

図 4 被修飾部としての名詞句抽出法

「数学」は被修飾部をした際に、修飾部の名詞は品詞の小分類である「名詞－普通名詞一般」に設定して検索した。

この方法によって 603 個の語がそれぞれ修飾部、被修飾部として使用する可能な名詞句を抽出した。Excel シート 1206 個<sup>8</sup>を作成した。更に、以下の処理を行った。

- ① 日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）における N1、N2 の字形においては、本研究で扱う名詞句に当てはまらないものを目でチェックし削除した。
- ② 日本語名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）を抽出する為に、日本語の『BCCWJ』コーパスと中国語の『CCL』コーパスを用いて対照調査を行い、本研究の分析対象となる名詞句を 123 個抽出し、『BCCWJ』における頻度数を統計した。以下表 2 に示す。

<sup>8</sup> 各シートにおける名詞句の件数：10 件 ≤ 各シートの名詞句の件数 ≤ 1193 件。

表2 『BCCWJ』と『CCL』の対照調査による日本語名詞句の頻度順位

番号	名詞句	頻度	番号	名詞句	頻度	番号	名詞句	頻度
1	個人の尊厳	173	42	個人の価値	20	83	話題の人物	4
2	地域の特性	171	43	政治の舞台	18	84	利益の均衡	4
3	公共の福祉	145	44	最新の状態	17	85	人口の規模	4
4	言論の自由	106	45	博士の学位	17	86	花粉の季節	4
5	事件の真相	106	46	地域の特徴	17	87	体育の成績	4
6	現実の問題	94	47	学生の身分	15	88	費用の範囲	3
7	公共の利益	86	48	世界の舞台	14	89	歴史の背景	3
8	財産の状況	80	49	最大の成果	14	90	財産の総額	2
9	家庭の主婦	71	50	理解の程度	14	91	地上の景観	2
10	進化の過程	61	51	人物の性格	13	92	地域の風景	2
11	女性の地位	58	52	世界の潮流	13	93	法律の領域	2
12	予算の範囲	57	53	世界の大国	13	94	個人の習慣	2
13	中年の女性	57	54	理論の基礎	13	95	個人の魅力	2
14	学校の成績	56	55	個人の資産	13	96	固有の産業	2
15	個人の問題	56	56	家庭の状況	12	97	退学の理由	2
16	国民の意思	53	57	最後の一口	12	98	音楽の成績	2
17	共通の話題	51	58	梅雨の季節	12	99	個別の症状	2
18	女性の権利	47	59	社会の伝統	12	100	普通の職員	2
19	住民の福祉	45	60	漫画の世界	11	101	産業の秩序	1
20	公共の場所	45	61	生物の個体	11	102	産業の資源	1
21	政治の中心	44	62	大学の成績	9	103	初期の症状	1
22	成長の過程	44	63	最大の価値	9	104	初期の成果	1
23	生命の危機	42	64	動物の細胞	8	105	初期の会員	1
24	影響の程度	42	65	英語の成績	8	106	地方の活力	1
25	地域の特色	41	66	人物の特徴	7	107	地下の倉庫	1

26	普通の家庭	40	67	社会の成員	7	108	婦人の服飾	1
27	事件の背景	39	68	勢力の均衡	7	109	環境の領域	1
28	生活の実態	38	69	個人の感想	7	110	精神の支柱	1
29	常識の範囲	37	70	生存の危機	7	111	具体の事例	1
30	医療の現場	37	71	感情の問題	6	112	具体の問題	1
31	普通の女性	37	72	各種の方法	6	113	社会の話題	1
32	技術の水準	35	73	数学の成績	6	114	関心の程度	1
33	普通の状態	35	74	外交の成果	6	115	健康の程度	1
34	法律の目的	32	75	効率の問題	6	116	固定の資金	1
35	技術の成果	32	76	前半の部分	6	117	個人の印象	1
36	音楽の才能	25	77	面積の大小	6	118	最新の療法	1
37	世界の工場	25	78	職場の女性	6	119	個人の習慣	1
38	歴史の舞台	23	79	最大の責任	6	120	中年の作家	1
39	実際の年齢	22	80	今日の話	6	121	金属の武器	1
40	人生の目標	21	81	博士の論文	5	122	定期の収入	1
41	政治の実権	20	82	熱帯の森林	5	123	青年の男女	1

### 3.1.3 日本語、中国語母語話者の判断テストによる日本語名詞句の抽出

本節では、日本語教育専攻の日本語母語話者（6名）に表2で示した日本語名詞句（N1+の+N2）における「の」が必要であるかについて、また、表2の日本語名詞句（N1+の+N2）を中国語の名詞句（N1+N2）に翻訳し、中国語専攻の中国語母語話者に「N1+N2」における「的」が不要であるかについて判断テスト<sup>9</sup>を行った。この二つのテストの結果に基づき、本研究の分析対象となる日本語名詞句を、表2から抽

<sup>9</sup> 中国のアンケート調査用ウェブサイト問巻星 (<https://www.wjx.cn>) を使用し、個別に回答してもらった。各質問紙では、質問項目がランダムな順番で提出された。指示文は以下のようである。  
日本語の指示文：以下の名詞句を見ながら、「の」を入れるか、入れないかを直感に従ってできるだけ早く判断してください。一度判断したら、前に戻ることができません。中国語の指示文：请根据自己的直觉快速判断以下各个名词句是否加“的”。判断结束后请往下进行同样的问题不能重复判断。

出した。その詳細な内容は以下、図 5 で示した「公共の場所」を例として説明する。

「公共の場所」という名詞句では、日本語母語話者は 4 人以上が「の」が必須であると回答し、中国語の名詞句「公共场所」においては、中国語母語話者は同じように 4 人以上が「的」が不要であると回答したら、「公共の場所」は本研究での分析対象となる名詞句として抽出する。

日本語名詞句における「の」有無の判断 「公共の場所」	汉语名词句中「的」的有无判断 「公共场所」
A. 「の」は常に必要である。	A. 通常加「的」。
B. 「の」は常に不要である。	B. 通常不加「的」。
C. 「の」は入っても入らなくてもよい。	C. 分使用场景，加不加都可以。

図 5 日本語母語話者、中国語母語話者における「の」、「的」の判断テスト

上記の手順を元に、『BCCWJ』と『CCL』のコーパス対照調査、及び日本語母語話者による日本語の「の」、中国語母語話者による中国語の「的」の判断テストを行い、抽出した、本研究における分析対象となる名詞句は以下、表 3 に示す。

表 3 日中言語コーパス及び日中の母語話者の文法性判断テスト

による日本語名詞句の抽出 (31 個)<sup>10</sup>

番号	名詞句	頻度	番号	名詞句	頻度
1	言論の自由	106	17	政治の実権	20
2	家庭の主婦	71	18	最新の状態	17
3	個人の問題	56	19	人物の性格	13
4	公共の場所	45	20	梅雨の季節	12
5	政治の中心	44	21	英語の成績	8
6	生命の危機	42	22	生存の危機	7
7	影響の程度	42	23	個人の感想	7
8	地域の特色	41	24	数学の成績	6
9	普通の家庭	40	25	今日の話題	6
10	常識の範囲	37	26	話題の人物	4
11	普通の女性	37	27	体育の成績	4
12	法律の目的	32	28	音楽の成績	2
13	音楽の才能	25	29	地域の風景	2
14	歴史の舞台	23	30	精神の支柱	1
15	実際の年齢	22	31	社会の話題	1
16	人生の目標	21	頻度の平均値		26

表 3 から分かるように、日本語、中国語のコーパスの対照調査、日本語母語話者及び中国語母語話者による判断テストによって表 2 から抽出した日本語では「の」が必要であり、中国語では「の」が不要な日本語の名詞句は 31 個である。これらの名詞句の頻度の平均値は 26 となる。

<sup>10</sup> 表 3 では、グレーとなる部分は本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句から外す。その理由は 3.2.2 で示す。

## 3.2 本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句の抽出

### 3.2.1 日本語の名詞句における N1、N2 頻度の頻度を統制しない理由

これまでの研究では、単語の頻度、親密度の効果を検討した際に、単語の頻度の高低、親密度の高低はテストに与える影響が異なると示されている (Takahashi 2005)。以上のことを踏まえ、本研究では、日本語名詞句の頻度の高低、CLJ による日本語名詞句の親密度の高低は CLJ による「の」の脱落に与える影響も異なる可能性があると思われる。それで、本研究で分析対象となる日本語名詞句は高頻度日本語名詞句、低頻度日本語名詞句、CLJ による高親密度日本語名詞句、CLJ による低親密度日本語のように分ける。本研究では、高頻度、低頻度の日本語名詞句の分け方は以下のよう示す。

表 3 で示した日本語名詞句 (31 個) の頻度の平均値を用いて高頻度、低頻度を分ける。頻度の平均値 26 より高い場合、高頻度名詞句と、低い場合、低頻度名詞句とする。表 3 の名詞句の頻度を以下、表 4 のように、高頻度名詞句、低頻度名詞句ケースに分ける。

表 4 表 3 における高頻度及び低頻度の日本語名詞句 (31 個)

高頻度の名詞句ケース (12 個)	低頻度の名詞句ケース (19 個)
言論の自由、家庭の主婦、個人の問題、公共の場所、政治の中心、生命の危機、影響の程度、地域の特色、普通の家庭、常識の範囲、普通の女性、法律の目的	音楽の才能、歴史の舞台、人生の目標、政治の実権、最新の状態、実際の年齢、人物の性格、梅雨の季節、英語の成績、生存の危機、個人の感想、数学の成績、今日の話、体育の成績、話題の人物、音楽の成績、地域の風景、精神の支柱、社会の話題

また、単語の頻度・親密度の先行研究においては、姚 (2018) による慣用句とい

う句レベルの親密度の統制もあれば、天野・近藤（2000）、松島（2009）などによる単語ごとの頻度・親密度の統制もあった。それに基づき、CLJによる「の」の脱落を見るには、名詞句ごとの頻度、CLJによる名詞句ごとの親密度だけではなく、名詞句における N1、N2 の頻度、CLJ による各 N1、各 N2 の親密度も統制する必要があるだろうと思われる。

それゆえ、本研究では、名詞句項目を抽出した際に、高頻度、低頻度の日本語名詞句（表 4）における各 N1、N2 の頻度を中納言で検索した。各名詞句頻度及びその中の N1、N2 の頻度に対して統制作業も表 5 のような 8 パターンに分けて行った。

表 5 高・低頻度の日本語名詞句における名詞 1、名詞 2 の頻度<sup>11</sup>パターン

高頻度名詞句ケースにおける N1、N2 の頻度パターン		低頻度名詞句ケースにおける N1、N2 の 頻度パターン	
N1（頻度）	N2（頻度）	N1（頻度）	N2（頻度）
高	高	高	高
高	低	高	低
低	高	低	高
低	低	低	低

表 5 の分類に基づいた抽出の結果を以下、表 6（各高頻度日本語名詞句における名詞ごとの頻度パターン 4 個）、表 7（各低頻度日本語名詞句における名詞ごとの頻度パターン 4 個）に示す。

<sup>11</sup> 検索に基づき、名詞の頻度は 10000 個を超える場合、高頻度名詞と、10000 個以下の場合、低頻度名詞とする。

表 6 各高頻度の日本語名詞句における N1・N2 ごとの頻度

高頻度名詞句	N1（頻度）	N2（頻度）	N1・N2 の頻度高低
法律の目的	法律（15876）	目的（20497）	N1 高・N2 高 (7 件)
普通的女性	普通（16844）	女性（33023）	
政治の中心	政治（17440）	中心（20922）	
公共の場所	公共（10064）	場所（25935）	
影響の程度	影響（18785）	程度（20808）	
普通の家庭	普通（16844）	家庭（13307）	
個人の問題	個人（17897）	問題（71467）	
地域の特色	地域（39643）	特色（1363）	N1 高・N2 低（2 件）
家庭の主婦	家庭（13307）	主婦（2800）	
言論の自由	言論（558）	自由（19550）	N1 低・N2 高（1 件）
生命の危機	生命（6201）	危機（5133）	N1 低・N2 低（2 件）
常識の範囲	常識（3313）	範囲（9227）	

表 6 から、高頻度名詞句ケースでは、N1 かつ N2 の頻度が高い名詞句数は 7 件、N1 の頻度が高く、N2 の頻度が低い名詞句数は 2 件、N1 の頻度が低く、N2 の頻度が高い名詞句数は 1 件、N1 かつ N2 の頻度が低い名詞句数は 2 件であることが分かった。



表 7 各低頻度の日本語名詞句における N1・N2 ごとの頻度<sup>12</sup>

低頻度名詞句	N1 (頻度)	N2 (頻度)	N1・N2 の頻度高低
—	—	—	N1 高・N2 高 (0 件)
個人の感想	個人 (17897)	感想 (2584)	N1 高・N2 低 (11 件)
今日の話題	今日 (36178)	話題 (5031)	
世界の潮流	世界 (42915)	潮流 (455)	
社会の話題	社会 (49042)	話題 (5031)	
地域の風景	地域 (39643)	風景 (4090)	
精神の支柱	精神 (15012)	支柱 (354)	
歴史の舞台	歴史 (15659)	舞台 (5631)	
政治の実権	政治 (17440)	実権 (273)	
音楽の才能	音楽 (11144)	才能 (2068)	
音楽の成績	音楽 (11144)	成績 (3289)	
人生の目標	人生 (11157)	目標 (9555)	
最新の状態	最新 (2519)	状態 (25381)	N1 低・N2 高 (1 件)
数学の成績	数学 (2628)	成績 (3289)	N1 低・N2 低 (7 件)
体育の成績	体育 (3454)	成績 (3289)	
英語の成績	英語 (8146)	成績 (3289)	
人物の性格	人物 (8387)	性格 (8900)	
生存の危機	生存 (1634)	危機 (5133)	
梅雨の季節	梅雨 (1100)	季節 (4485)	
話題の人物	話題 (5031)	人物 (8387)	

表 7 から、低頻度名詞句ケースでは、N1 かつ N2 の頻度が低い名詞句数は 0 件、N1 の頻度が高くて、N2 の頻度が低い名詞句数は 11 件、N1 の頻度が低くて、N2 の頻度が高い名詞句数は 1 件、N1 かつ N2 の頻度が低い名詞句数は 7 件であることが分かつ

<sup>12</sup> 「—」はないという意味を表す。

た。

以上、表 6、7 から分かったことをまとめると、高頻度、低頻度名詞句ケースでは、N1、N2 の 4 つの頻度のパターンにおける名詞句の数（例えば、低頻度における N1 高・N2 高の名詞句数は 0 件であるのに対して、N1 高・N2 低の名詞句数は 11 個である）は均等ではない為、各名詞句における名詞ごとの頻度は統制し難いことが分かった。

また、今までの先行研究から分かるように、学習者による単語や慣用句の親密度はそれぞれ異なる。そのため、高頻度、低頻度名詞句ケースと同じように、CLJ による高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句ケースにおける N1、N2 の 4 つの親密度パターンにおける名詞句の数は必ずしも均等ではないと推測できるだろう。

ここから、各名詞句且つ各名詞句における N1、N2 の頻度且つ N1、N2 の親密度三者を同時に統制することには限界があることが分かった。それゆえ、本研究では、日本語の名詞句ごとの頻度、親密度のみを統制することにした。

### 3.2.2 本研究の分析対象となる高、低頻度名詞句の抽出基準

本研究の分析対象となる高、低頻度名詞句の抽出基準は以下 1、2 のように示す。

1. 高頻度、低頻度の分け方は 3.2.1 で示した方法と同じように、表 3 で示した日本語名詞句の頻度の平均値を用いる。頻度の平均値 26 より高い場合、高頻度名詞句と、低い場合、低頻度名詞句とする。
2. 同じ頻度ケース（高頻度名詞句ケース、低頻度名詞句ケース）における各名詞句の N1 又は N2 が同じ名詞ではない名詞句を抽出する。N1 又は N2 が同じ名詞である場合、その名詞からなる名詞句の頻度は同頻度の名詞句がなければ、本研究の分析対象となる名詞句として使用する。そうではない場合、除外する。例えば、「英語の成績（8 個）」、「数学の成績（6 個）」、「音楽の成績（2 個）」、「体育の成績（4 個）」では、「...の成績」という「...の N2」の形が入っている。これらの名詞句は同じ頻度を持っている名詞句「今日の話（6

個)」、「話題の人物(4個)」、「地域の風景(2個)」があるため、本研究の分析対象となる名詞句から外す。「今日の話(6個)」、「話題の人物(4個)」、「地域の風景(2個)」は本研究の分析対象となる名詞句として使用する。その理由は以下の①、②が挙げられる。

- ① 名詞句における N1 又は N2 が同じである場合、考察する際に、個別の名詞の頻度の考察になる可能性があるため、各名詞句の頻度と CLJ による「の」の脱落との関係を検索するという本研究の意図とずれている。
- ② 各名詞句頻度の高低は CLJ による「の」の脱落に与える影響を検討する為、高頻度名詞句、低頻度名詞句ケースにおける同頻度の名詞句を複数使用するより、頻度ではバラツキがある名詞句を使用したほうがよいだろう。なぜなら、同じケースにおける日本語名詞句は頻度の高低が CLJ による「の」の脱落に与える影響が見られるからである。

ただ、上記の基準 1 に従って分類した高頻度日本語名詞句ケースでは、「普通の女性」、「普通の家庭」のような、「普通の…」である「N1 の…」の形も入っているのである。しかし、高頻度の名詞句は合わせて 12 個しかいないため、それを今の段階では削除すると、高頻度日本語名詞句における CLJ の高低親密度名詞句の抽出に影響を与えてしまう可能性があると思われる。それゆえ、CLJ によるこの 2 つの名詞句の親密度を踏まえた上で、本研究の分析対象となる高低親密度の名詞句の抽出基準に従って抽出していくことにした。

以上のことに基づき、日本語名詞句(31 個)から本研究の分析対象となる高頻度、低頻度の日本語名詞句(28) 個を抽出し、以下、表 8 のように示す。また、この 2 ケースの名詞句頻度について  $t$  検定を行った結果、高頻度日本語名詞句と低頻度日本語名詞句の頻度数の間には有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

表 8 本研究の分析対象となる高頻度及び低頻度の日本語名詞句（28 個）

高頻度の名詞句ケース（12 個）	低頻度の名詞句ケース（16 個）
<p>言論の自由、家庭の主婦、個人の問題、 公共の場所、政治の中心、生命の危機、 影響の程度、地域の特色、普通の家庭、 常識の範囲、普通の女性、法律の目的</p>	<p>音楽の才能、歴史の舞台、人生の目標、 政治の実権、最新の状態、実際の年齢、 人物の性格、梅雨の季節、英語の成績、 生存の危機、個人の感想、今日の話題、 話題の人物、地域の風景、精神の支柱、 社会の話題</p>

## 4. 日本語名詞句における CLJ による親密度、「の」の文法性判断テ

### スト・読み上げテスト

#### 4.1 調査協力者

本調査は要因統制のため、調査協力者は中国語を母語とする日本語学習者（以下 CLJ とする）に限定した。また、全員が日本国内の日本語学校、大学又は大学院に在籍している上級レベルの日本語学習者である。上級の基準は、日本語能力試験 1 級（N1）に合格で点数が 120 点以上、且つ SPOT90 が 80 点以上、且つ日本語での滞在歴が 1.5 年以上とした。調査協力者は全 30 名<sup>13</sup>である。被調査者の詳細情報は表 9 に示す（番号、性別、日本語学歴、過去の日本語能力試験の結果、SPOT 結果の高い順）。

---

<sup>13</sup> 調査協力が得られた CLJ は 37 名であったが、そのうち、7 名は SPOT90 が 80 未満であるため、分析対象者外とした。

表 9 調査協力者の情報

名前	性別	所属-専攻	学習歴	在日期間	N1	SPOT90
CLJ001	女	大学院-日本語教育	9 年	5 年	120	87
CLJ002	女	大学院-社会学	5.6 年	3.5 年	136	81
CLJ003	男	大学院-心理学	4.2 年	4 年	115	80
CLJ004	女	大学-SD 研究科	4 年	3 年	126	82
CLJ005	女	大学院-健康科学研究科	7 年	3 年	144	80
CLJ006	女	大学院-日本文学	4 年	2.5 年	125	83
CLJ007	女	大学院-日本語教育	6 年	2 年	155	80
CLJ008	女	大学院-心理学	9 年	4 年	142	85
CLJ009	女	大学院-教育学	6 年	2 年	153	84
CLJ010	女	大学院-日本語教育	6 年	2 年	121	82
CLJ011	女	大学院-システムデザイン	6 年	6 年	165	85
CLJ012	女	大学-都市環境科学	4 年	2 年	124	81
CLJ013	女	日本語学校-日本語	5.6 年	1.5 年	129	84
CLJ014	男	大学-生命科学	4 年	3 年	122	80
CLJ015	男	大学院-日本歴史	9 年	6 年	118	83
CLJ016	女	大学院-日本語教育	9 年	6 年	128	88
CLJ017	女	大学-法学部	7 年	2 年	124	80
CLJ018	男	大学-経営学	7 年	4.5 年	137	83
CLJ019	女	大学院-日本語教育	7 年	3 年	123	80
CLJ020	女	大学院-日本語教育	5 年	2 年	153	85
CLJ021	男	大学院-日本語教育	6.3 年	3 年	120	81
CLJ022	女	大学院-経済学	4 年	2.5 年	125	80
CLJ023	女	大学院-日本語学	6 年	4 年	132	82
CLJ024	男	大学-建築学科	5 年	2 年	121	83
CLJ025	女	大学院-日本語教育	6 年	4 年	124	81
CLJ026	男	大学院-理学研究科	4.6 年	3 年	139	84
CLJ027	女	大学院-日本語教育	4 年	3 年	160	88
CLJ028	女	大学院-日本文学	7 年	3 年	132	82
CLJ029	女	大学院-音楽教育	5 年	3.5 年	168	86
CLJ030	女	大学院-日本語教育	8 年	6 年	143	85

奥野・金（2010）では、『KY コーパス』における英語・韓国語・中国語のデータを分析した結果、中級、上級では、母語に関わらず「の」の脱落が生じていることが示されている。上級では、中国語母語話者による「の」の脱落は韓国語、英語母語話者と比べて多い傾向にあり、超級では、英語母語話者には「の」の脱落はみら

れないが、韓国語母語話者と中国語母語話者には見られていることから、言語転移の可能性が示されている。中級の段階では、日本語の習熟度がまだ高くなく、文法や語彙の自動化がまだできていないため、どの母語においても「の」の脱落を起こすことは容易に想像し得る。しかし、上級、超級になって一定の言語能力を備えているはずであっても CLJ による「の」の脱落が起きることについては、母語の影響の可能性が拭い去れない。上級以上のレベルにおいて、母語の影響がどのような形でどのように働いているかを明らかにするため、本研究では上級レベル以上の CLJ を調査対象とした。

## 4.2 調査時期

本調査は 2019 年 10 月下旬から 11 月中旬までの間に実施した。

## 4.3 調査目的

CLJ による日本語名詞句における「の」の脱落要因が何であるか、特に日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と CLJ による「の」の脱落要因と関連があるかどうか、またどのような関連があるかを明らかにすることが本研究の目的である。そのために以下 (1)、(2) を検討する。

- (1) CLJ による日本語名詞句における「の」の脱落は日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と関連があるか。
- (2) 日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と関連がある場合、どのような関連があるか。
  - ① 両方とも関連があつたら、日本語名詞句の頻度高×CLJ による日本語名詞句の親密度高、日本語名詞句の頻度高×CLJ による日本語名詞句の親密度低、日本語名詞句の頻度低×CLJ による日本語名詞句の親密度高、日本語名詞句の頻度低×CLJ による日本語名詞句の親密度低の場合、CLJ による「の」の

脱落はどのようにになっているか。

- ② 日本語名詞句の頻度又は CLJ による日本語名詞句の親密度のいずれかとのみ関連がある場合、日本語名詞句の頻度が高及び低の場合、又は CLJ による日本語名詞句の親密度が高及び低の場合、CLJ による「の」の脱落はどのようにになっているか。

#### 4.4 調査方法

本研究では、4.3 の調査目的を明らかにするため、上級レベルの CLJ (30 名) に知識レベルの文法性判断テストと産出レベルの読み上げテストを実施した。また、CLJ による日本語名詞句の親密度調査も行った。更に、調査終了後の一週間、読み上げテストの結果に基づき、その中の 3 名<sup>14</sup>を対象に、5 分～10 分程度のフォローアップインタビュー調査を中国語で実施した。また、考察に際して、その他の 4 名<sup>15</sup>を対象に、5 分程度の追加フォローアップインタビュー調査を中国語で実施した。詳細内容（和訳付き）は章末の添付資料に添付している。以下、文法性判断テストと読み上げテストを使用した理由を述べる。

「の」の脱落の要因を明らかにすることが本研究の目的であるため、CLJ に日本語名詞句を産出させるため、産出活動に絞って調査方法を考えた。

産出活動には「書くこと」と「話すこと」があり、CLJ による「の」の脱落を調べた先行研究では、使用された方法が大きく分けて書くレベルの調査と発話レベルの調査ある。書くレベルの調査では、作文データベースを用いた松田ほか（2006）と中日対訳法を使用した張（2011a）があり、話すレベルの調査では、KY コーパスのデータを使った奥野・金（2010）がある。

<sup>14</sup> 本研究では、親密度調査、読み上げテスト、文法性判断テストを実施した一週間後、処理できた読み上げテストの結果に基づき、CLJ にフォローアップインタビュー調査を実施した。中では、「の」をほぼ脱落しなかった CLJ1（24 個正しく産出した）、それほと脱落していなかった CLJ10（18 個正しく産出した）、脱落した CLJ29（11 個しか正しく産出しなかった）の 3 名を対象に、5 分～10 分ぐらいのフォローアップインタビュー調査を行った。

<sup>15</sup> 2019 年 12 月の下旬、結果分析を行い、文法性判断テストと読み上げテストを比較し際に、疑問があるところを確認するために、上記の 3 名と、その他の 4 名ぐらいの調査協力者に 5 分ぐらいの追加インタビュー調査を行った。



書くレベルの調査について、作文データベースと中日対訳法調査の問題点が以下のように挙げられる。作文データベースを使用する場合、CLJ が産出した部分しか見えないため、CLJ による「の」の脱落の全体的な傾向が見られない。また、中日対訳法を用いて調査する場合には、中国語のある言葉を日本語で表す際に、異なる表記で表す可能性がある。漢字と漢字の間に CLJ による「の」の脱落が生じるかを調べるためにこの方法を用いた場合、CLJ に産出させたい語が産出されない可能性がある。例えば、中国語の「铅笔芯（鉛筆の芯）」を日本語に翻訳すると、「鉛筆の芯/シャーペンの芯」と翻訳できるので、「鉛筆」が産出されない可能性がある。

話すレベルの調査では、作文データベースと同様に、『KY コーパス』においても、CLJ が産出した部分の「の」の脱落状況しか見えないことが問題点といえる。

読み上げテストは産出活動における一つの方法であり、日本語教育研究では、主に漢字単語処理の過程を検討する際に使われている。決まった文や単語を学習者に読み上げてもらうため、自然なアウトプットではないが、書くレベルの調査方法と比較すると、考える時間が少なく、ある程度即時的な処理が求められており、CLJ による、文の中における分析対象となる名詞句の「の」の脱落状況が見られるだろう。それゆえ、本研究では CLJ による「の」の脱落状況を見るために、読み上げテストを用いた。

花井（2018）では、ある二つの課題における日本語学習者による条件表現「と」の使用差異を分析した際に、知識として理解しているものの、自動化にまでは至っておらず発話では産出されていないことがあると指摘し、知識と産出の関係を示している。

また、今までの先行研究では、「の」の脱落要因として母語の影響、置き換えストラテジー、複合語ルール不明などを取り上げている研究が多数である。しかし、その「の」の脱落は CLJ による日本語名詞句における「の」の用法という知識面と関係があるかは検討されていない。「の」の脱落が CLJ による日本語名詞句における「の」に関する知識が不足しているためであるのかどうか、産出レベルだけではなく、CLJ による日本語名詞句における「の」に関する知識レベルの調査も行う必要がある。文法性判断テストは調査協力者に与えられた文が文法的に容認できるか否

かを判断させるものであり、学習者の直感的な知識を測定できるものと考えられる。

以上の理由により、本研究では、読み上げテストと文法性判断テストの 2 つを用いて調査を行った。

## 4.5 調査内容

### 4.5.1 文法性判断テストと読み上げテストの構成及び実施内容

#### ・文法性判断テストと読み上げテストの構成内容

本研究では、第 3 章で抽出した高頻度名詞句ケース（12 個）及び低頻度名詞句ケース（16 個）を用いて文法性判断テスト（28 問、そのうち、正用判断問題<sup>16</sup>（12 問）・誤用判断問題<sup>17</sup>（16 問））と読み上げテストのそれぞれの調査問題<sup>18</sup>（28 問）を作成し、また調査協力者が日本語名詞句における「の」の脱落に関する調査だと意識しないよう、ダミー問題（6 問）<sup>19</sup>を挿入した。また、両テストとも以下の点に留意して作成した。

- ① CLJ の知識レベルと産出レベル間の違いを明らかにするために、文法性判断テスト（28 問）と読み上げテストにおける調査問題（28 問）という部分の内容を同様の設定にした（図 6、図 7 参照）。
- ② 両テストにおける各調査問題の語彙レベルと文の難易度レベルは jReadability<sup>20</sup>によってチェックし、上級前半レベル以内に抑えられるように調整した。
- ③ 文法性判断テスト（34 問）、読み上げテスト（34 問）では、問 6、11、17、23、29、34 をダミー問題に設定した。また、両テストとも問題数が多いため、カウンター

<sup>16</sup> 正用判断問題とは、調査対象となる名詞句が正しい形式で提示されるものである。

<sup>17</sup> 誤用判断問題とは、調査対象となる名詞句が正しくない形式で提示されるものである。

<sup>18</sup> 文法性判断テストと読み上げテストの調査問題で使用される文章は主に『BCCWJ』、『CCL』、インターネットのサイトから抽出し、文法や文脈の正しさを日本語母語話者（4 名）に判断してもらった。また、中国語では名詞句に「的」が入るかどうか文脈に作用しやすい為、作った調査項目を中国語版でも作成し、中国語母語話者に文脈影響の有無を判断してもらった。

<sup>19</sup> 文法性判断テストと読み上げテストはそれぞれ異なるダミー問題を入れた。

<sup>20</sup> 日本語文章難易度判別システムであり、日本語文章テキストを入力すると、その難易度を 6 段階（初級前半、初級後半、中級前半、中級後半、上級前半、上級後半）で判定する。詳細な語彙情報を出力したり、テキストに含まれる語句の意味や用法を表示したりする機能もある。

使用 URL : [https://jreadability.net/sys/terms\\_of\\_use?lang=ja](https://jreadability.net/sys/terms_of_use?lang=ja)

バランスを取るために、そのうち、ダミー問題を除いた調査問題の 28 問をランダムに入れ換えたものを 2 種類（文法性判断テスト A 版・読み上げテスト A 版、文法性判断テスト B 版・読み上げテスト B 版）として作成した。両テストにおける構成内容の詳細は以下、表 10 に示す。

表 10 文法性判断テストと読み上げテストの構成

内容 テスト	調査問題	ダミー問題	合計
産出テスト (A、B 版) 順番 1	28 問	6 問	34 問
文法性判断テスト (A、B 版) 順番 2	28 問 (正用問題 12 個、 誤用問題 16 個)	6 問	34 問

・文法性判断テスト、読み上げテストの内容

本研究では、CLJ による日本語の名詞句修飾としての「の」の知識有無、CLJ による日本語の名詞句修飾の脱落状況を把握するには、以下、文法性判断テスト（図 6）、読み上げテスト（図 7）を使用する。詳細な内容を以下のとおりである。

以下の文を読みながら、下線の部分の形式を判断してください。正しいと思ったら、○を、正しくないと思ったら、✕を付けてください。一度判断してから前に戻ることはできません。

例：1. 私は卒業したら、大学の先生になりたい。（○）

2. こんなに美味しい料理を食べられるのは初めてだよ。（✕）

1. 無駄なお金を使って塾に通わなくても、英語の成績を上げる方法があるだろう。

2. 数年間、校長先生をしていた彼は言論自由がなければ生徒の幸せもないと言った。

図 6 文法性判断テストの内容

文法性判断テストの調査問題作成に際しては、以下 A、B、C に留意した。

A. 文法性判断テストにおける調査問題 28 問における正用判断問題（12）と誤用判断問題（16）の設定について

文法性判断テストにおける調査問題 28 問は正用判断問題（12）と誤用判断問題（16）の 2 種類<sup>21</sup>で構成されている。日本と中国でよく使われる日本語の教科書における名詞修飾の「の」の用法に関する解説、及び本研究における調査対象者の日本語レベル・学習歴・滞在歴を総合的に考えた上で、文法性判断テストの調査問題を正用判断問題と誤用判断問題に設定した。その詳細な理由は以下ようになる。

まず、日本と中国でよく使われる教科書における名詞修飾としての「の」に関する解説<sup>22</sup>を概観し、分かったことを以下のようにまとめた。

- ・日本の教科書：『みんなの日本語（2003）』の第 1、2、3、10 課における名詞修飾としての「の」の解説詳細な解説は書かれていないが、「の」に関する用法（属性、所属、産地、位置関係）が挙げられている。

<sup>21</sup> 詳細は注釈の 13、14 を参照。

<sup>22</sup> 解説の部分は著者が中国語から直訳したものである。

① 第1課（属性を表す用法）

例文：私は日本語の先生です/この方は中国の陳さんです。

② 第2課（所属を表す用法）

例文：これはあなたの傘ですか、羅タナーさんの傘ですか。

③ 第3課（産地を表す）

例文：それはどこの靴ですか。—イタリアの靴です。

④ 第10課（位置を表す）

例文：郵便局はどこにありますか。—駅の近くです。銀行の前にあります。

『みんなの日本語（2003）』では、「の」の用法の例文を挙げる際に、中国語の名詞句（N1+的+N2）と同じように、「N1+の+N2」という形を用いて解説することが多いことがわかった。

- ・中国の教科書：『標準日本語（2010）』、『総合日本語（2009）』、『新編日本語（2009）』

(1) 『標準日本語（2010）』における名詞修飾としての「の」の解説

① 第1課：甲の乙

「の」（助詞）名詞と名詞を繋ぐ。二つの名詞の間関係は複雑である。ここでは、「乙が甲に属する」という関係を持つ。この「の」は一般的に中国語の「的」に相当する。

例文：田中さんは旅行社の社員です。

② 第2課：甲の乙

第1課の「甲の乙」と違って、他の意味にも使われる。「の」の組み合わせは同じだが、それぞれ異なる意味を表しているため、二つの名詞の関係から判断する必要がある。また、「乙」の内容が分かる場合、それを省略して「甲の」という形になる。名詞と名詞を繋ぐ際、中国語の場合、「的」がつかないときがあるが、日本語の場合には大体付く。

例文：あれは日本の新聞です。

(2) 『総合日本語（2009）』における名詞修飾としての「の」の解説

第5課

格助詞である「の」は名詞の後に付き、連体修飾として名詞を修飾する。所属、属性などを表す。中国語の「の」に相当する。

例文：高橋さんは京華大学の学生です。

(3) 『新編日本語（2009）』における名詞修飾としての「の」の解説

第2課

日本語の名詞と名詞を繋ぐ際には大体「の」を使用する。「の」は格助詞で名詞や代名詞の後に付き、またその後に来る名詞を限定する。具体的に所属、所有、時間、状態などを表す。中国語の「的」に相当する。

例文：歴史の本

以上、日本と中国でよく使われている教科書から名詞修飾としての「の」の用法に関する詳細の説明が少ないこと、また、名詞と名詞を繋ぐ際に使うという解説が一般的であることがわかった。

このように、教科書から学んだ不十分な知識に基づく名詞修飾としての「の」の用法に対するステレオタイプ（二つの名詞を繋ぐ時に使う）と、本研究における調査対象者の日本語レベル・学習歴・滞在歴などを総合的に考慮すると、調査問題（28問）を全て正用判断の形で提示すると CLJ にとって回答しやすくなりテストの妥当性に影響を与える可能性があると考えられる。それを避ける為に、文法性判断テストでは、正用判断と誤用判断の調査問を両方とも設定した。

B. 文法性判断テストにおける正用判断と誤用判断の問題数についての設定

文法性判断テストにおける正用判断と誤用判断の問題数については、以下に基づき設定した。言語習得において、言語知識はその産出と繋がることが多いと考えられている。本研究の調査問題が既習名詞句か未習名詞句であるかは、文法性判断テスト及び読み上げテストの結果に影響を与えると考えられる。ある名詞句項目が CLJ にとって未習名詞句の場合、その未習名詞句を文法性判断テストにおける正用問題

に設定すると、上記の A に示した要素の影響により CLJ は文法性判断テストに正しく答えられるため、その知識を持っていると判断されてしまう。しかしながら、産出の読み上げテストで、未習の名詞句が正しく答えられない場合には、CLJ がその知識を本当に持っているか自体は判断しにくくなるという問題が生じるだろう。

その一方、未習名詞句を文法性判断テストにおける誤用判断問題に設定すると、文法性判断テストと産出の読み上げテストでは、両方とも正しく答えられる場合、その知識を持っていると判断でき、両方とも正しく答えられない場合、その知識を持っていないか、その知識を持っているがまだ自動化できていないと判断できる。このように、文法性判断テストと産出レベルの読み上げテストの結果を比較することによって、CLJ によるその未習名詞句における「の」の用法の知識面を判断できる。

それゆえ、本研究では、調査問題は既習名詞句か未習名詞句かを区別して作成する。具体的には、正用判断問題には既習名詞句を、誤用判断問題には未習名詞句を使用する。

第二言語を習得する際には、学習者は様々の経路によりインプットを受けており、また、受けたインプットの質と量には個人差がある。その為、全ての要素を統制し、どの名詞句が CLJ にとって既習名詞句か、あるいは未習名詞句かを判断していくのは難しい。一方、多くの先行研究では言語の習得は学習者が使用した教科書の影響と切り離せない関係があるとして示されている。そこで、本研究では、日本と中国でよく使われている日本語の教科書（『みんなの日本語（2003）』、『総合日本語（2009）』、『標準日本語 2010』、『新編日本語（2009）』）を用いて、調査項目となる 28 個の名詞句を既習名詞句、未習名詞句の 2 種類に分類した。

本研究における既習名詞句と未習名詞句は、以下のように定義する。

既習名詞句：調査項目の名詞句（28 個）における、ある名詞句（N1+の+N2）、その名詞句における「N1+の...」、「...+の N2」のいずれかが上記の 4 つの教科書で同時に出現する場合、既習名詞句とする。

既習名詞句の定義に、4 つの教科書で同時に出現するという条件を含む理由は、CLJ が日本語を学んだ際に使用した教科書は全て同じではない可能性が高いためである。その名詞句が 4 つの教科書では出現しないと、ほとんどの学習者にとって既習した

名詞句だとは言えず、テストの結果に影響を与える可能性があることが考えられる。

また、既習名詞句に名詞句 (N1+の+N2) だけではなく、「N1+の...」、「...+の N2」も含む理由は以下の通りである。

奥野・金 (2010) では、KY コーパスにおける英・韓・中国語母語話者について、話者の各レベルの発話における名詞句の「の」の脱落誤用を抜き出し、学習者内の誤用例を分析した。その際、以下のような例から、学習者なりの「置き換え」ストラテジーが言語処理において働いている可能性を取り上げた。

そのとき、日本語学校、また 1 年勉強しました。(○)

最初とき、京阪電車に乗って、あとで、3 ぼんの、バス乗って (✕)

夏とき、1 週間、3 回 4 回 (✕)

これより、学習者は日本語の名詞句を習得する際に、名詞句ごとだけではなく、その中における「N1+の...」、「...の+N2」も同時に習得していることが推測できる。

未習名詞句：既習名詞句の定義に当てはまらないものを未習名詞句とする。

既習名詞句と未習名詞句の実例を以下、表 11 (「今日の話題」、表 12 (生命の危機) を例に説明する。

表 11 「今日の話題」に関する既習名詞句か未習名詞句の判断<sup>23</sup>

教科書 名詞句	『みんなの 日本語』	『総合日本語』	『標準日本語』	『新編日本語』
今日の話題	—	—	—	—
今日の...	○	—	—	○
...の話題	—	○	○	—
判断結果	既習名詞句			

表 11 では、4 つの教科書で「今日の話題」における「今日の...」、又は「...の話題」の形がある為、「今日の話題」という名詞句は本研究では既習名詞句とし、

<sup>23</sup> 表の中に表記された言語形式があれば「○」を、なければ「—」を付ける。



文法性判断テストにおける正用判断問題に使用する。

表 12 「生命の危機」に関する既習名詞句か未習名詞句の判断<sup>24</sup>

教科書 名詞句	『みんなの 日本語』	『総合日本語』	『標準日本語』	『新編日本語』
生命の危機	—	—	—	—
生命の...	—	—	—	—
...の危機	○	—	○	—
判断結果	未習名詞句			

表 12 では、「生命の危機」の名詞句そのものは教科書の中になく、その他の二つの形が 2 つの教科書にしかいないため、本研究では、未習名詞句として扱う。上記の 4 つの教科書における 28 個の名詞句（その名詞句及びその名詞句における「N1+の...」、「...+の N2」）の出現状況を調べた結果の詳細を、表 13 に示す。

<sup>24</sup> 注釈 19 と同様である。

表 13 教科書における 28 個名詞句（N1 の、の N2 も含む）の出現状況<sup>25</sup>

国 教科書 名詞句	日本	中国			
	『みんなの 日本語』	『総合 日本語』	『標準 日本語』	『新編 日本語』	既習 (●) 未習 (✕)
言論の自由	—	「の自由」 第 3 冊 P. 25	—	—	✕
家庭の主婦	「家庭の」 中級 2 P. 154	—	「家庭の主婦」 中級上 P. 175	「家庭の」 第 3 冊 P. 22	✕
個人の問題	「の問題」 中級 1 P. 34	「個人の」 第 2 冊 P. 232	「個人の」 上級上 P. 35	「個人の」 第 2 冊 P. 82	●
個人の感想	「の感想」 中級 2 P. 103	「個人の」 第 2 冊 P. 232	「個人の」 上級上 P. 35	「個人の」 第 2 冊 P. 82	●
公共の場所	「の場所」 初級 2 P. 7	「の場所」 第 3 冊 P. 11	「の場所」 上級上 P. 25	「公共の 場所」第 3 冊 P. 48	●
政治の中心	「政治の」 初級 1 P. 177	「政治の中 心」 第 3 冊 P. 153	「政治の」 上級下 P. 3	「政治の 中心」第 2 冊 P. 336	●
政治の実権	「政治の」 初級 1 P. 177	「政治の」 第 3 冊 P. 153	「政治の」 上級下 P. 3	「政治の」 第 2 冊 P. 336	●
生命の危機	「の危機」 中級 2 P. 144	—	「の危機」 中級下 P. 332	—	✕
生存の危機	「の危機」 中級 2	—	「の危機」 中下級	—	✕

<sup>25</sup> 『みんなの日本語』（初級 1、初級 2、中級 1、中級 2）の 4 冊、『総合日本語』（第 1 冊、第 2 冊、第 3 冊、第 4 冊）の 4 冊、『標準日本語』（初級上、初級下、中級上、中級下、上級上、上級下）の 6 冊、『新編日本語』（第 1 冊、第 2 冊、第 3 冊、第 4 冊）の 4 冊を調査した。ある名詞句はある教科書では出現しない場合、「—」で表記し、出現した場合、出現の形（名詞句か、N1 のか、の N2 か）、出現の教科書及びページ数を表 16 に明記されている。また、「●」はある名詞句（N1 の、の N2）が全ての教科書で出現しているから、既習名詞句を表す。「✕」は既習名詞句の条件にふさわしくない為、未習名詞句の意味を表す。

	P. 144		P. 332		
影響の程度	—	—	—	—	×
地域の特色	「地域の」 中級 2 P. 130	「地域の」 第 1 冊 P. 165	「地域の」 上級上 P. 6	「地域の」 第 4 冊 P. 26	●
地域の風景	「地域の」 中級 2 P. 130	「地域の」 第 1 冊 P. 165	「地域の」 上級上 P. 6	「地域の」 第 4 冊 P. 26	●
普通の家庭	「普通の」 中級 2 P. 37	「普通の」 第 1 冊 P. 124	「普通の」 上級上 P. 74	「普通の」 第 3 冊 P. 124	●
普通の女性	「普通の」 中級 2 P. 37	「普通の」 第 1 冊 P. 124	「普通の」 上級上 P. 74	「普通の」 第 3 冊 P. 124	●
常識の範囲	—	—	—	「の範囲」 第 2 冊 P. 131	×
法律の目的	「の目的」 中級 2 P. 159	—	「の目的」 上級上 P. 215	「の目的」 第 4 冊 P. 376	×
音楽の才能	—	—	—	—	×
歴史の舞台	—	「歴史の」 第 1 冊 P. 113	—	「歴史の」 第 1 冊 P. 275	×
人生の目標	「人生の」 中級 2 P. 167	「の目標」 第 3 冊 P. 55	—	—	×
最新の状態	—	「最新の」 第 2 冊 P. 51	—	—	×
実際の年齢	—	「実際の」 第 2 冊 P. 269	「実際の」 上級下 P. 65	—	×
人物の性格	「人物の」 中級 2 P. 71	「人物の」 第 3 冊 P. 303	—	「の性格」 第 3 冊 P. 285	×
梅雨の季節	「の季節」 中級 2 P. 95	「の季節」 第 3 冊 P. 272	「梅雨の季節」 上級上 P. 54	「梅雨の」 第 2 冊 P. 414	●
英語の成績	「英語の」 中級 1	「英語の」 第 1 冊	「英語の」 初上	「英語の」 第 1 冊	●

	P. 176	P. 103	P. 172	P. 226	
今日の話題	「今日の」 中級 2 P. 133	「の話題」 第 4 冊 P. 150	「の話題」 上級上 P. 92	「今日の」 第 1 冊 P. 113	●
話題の人物	—	「話題の」 第 2 冊 P. 105	—	「話題の」 第 2 冊 P. 269	✕
精神の支柱	—	—	「精神の」 上級下 P. 225	「精神の」 第 3 冊 P. 375	✕
社会の話題	「社会の」 中級 2 P. 51	「社会の」 第 4 冊 P. 423	「社会の」 上級下 P. 38	—	✕

以上、表 11、12、13 の内容に基づき、本研究では、文法性判断テストにおける正用判断問題（12 問）と誤用判断問題（16 問）を以下、表 14 のように分ける。

表 14 文法性判断テストの正用判断と誤用判断問題（問題数）

文法性判断テスト	
正用判断問題（12 問）	誤用判断問題（16 問）
地域の風景、政治の中心、普通の家庭、普通の女性、今日の話題、個人の問題、英語の成績、政治の実権、地域の特色、個人の感想、公共の場所、梅雨の季節	言論の自由、家庭の主婦、社会の話題、精神の支柱、音楽の才能、歴史の舞台、人物の性格、影響の程度、常識範囲、人生の目標、最新の状態、生存の危機、生命の危機、法律の目的、実際の年齢、話題の人物

### C. 文法性判断テストの問題提示方法

漢字圏の CLJ に文字版の文法性判断テスト（図 5）を行うと、漢字の影響を受けて判断が容易になるという懸念のため、予備調査<sup>26</sup>の時、文字版の文法性判断テストと音声版の文法性判断テストを両方とも実施した。両テストにおける調査者の得点に  $t$  検定をかけた結果、有意差は認められなかった ( $p>0.05$ )。また、フォローアップ

<sup>26</sup> 上級レベルの CLJ（10 名）を対象に、表 13 のように、文字版の文法性判断テストと、調査項目の部分だけに穴を設置し、調査文全体を聞き、穴の部分の形式だけを判断してもらう音声版の文法性判断テストである。実施順番としては、音声版の文法性判断テストを行った 10 分後、文字版の文法性判断テストを実施した。

インタビュー調査において、音声判断テストの方が少し難しいという CLJ の意見から、本研究の文法性判断テストを文字版文法性判断テストにし、図 6 のように行った。

#### ・読み上げテストの内容

次に、本研究における読み上げテストの詳細な内容は図 7 に示す。

声を出しながら、以下の文章を読みましょう。なお、以下の「\_\_」に「の」を入れたほうが良いと思ったら、それも入れて読み上げてください。

例：1. 私<sup>わたし</sup>は卒業<sup>そつぎょう</sup>したら、大学<sup>だいがく</sup>\_\_先生<sup>せんせい</sup>になりたい。

2. こんなに美味<sup>おい</sup>しい\_\_料理<sup>りょうり</sup>を食<sup>た</sup>べられるのは初<sup>はじ</sup>めてだよ。

1. 無駄<sup>むだ</sup>なお金<sup>かね</sup>を使<sup>つか</sup>って塾<sup>じゅく</sup>に通<sup>かよ</sup>わなくても、英語<sup>えいご</sup>\_\_成<sup>せい</sup>績<sup>せき</sup>を上げ<sup>あ</sup>る方法<sup>ほうほう</sup>があるだろう。

2. 数年<sup>すうねん</sup>間<sup>かん</sup>、校<sup>こう</sup>長<sup>ちょう</sup>先<sup>せん</sup>生<sup>せい</sup>をして<sup>し</sup>いた彼<sup>かれ</sup>は言<sup>げん</sup>論<sup>ろん</sup>\_\_自<sup>じ</sup>由<sup>ゆう</sup>がな<sup>せい</sup>けれ<sup>と</sup>ば生<sup>し</sup>徒<sup>あわ</sup>の幸<sup>さい</sup>せもないと言<sup>い</sup>った。

図 7 読み上げテストの問題内容

#### ・文法性判断テストと読み上げテストの実施内容

この二つのテストを実施した際の具体的な手続きは以下になる。(1) 読み上げテスト、(2) 文法性判断テストの順番で実施した。調査協力者の参加順で 2 グループに分け、前 15 人に文法性判断テスト A 版・読み上げテスト A 版、後 15 人に文法性判断テスト B 版・読み上げテスト B 版を回答させた。実施時には、両テストとも集団形式と一部個別形式を併用した。なお、テストの際には例文を挙げながらやり方を説明し、回答方法も把握させた上でテストを行った。実施内容の詳細は以下のとおりである。

##### (1) 読み上げテストの実施内容

先に読み上げテストを実施した。このテストでは、CLJ (30 名) に各問題における

空欄部分を含む全ての内容を声に出して読み上げさせ、録音した。鶴見（1998）では、読み形態（音読・黙読）による学習者の文章理解に与える影響を調べた結果、音読より黙読の方が学習者の文章理解に効果的であると示された。本研究は、文の中における CLJ による名詞句の「の」の脱落状況を調べるのが目的であり、基本的に文を読み上げ理解しながら、「の」使用可能を判断してもらうため、文の理解面に支障をきたさないよう、各調査問の読み上げ時間は制限しなかった。なお、テストに際しては自分のペースで読み上げ、一度読み終わったら前に戻ることができないという指示を与えた。

## （2）文法性判断テストの実施内容

続いて、読み上げテストを実施した 10 分後に文法性判断テストを実施した。結果を考察する際に、CLJ による文法性判断テストの結果と読み上げテストの結果を比較しながら検討するため、読み上げテストと同様な実施条件（時間制限がないことと、一度判断したら、前に戻ることができないこと）を設定した。

### 4.5.2 CLJ による日本語名詞句の親密度調査の構成及び実施内容

#### ・CLJ による日本語名詞句の親密度の定義

日本語学習者による日本語単語に対する親密度の先行研究では、単語親密度の定義について以下のように示されている。

山口（2000）、邱（2003）では、単語の親密度は、日本語学習者はある言葉をどの程度知っているか、又はどの程度使い慣れているかと感じる程度を複数の調査協力者が 5 段階で評定した時の平均値とされている。

親密度を測る際に使用された評定尺度には 7 段階尺度評定法<sup>27</sup>と 5 段階尺度評定法<sup>28</sup>の両方がある。しかし、日本語学習者を対象とする親密度の調査では、調査協力者

<sup>27</sup> 7 段階尺度評定法の内容について、横川編（2006）を参考し、以下のようにまとめる。ある単語を見聞きする程度は 1 の「全く見聞きしない」から 7 の「よく見聞きする」の 7 段階に分けており、調査協力者はその尺度を用いて単語に対する親密度を判定する。

<sup>28</sup> 5 段階尺度評定法とは、邱（2003）を参考し、次のようにまとめる。ある単語を見聞きする程度は 1

の負担を軽減するために5段階評定法による調査（邱（2003）、松島（2009）、姚（2018））を行ったものが多い。そこで、本研究においても、CLJによる日本語名詞句の親密度を測定する際に、5段階評定法を使用する。

また、上記の山口（2000）、邱（2003）に基づき、本研究におけるCLJによる日本語名詞句の親密度を、「ある日本語の名詞句について、中国語を母語とする日本語学習者（30名）が、どの程度知っているか、又はどの程度見聞き慣れているか感じる程度を、5段階で評定した時の平均値」と定義する。

#### ・CLJによる日本語名詞句の親密度調査構成内容

第三章で抽出した、日本語では「の」が必要であり中国語では「的」が不要な日本語名詞句（28個）を用いて本研究のCLJ（30名）の調査協力者に、横川博一・藪内智（2006a）における全体的な枠組みに倣って、本研究の親密度の調査を行った。親密度調査の詳細構成は以下、表15に示す。

表15 CLJによる日本語名詞句の親密度調査の構成

構成	調査問題	ダミー問題	親密度の 評定尺度	調査用紙	時間制限
内容	28問	0問	5段階尺度	A版、B版	5分

なお、この調査はCLJによる28個の日本語名詞句に対する親密度を見ることが目的であるため、ダミー問題は設定しなかった。

#### ・CLJによる日本語名詞句親密度の調査内容

調査用紙は10ページで構成されている。1ページ目には調査の目的、日本語名詞句親密度の定義、評定尺度5段階の解釈、説明用の名詞句2個・評定スケールを、2ページ目には練習用の名詞句4個・評定スケールを記載した。それ以降の7ページ

---

の「全く見聞きしない」から5の「よく見聞きする」の5段階に分けており、調査協力者はその尺度を用いて単語に対する親密度を判定する。

は各ページ名詞句（4 個）・評定スケールを記載した。カウンターバランスをとるため、調査用紙は、3 ページ目から 10 ページ目の調査対象となる 28 個の日本語名詞句をランダムに入れ換えたものを A 版、B 版の 2 種類作成した。調査問題の実例を以下、図 8 に提示する。なお、サンプルの詳細には章末の添付資料を添付する。

この調査は中国語を母語とする日本語学習者による日本語名詞句に対する親密度を調査しようとするものである。日本語名詞句の意味を知っているか知っていないかを問うものではない。

日本語名詞句の親密度とは、日常生活においては、中国語を母語とする日本語学習者は、ある日本語の名詞句をどの程度知っているか、又はどの程度見聞き慣れているかとするものである。

その評定尺度は以下、1～5 の順番で低いものから高いものへの 5 スケールからなる。各数字で表すスケールの意味は以下のように示す。

1. 一度も聞いたり見たりしたことがない。
2. ほとんど聞いた/見たことがない。
3. たまに聞く/見る。
4. よく聞く/見る。
5. 非常によく聞く/見る。

問 1. 英語の成績

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

図 8 CLJ による日本語名詞句親密度の調査問題例

#### ・CLJ による日本語名詞句の親密度調査の実施内容

文法性判断テストと読み上げテストの結果に影響を及ぼさないように、CLJ による日本語名詞句の親密度調査は最後に実施した。2 つのテストと同様に、集団形式と一部個別形式を併用し、調査協力者を参加順に 2 グループに分けて、前 15 人に日本語名詞句親密度調査 A 版、その後の 15 人に日本語名詞句親密度調査 B 版を回答させた。調査は以下の手順に従って実施した。



(1) 調査問題用紙・回答用紙の配布

「CLJ による親密度調査」の調査問題用紙の冊子、各調査問題の評価スケールが記載された回答用紙 B4（1 枚）を CLJ に配布した。

(2) 親密度評定方法の説明

1 ページ目に記載されている目的、日本語名詞句親密度の定義、評定尺度の説明を確認した。CLJ に評定方法について理解させるために、説明用の日本語名詞句を例にとり、見聞きする度合いの例を挙げて評定値を示した。

(3) 親密度評定の練習

この判定法に慣れさせるため、2 ページ目に記載されている練習用の日本語名詞句 4 語について評定値を示させた。質問などがあればそれに応じた。

(4) 日本語名詞句親密度の評定

質問がなくなったことを確認した後、調査を開始した。余裕を持って回答できるように調査の時間<sup>29</sup>は約 5 分とした。

---

<sup>29</sup> 予備調査では、10 名の CLJ による日本語名詞句の所要時間は大体 4 分～5 分であった為、本調査では所要時間を 5 分程度に設定した。

## 5. 調査結果

### 5.1 テストの数値化の結果

テストの結果を処理する前に、それらを数値化した。文法性判断テストと読み上げテストの両テストにおける各名詞句について、正しく回答した CLJ の人数（以下、正答人数）、間違って回答した CLJ の人数（以下、誤答人数）を数え、まとめた。詳細は以下のように文法性判断テスト、読み上げテストに分けて説明する。また、次の節では、各 CLJ による各名詞句の親密度の数値を計算した結果を詳細に説明する。

- ・文法性判断テストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数え方

文法性判断テストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数え方について、以下、  
(1) 正用判断問題として扱われる「英語の成績」 (2) 誤用判断問題として使われる「言論の自由」における正答人数、誤答人数を例として説明する。

#### (1) 文法性判断テスト—正用判断問題例

無駄むだなお金かねを使つかって塾じゅくに通かよわなくても、英語の成績えいご せいせきをあげる方法ほうほうがあるだろう。

このような問題の場合、CLJ が「○」を付けたら正しく回答したと判断し、この名詞句の正答人数として数える。それに対して、「✕」を付けたら正しく回答していないと判断し、この名詞句の誤答人数として数える。

#### (2) 文法性判断テスト—誤用判断問題例

数年間すうねんかん、校長先生こうちょうせんせいをしていた彼はかれ言論自由げんろんじゆうがなければ生徒せいとの幸しあわせもないと言いった。

この問題では、CLJは「の」を付けたら、正しく回答していないと判断して、この名詞句の正答人数として数える。それに対して、「✕」を付けたら、正しく回答したと判断して、この名詞句の誤答人数として数える。

・読み上げテストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数え方

次に、読み上げテストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数え方を説明する。  
以下、「英語の成績」を例とする。

読み上げテストの問題例

むだ かね つか じゆく かよ えいご せいせき あ ほうほう  
無駄なお金を使って 塾に通わなくても、英語\_\_成績を上げる方法があるだろう。

「英語\_\_成績」では、CLJが「の」を入れて読み上げたらこの名詞句の正答人数として数え、「の」を脱落させて読み上げたらその名詞句の誤答人数として数える。このテストは、CLJが提示された文章を読み上げた時に穴が空いているところに「の」の脱落が起きるかどうかを測るテストであるため、「の」が脱落すること、または「の」が脱落しないことがこのテストの回答となる。それ以外の回答が入る名詞句があれば、その名詞句は本研究の分析対象となる名詞句から外す。

実際に、読み上げテストの本調査では、以下①、②の問題の回答に、「の」を脱落する回答と「の」を脱落しない回答以外の回答（的な）が出現した。『中納言』で「個人」を検索したら、「個人の...」、「個人的な...」のような形式が見られた。つまり、日本語では「個人」と「問題」、「感想」の間に「の」だけではなく、「的な」も入るといえる。そこで、この2つの名詞句は、本研究の分析対象となる「の」が必要な名詞句と質が異なると判断し、分析対象から外した。

① あの人<sup>ひと</sup>が会社<sup>かいしゃ</sup>を辞めた<sup>や</sup>のは、個人<sup>こじん</sup>\_\_問題<sup>もんだい</sup>ではなく、上司<sup>じょうし</sup>が原因<sup>げんいん</sup>だそうだ。

- ② 効果があるかはわからないが、あくまでも個人\_\_感想なので、参考になればとおも  
思う。

それゆえ、本研究の文法性判断テスト及び読み上げテストで分析対象となる名詞句は「個人の問題」と「個人の感想」を除いて 26 個となる。

#### 5.1.1 文法性判断テスト及び読み上げテストの数値化結果

文法性判断テスト及び読み上げテストの各名詞句における正答人数、誤答人数を数値化した結果を、以下表 16、17 に示す。

表 16 文法性判断テストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数値化結果

回答状況の人数 日本語名詞句	正答人数	誤答人数
普通の家庭	30	0
法律の目的	22	8
普通の女性	30	0
生命の危機	13	17
政治の中心	22	8
地域の特色	12	18
常識の範囲	25	5
公共の場所	4	26
家庭の主婦	0	30
影響の程度	29	1
言論の自由	2	28
英語の成績	24	6
人生の目標	28	2
今日の話題	30	0
社会の話題	25	5
地域の風景	29	1
精神の支柱	4	26
歴史の舞台	13	17
人物の性格	17	13
最新の状態	21	9
音楽の才能	21	9
実際の年齢	29	1
梅雨の季節	23	7
生存の危機	7	23
政治の実権	6	24
話題の人物	24	6

表 17 読み上げテストにおける各名詞句の正答・誤答人数の数値化結果

回答状況 日本語名詞句	正答人数	誤答人数
普通の家庭	29	1
法律の目的	21	4
普通の女性	29	1
生命の危機	4	26
政治の中心	22	8
地域の特色	17	13
常識の範囲	19	11
公共の場所	2	28
家庭の主婦	0	30
影響の程度	26	4
言論の自由	4	26
英語の成績	28	2
人生の目標	27	3
今日の話題	29	1
社会の話題	13	17
地域の風景	28	2
精神の支柱	6	24
歴史の舞台	11	19
人物の性格	25	5
最新の状態	17	13
音楽の才能	24	6
実際の年齢	27	3
梅雨の季節	21	9
生存の危機	5	25
政治の実権	9	21
話題の人物	8	22

### 5.1.2 CLJによる各日本語名詞句の親密度の数値化結果

各CLJによる各日本語名詞句の親密度を数値化し、詳細を章末の付録に添付した。  
また、第4章で示したように、CLJによる各日本語名詞句の親密度は、本研究の調査協力者となるCLJ（30名）が5段階で評定した時の平均値である。

あるグループのデータ分布図が双方型（山が二つある）の形状になる場合、異なるグループが混じっていると考えられるため、データを処理せずに、そのグループの平均値を直接に求めるのは統計学では意味がないとされている<sup>30</sup>。そのため、本研究では、前もって各名詞句における、各スケールを選んだ人数の分布図の山の数を確認し、分布図に山が1つしかないことを確認した上で、各名詞句におけるCLJによる親密度の平均値（表20）を算出した。分布図の山の数は以下、「英語の成績」図9（詳細は表18を参考）、「生命の危機」図10（詳細は表19を参考）のように示す。

表18 30名のCLJによる「英語の成績」の親密度（平均値4.5）

CLJ1	CLJ2	CLJ3	CLJ4	CLJ5	CLJ6	CLJ7	CLJ8	CLJ9	CLJ10
5	4	5	4	4	4	4	3	5	5
CLJ11	CLJ12	CLJ13	CLJ14	CLJ15	CLJ16	CLJ17	CLJ18	CLJ19	CLJ20
5	4	5	5	5	5	4	5	4	4
CLJ21	CLJ22	CLJ23	CLJ24	CLJ25	CLJ26	CLJ27	CLJ28	CLJ29	CLJ30
5	5	5	5	5	5	5	3	4	5

表18に基づき、CLJによる「英語の成績」の親密度人数の分布は以下、図9のようになる。

<sup>30</sup> <http://www.sunlight.gr.jp/column2.html>

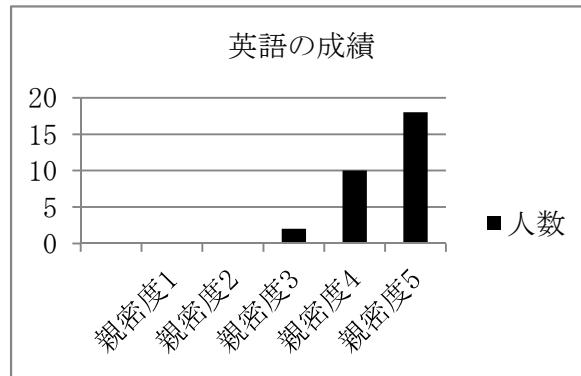


図9 CLJによる「英語の成績」の親密度人数分布

表19 30名のCLJによる「生命の危機」の親密度（平均値：1.8）

CLJ1	CLJ2	CLJ3	CLJ4	CLJ5	CLJ6	CLJ7	CLJ8	CLJ9	CLJ10
2	2	5	2	1	1	2	2	1	3
CLJ11	CLJ12	CLJ13	CLJ14	CLJ15	CLJ16	CLJ17	CLJ18	CLJ19	CLJ20
1	1	2	3	3	2	1	2	1	2
CLJ21	CLJ22	CLJ23	CLJ24	CLJ25	CLJ26	CLJ27	CLJ28	CLJ29	CLJ30
1	1	1	1	1	2	2	2	2	2

表19に基づき、CLJによる「生命の危機」の親密度人数の分布は以下、図10のようになる。

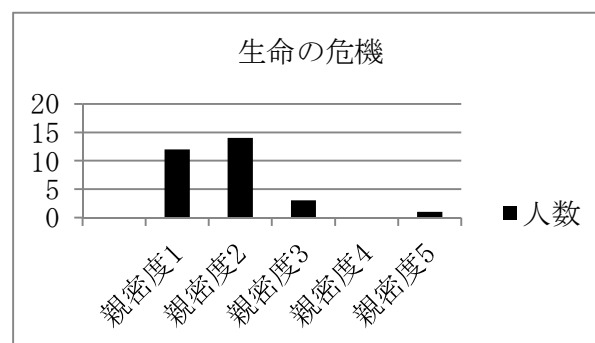


図10 CLJによる「英語の成績」の親密度人数分布



表 20 CLJ（30 名）による各日本語名詞句の親密度の平均値

名詞句	親密度の平均値	名詞句	親密度の平均値
英語の成績	4.5	話題の人物	3.6
普通の家庭	4.3	政治の中心	3.4
今日の話題	4.3	法律の目的	3.2
音楽の才能	4.3	歴史の舞台	3.1
人生の目標	4.2	家庭の主婦	2.9
普通の女性	4.1	梅雨の季節	2.7
地域の特色	3.9	公共の場所	2.3
最新の状態	3.9	精神の支柱	2.2
影響の程度	3.9	言論の自由	2
人物の性格	3.8	政治の実権	2
常識の範囲	3.7	生存の危機	1.9
社会の話題	3.6	生命の危機	1.8
地域の風景	3.6		
実際の年齢	3.6		

表 20 から分かるように、CLJ による各日本語名詞句の親密度の平均値の中央値は 3.6 となる。中央値の 3.6 を基準に高親密度、低親密度の名詞句分けをし、中央値に当たる 4 つの名詞句<sup>31</sup>をデータ分析する際に除き、CLJ による親密度が 3.6 以上の名詞句を高親密度名詞句、3.6 以下の名詞句を低親密度名詞句とした。また、高親密度の名詞句と低親密度の名詞句の親密度差に  $t$  検定を行った結果、0.1%水準で有意であった ( $t(22) = 7.12, P < 0.01$ )。28 個の名詞句について、CLJ による親密度が高いもの (11 個) と親密度が低いもの (11 個) を以下、表 21 に示す。

表 21 CLJ における高親密度と低親密度の日本語名詞句

高親密度名詞句 (11 個)	低親密度名詞句 (11 個)
普通の家庭、影響の程度、普通の女性、地域の特色、常識の範囲、英語の成績、今日の話題、音楽の才能、人生の目標、最新の状態、人物の性格	政治の中心、法律の目的、家庭の主婦、公共の場所、言語の自由、生命の危機、歴史の舞台、梅雨の季節、精神の支柱、政治の実権、生存の危機

<sup>31</sup> 表 20 にはグレーで表示された部分は中央値に当たるので、データ分析を行う際に除く。

以上、表 8、表 21 をもとに、本研究における頻度高・親密度高、頻度高・親密度低、頻度低・親密度高、頻度低・親密度低の 4 つの名詞句パターンを抽出した（表 25 参照）。

・本研究の分析対象となる日本語名詞句の抽出基準

(1) 本研究では、第 3 章の 3.2.2 における高頻度、低頻度を抽出した基準で示されたものと同様に、名詞句における N1、N2 の頻度の高低を均等に統一できなかったため、同じケースにおける N1、また N2 が同じような名詞句を排除した。例えば、表 20 における高親密度名詞句ケースでは、「普通の女性」と「普通の家庭」の名詞 1 は「普通」である。また、低親密度名詞句ケースでは、「政治の中心」と「政治の実権」の N1 は「政治」であり、「生存の危機」と「生命の危機」の N2 は「危機」である。このように、名詞句における N1 か N2 が重複しているため、その名詞が入る名詞句は分析対象から排除する。排除の基準は以下（2）に示す。

(2) 高親密度名詞句ケースでは、親密度がより高い名詞句を、低親密度名詞句では、親密度がより低い名詞句を外す。理由は以下の通りである。

高親密度名詞句ケースであれ、低親密度名詞句ケースであれ、そこから一部のデータを外すと、そのケースにおける CLJ による各名詞句親密度は、散らばり度がそれほど変わらないことが重要である。また、名詞句を外す場合、親密度の順位に従って高いもの、または親密度が低いものを外すことが考えられるが、具体的にどのような手順で外すかは標準偏差の変化度合から判断するべきである。

そこで、高親密度名詞ケース（11 個）、低頻度名詞句ケース（11 個）の親密度の標準偏差と、各ケースで親密度が高いものを外す場合の標準偏差、親密度が低いものを外す場合の標準偏差を比較する。ある名詞句を外すと、そのケースにおける各名詞句の標準偏差がそれほど変わらない場合、本研究では、その名詞句は分析対象から外す。親密度が高いもの、又は親密度が低いものを外す場合の標準偏差の変化は、表 22（高親密度の名詞句ケース）、表 23（低親密度の名詞句ケース）にそれぞれ示す。

表 22 高親密度ケースにおける高親密度と低親密度を外す場合の標準偏差（SD）

高親密度名詞句	親密度の平均値	高親密度を外す場合 の親密度平均値	低親密度を外す場合 の親密度平均値
英語の成績	4.5	4.5	4.5
普通の家庭	4.3	—	4.3
今日の話題	4.3	4.3	4.3
音楽の才能	4.3	4.3	4.3
人生の目標	4.2	4.2	4.2
普通の女性	4.1	4.1	—
地域の特色	3.9	3.9	3.9
最新の状態	3.9	3.9	3.9
影響の程度	3.9	3.9	3.9
人物の性格	3.8	3.8	3.8
常識の範囲	3.7	3.7	3.7
標準偏差（SD）	0.26	0.26	0.27

表 22 から、親密度が高い名詞句の「普通の家庭」を外すと、高親密度名詞句ケースにおける各名詞句親密度の散らばり度は変わらないことが分かった。

表 23 低親密度ケースにおける高親密度と低親密度を外す場合の標準偏差（SD）

低親密度名詞句	親密度の平均値	高親密度を外す場合 の親密度平均値	低親密度を外す場合 の親密度平均値
政治の中心	3.4	—	3.4
法律の目的	3.2	3.2	3.2
歴史の舞台	3.1	3.1	3.1
家庭の主婦	2.9	2.9	2.9
梅雨の季節	2.7	2.7	2.7
公共の場所	2.3	2.3	2.3
精神の支柱	2.2	2.2	2.2
言論の自由	2	2	2
政治の実権	2	2	—
生存の危機	1.9	—	1.9
生命の危機	1.8	1.8	—
標準偏差（SD）	0.58	0.52	0.55

表 23 から、低親密度の名詞句を外すと、低親密度名詞句ケースにおける各名詞句親密度の散らばり度はそれほど変わらないことが分かった。

それゆえ、高親密度名詞句ケースでは、親密度がより高い「普通の家庭」、低親密度名詞句ケースでは、親密度がより低い「政治の実権」、「生命の危機」を本研究の分析対象となる名詞句から除く。以上のことを元に、本研究の分析対象となる高親密度、低親密度の日本語名詞句を以下表 29 のようにまとめる。

**表 24 本研究における分析対象となる高親密度・低親密度の名詞句(19 個)**

高親密度の名詞句ケース (10 個)	低親密度の名詞句ケース (9 個)
影響の程度、普通の女性、地域の特色、常識の範囲、今日の話題、英語の成績、人生の目標、音楽の才能、最新の状態、人物の性格	公共の場所、法律の目的、言論の自由、家庭の主婦、政治の中心、梅雨の季節、歴史の舞台、精神の支柱、生存の危機

また、表 8、表 24 の結果を元に、本研究における日本語名詞句頻度の高低と親密度の高低を組み合わせてなる名詞句のケースを、以下、表 25 のように 4 ケースに分ける。

**表 25 日本語名詞句の頻度高低・親密度高低の 4 パターン (19 個)**

頻度高・親密度高の名詞句ケース	頻度高・親密度低の名詞句ケース
影響の程度、普通の女性、地域の特色、常識の範囲	公共の場所、法律の目的、言論の自由、家庭の主婦、政治の中心
頻度低・親密度高の名詞句ケース	頻度低・親密度低の名詞句ケース
今日の話題、英語の成績、人生の目標、音楽の才能、最新の状態、人物の性格	梅雨の季節、歴史の舞台、精神の支柱、生存の危機

表 25 から、本研究の分析対象となる名詞句は 19 個となる。内訳は、日本語名詞句の頻度高・CLJ による親密度高の日本語名詞句 4 個、日本語名詞句の頻度低・CLJ

による親密度高 5 個、日本語名詞句の頻度低・CLJ による親密度高 6 個で、日本語名詞句の頻度低・CLJ による親密度高 4 個である。

## 5.2 CLJ における「の」の知識判断・脱落と日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度との関連性

この節では、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度が読み上げテストにおける各名詞句の正答人数との間に関連があるかどうかを検討する。また、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度は CLJ の日本語名詞句における「の」の知識面にも影響しているため、産出レベルでも CLJ による「の」の脱落が生じているのか、文法性判断テストにおける各名詞句の正答人数との関連を検討する。

日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度の両方が文法性判断テスト、読み上げテストの結果と相関している場合、以下のように分けて結果を検討していく。

もし、日本語名詞句の頻度も CLJ による日本語名詞句の親密度も文法性判断テスト、読み上げテストにおける正答人数と相関関係がある場合、両テストでは、どちらの効果が強いかを以下①～④のように検討していく。

- ① 日本語名詞句の頻度高×CLJ による日本語名詞句の親密度高
- ② 日本語名詞句の頻度高×CLJ による日本語名詞句の親密度低
- ③ 日本語名詞句の頻度低×CLJ による日本語名詞句の親密度高
- ④ 日本語名詞句の頻度低×CLJ による日本語名詞句の親密度低

もし、日本語名詞句の頻度又は CLJ による日本語名詞句の親密度のいずれかと相関がある場合は、文法性判断テスト、読み上げテストの正答人数にどのように影響しているかを、以下のように分けて結果を検討していく。

・日本語名詞句の頻度のみと関連する場合

- ① 日本語名詞句の頻度が高い

② 日本語名詞句の頻度が低い

・ CLJ による日本語名詞句の親密度のみと関連する場合

① CLJ による日本語名詞句の親密度が高い

② CLJ による日本語名詞句の親密度が低い

### 5.2.1 文法性判断テストの結果と日本語名詞句の頻度、CLJ の親密度との関連性

文法性判断テストでは、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度と日本語名詞句（19 個）の正答人数との関連性を明らかにする為に、ピアソンの積率相関係数で相関分析を行った。

表 26 文法性判断テストにおける正答人数、頻度、親密度の平均値・標準偏差

変数	平均値	標準偏差
頻度	30.9	24.7
親密度	3.4	0.8
正答人数	17.5	9.8

日本語名詞句の頻度と正答人数を分析したところ、両者の間に弱い負相関があり、相関係数は 10～5%水準で有意であることがわかった ( $r=0.40, p<.1$ )。また、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数を分析した結果、両者の間に強い正相関があり、相関係数は 1%水準で有意であることが分かった ( $r=0.79, p<.01$ )。

以上の結果から文法性判断テストでは、日本語名詞句の頻度と正答人数に弱い相関関係が認められることがわかった。しかし、両者の間で本当にこのような関連性があるか、両者に関わる分布図を確認する必要がある。日本語名詞句の頻度と正答人数との分布図を以下図 11 に示す。

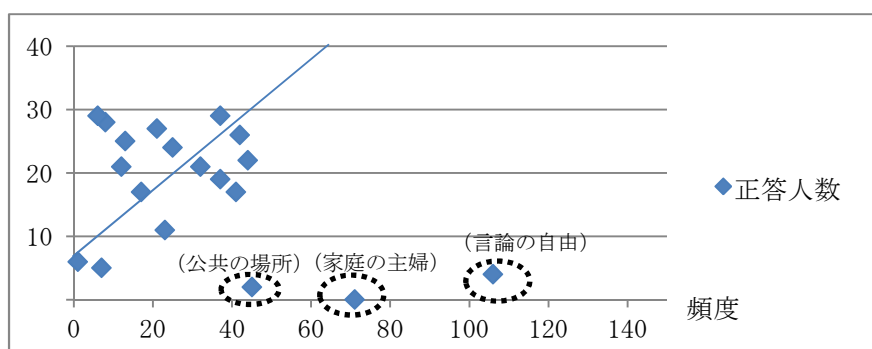


図 11 日本語名詞句の頻度と正答人数の分布図

図 11 から、(106, 2) で表されている名詞句「言論の自由」では、頻度は他の名詞句より極端に高いが、その正答人数は他の名詞句と比べると極端に低いことがわかる。また、(71, 0) で表されている「家庭の主婦」と (45, 4) で表されている「公共の場所」は、頻度は高いものの、正答人数が他の名詞句より低すぎるため、外れ値になっている。この 3 つの外れ値になる名詞句から影響を受けたため、文法性判断テストで日本語名詞句の頻度と正答人数の間に弱い相関関係が見られたといえるだろう。

この両者の間に本当に相関関係があるかを明らかにするために、外れ値となる「言論の自由 (106, 2)」、「公共の場所 (45, 4)」、「家庭の主婦 (71, 0)」をデータから外して相関係数を計算しなおす必要がある。そこで以上の 3 つの名詞句のデータを外して、日本語の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度、日本語名詞句 (16 個) の正答人数との関連性についてピアソンの積率相関係数で相関分析を行った。

表 27 文法性判断テストの日本語名詞句 (16 個) における正答人数、頻度、親密度の平均値・標準偏差

変数	平均値	標準偏差
頻度	22.8	14.0
親密度	3.6	0.7
正答人数	20.5	7.7

日本語名詞句の頻度と正答人数を分析したところ、両者の間に相関がないことが

わかった ( $r=0.31, n.s.$ )。また、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数を分析した結果、両者の間に強い正相関があり、相関係数は 1%水準で有意であることが分かった ( $r=0.72, p<.01$ )。

文法性判断テストでは、外れ値となる「公共の場所」、「言論の自由」、「家庭の主婦」を外すと、日本語の頻度と正答人数の間には相関関係が見られなくなった。しかし、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数の間には相変わらず強い相関関係が認められた。以上から、文法性判断テストにおいては、日本語名詞句の頻度ではなく、CLJ による日本語名詞句の親密度が正答人数と関連性を持っていると言えるだろう。

## 5.2.2 読み上げテストの結果と日本語名詞句の頻度、CLJ の親密度との関連性

文法性判断テストと同様に、読み上げテストでは、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度、日本語名詞句 (19 個) の正答人数との関連性を明らかにする為に、ピアソンの積率相関係数で相関分析を行った。

表 28 読み上げテストの名詞句 (19 個) における正答人数、頻度、親密度  
の平均値・標準偏差

変数	平均値	標準偏差
頻度	30.9	24.7
親密度	3.4	0.8
正答人数	17.5	9.6

日本語名詞句の頻度と正答人数を分析したところ、両者の間に弱い負相関があり、相関係数は 10~5%水準で有意であることがわかった ( $r=0.41, p<.1$ )。また、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数を分析した結果、両者の間に強い正相関があり、相関係数は 1%水準で有意であることが分かった ( $r=0.85, p<.01$ )。

以上の結果から、文法性判断テストと同様に、読み上げテストでは、日本語名詞



句の頻度と正答人数に弱い相関関係が認められた。しかし、実際に両者にこのような関連性があるかは両者に関わる分布図で確認する必要がある。日本語名詞句の頻度と正答人数との分布図は以下、図 12 に示す。

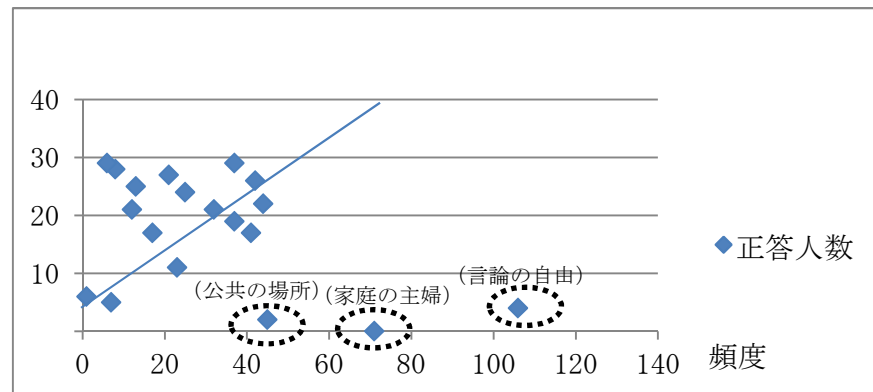


図 12 日本語名詞句の頻度と正答人数の分布図

図 12 から、(106, 4) で表される名詞句「言論の自由」では、頻度が他の名詞句より極端に高いが、その正答人数は他の名詞句と比べると極端に低いことがわかる。また、(71, 0) で表す名詞句の「家庭の主婦」と (45, 2) で表す名詞句の「公共の場所」の両名詞句は頻度が高いが、正答人数が他の名詞句より低すぎるため、外れ値になってしまう。この 3 つの外れ値になる名詞句から影響を受けたため、読み上げでは、日本語名詞句の頻度と正答人数の間には弱い相関関係が見られたといえる。この両者の間に本当に相関関係があるかを明らかにするために、外れ値となる「言論の自由 (106, 4)」、「公共の場所 (45, 2)」、「家庭の主婦 (71, 0)」のデータを外して日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語名詞句の親密度は日本語名詞句 (16 個) の正答人数との関連性についてピアソンの積率相関係数で相関分析を行った。

表 29 読み上げテストの名詞句（16 個）における正答人数、頻度、親密度  
の平均値・標準偏差

変数	平均値	標準偏差
頻度	22.8	14.0
親密度	3.6	0.7
正答人数	20.4	7.4

日本語名詞句の頻度と正答人数を分析したところ、両者の間に相関がないことがわかった ( $r=0.27, n.s.$ )。また、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数を分析した結果、両者の間に強い正相関があり、相関係数は 1%水準で有意であることが分かった ( $r=0.84, p<.01$ )。

読み上げテストにおいても、外れ値となる「言論の自由」、「公共の場所」、「家庭の主婦」を外すと、日本語の頻度と正答人数の間には相関関係が見られなくなった。しかしながら、読み上げテストでは、CLJ による日本語名詞句の親密度と正答人数の間には相変わらず強い相関関係が認められるため、日本語名詞句の頻度ではなく、CLJ による日本語の名詞句が正答人数と関連性を持っていることが分かった。

以上、文法性判断テストと読み上げテストにおいては、日本語名詞句の頻度、CLJ による日本語の親密度は両テストにおける正答人数との関連性をピアソンの積率相関係数で分析した。その結果、文法性判断テストと読み上げテストでは、日本語の頻度は正答人数との間には関連がないのに対して、CLJ による日本語の親密度は正答人数の間に強い相関関係が見られた。

### 5.3 文法性判断テストと読み上げテストにおける CLJ による日本語名詞句の親密度の影響

5.2 では、文法性判断テストと読み上げテストにおいて、日本語名詞句の頻度は正答人数と関連性がないことがわかった。そこで 5.3 では、日本語名詞句頻度の高低

による影響を検討せず、CLJ における日本語親密度の高低が両テストの正答人数に与える影響のみを検討する。

### 5.3.1 文法性判断テストにおける CLJ による日本語名詞句の親密度の影響

5.2 では、文法性判断テストと読み上げテストにおいて、CLJ による日本語名詞句親密度と正答人数との関連性を検討した際に、「言論の自由」、「家庭の主婦」、「公共の場所」を相関分析に入れても入れなくても、CLJ による日本語名詞句親密度と正答人数との間に強い相関関係があることが分かった。そこで、本研究では、この 3 つの名詞句を以下の分析に入れ、表 30 で示したように、高親密度名詞句（10 個）、低親密度名詞句（9 個）を用いて、CLJ による親密度の高低が文法性判断テストの正答人数にどのように影響しているかを検討する。

表 16、表 24 を参考に、文法性判断テストでは、高親密度名詞句ケース（10 個）及び低親密度名詞句ケース（9 個）のそれぞれのケースにおいて、CLJ による回答状況人数における正答延べ人数、誤答延べ人数を集計し、表 30 に示す。

表 30 高・低親密度名詞句ケースとそのケースにおける正答・誤答人数のクロス表  
(延べ人数による統計)

親密度	正答人数	誤答人数	合計
高ケース	237▲	63▽	300
低ケース	97▽	173▲	270
合計	334	236	570

▲は残差分析の結果有意に多いもの、▽は有意に少ないものを示す ( $p < .01$ )。

カイ二乗検定の結果、回答人数における正答人数、誤答人数は高親密度の名詞句ケースと低親密度の名詞句ケースの間では、1%水準で、有意差があった ( $\chi^2(1)=106.91, p < .01$ )。残差分析の結果、高親密度の名詞句ケースの「正答人数」

と低親密度の名詞句ケースの「誤答人数」が有意に多く、高親密度の名詞句ケースの「誤答人数」と低親密度の名詞句ケースの「正答人数」が有意に少なかった。以上のことから、CLJは高親密度名詞句ケースでは、「の」の有無を正しく判断できるのに対し、低親密度名詞句ケースでは、「の」の有無を正しく判断できない傾向が強いことが明らかになった。

### 5.3.2 読み上げテストにおけるCLJによる日本語名詞句の親密度の影響

文法性判断テストと同様に、高親密度名詞句（10個）、低親密度名詞句（9個）を用いてCLJによる親密度の高低は読み上げテストの正答人数にどのように影響しているかを検討する。

表17、表24を参考に、読み上げテストでは、高親密度名詞句ケース（10個）及び低親密度名詞句ケース（9個）のそれぞれのケースにおいて、CLJによる回答人数における正答延べ人数、誤答延べ人数を集計し、表31に示す。

表31 高・低親密度名詞句ケースとそのケースにおける正答・誤答人数のクロス表  
(延べ人数による統計)

親密度	正答人数	誤答人数	合計
高ケース	241▲	59▽	300
低ケース	92▽	178▲	270
合計	333	237	570

▲は残差分析の結果有意に多いもの、▽は有意に少ないものを示す ( $p < .01$ )。

カイ二乗検定の結果、回答状況の人数における正答人数、誤答人数は高親密度の名詞句ケースと低親密度の名詞句ケースの間では、1%水準で有意差があった

( $\chi^2(1)=123.29, p < .01$ )。残差分析の結果、文法性判断テストと同様に、読み上げ

テストにおいても、高親密度の名詞句ケースの「正答人数」と低親密度の名詞句ケースの「誤答人数」が有意に多く、高親密度の名詞句ケースの「誤答人数」と低親密度の名詞句ケースの「正答人数」が有意に少なかった。以上のことから、CLJは高親密度名詞句ケースでは、「の」を正しく使用できるのに対して、低親密度名詞句ケースでは、「の」を脱落する傾向が強いことが明らかになった。

## 5.4 まとめ

以上の 5.2、5.3.1、5.3.2 から分かるように、コーパスにおける日本語名詞句の頻度は CLJ による「の」の使用有無に関する判断や「の」の脱落状況に影響を与えていない一方で、CLJ による日本語名詞句の親密度は作用していることが明らかになった。また、CLJ が、高親密度名詞句ケースにおいては、「の」の使用有無に対する判断をしやすく、「の」の脱落を起こしにくい一方、低親密度名詞句においては、「の」の使用有無に対する判断をしにくく、「の」の脱落も起こしやすいことから、CLJ による日本語名詞句親密度の高低は「の」の使用有無の判断や脱落に影響を与えていることが分かった。

更に、文法性判断テスト及び読み上げテストの結果を全体的に比較してみると、高親密度名詞句ケースの場合では CLJ による「の」の有無判断と「の」の産出の両方が正しく行われるのに対して、低親密度名詞句ケースの場合では CLJ による「の」の有無判断も「の」の産出も正しく行われない傾向があることがわかった。

## 6. 考察

### 6.1 CLJ による日本語名詞句の親密度と「の」の脱落との関連

本研究における文法性判断テスト及び読み上げテストの結果に影響を与えているのは CLJ による日本語名詞句の親密度しか見られなかった。その要因は以下のよう

に考えられる。

フォローアップインタビューにおける CLJ10 の話によると、ある名詞句をよく見聞きする場合、その形式は自分の中の知識になり確実に判断できるが、それほど見聞きしない場合、名詞と名詞の間に「の」を繋ぐという文法や今まで積み重ねた語感や中国語での形式に基づいて判断するという。「言論の自由」はコーパスでの頻度は高いが、必ずしも CLJ の知識になっているわけではないため、テストの結果にも影響を与えなかったと考えられる。逆に、見聞きしたことがあり、CLJ による親密度があるものは、CLJ における暗示的な知識になり、産出レベルでは自動化できるため、より正しく産出できるのだろう。

## 6.2 CLJ による日本語名詞句の親密度の高低と「の」の脱落との関連

CLJ では、日本語名詞句の親密度は日本語の「の」の脱落と関連している。また、第 5 章では、高親密度名詞句では、CLJ による「の」の脱落が起きにくい、低親密度名詞句では、CLJ による「の」の脱落が生じやすいことが分かった。では、両ケースにおける全ての名詞句は上記の特徴に当てはまるだろうか。以下、高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句ケースの各名詞句における正答人数の詳細を分析しながら、考察していく。

### ・高親密度名詞句ケースの場合

読み上げテストの高親密度名詞句ケースにおける各名詞句の正答人数を以下、表 32 に示す。

表 32 高親密度名詞句ケースにおける各名詞句の正答人数

高親密度名詞句ケース	正答人数
英語の成績	28
今日の話題	29
音楽の才能	24
人生の目標	27
普通の女性	29
地域の特色	17
最新の状態	17
影響の程度	26
人物の性格	25
常識の範囲	19
平均正答人数	24
標準偏差	4.74

表 32 から、高親密度名詞句ケースでは、網掛けした「地域の特色」、「最新の状態」、「常識の範囲」の正答人数が平均値には至らず、他の名詞句と比べると低いことが分かった。以上のことから、高親密度名詞句ケースにおいては、CLJ による「の」の脱落が生じやすいものもあるという特徴が見られた。

文法性判断テストにおける高親密度名詞句ケースでは、CLJ による各名詞句の「の」の有無判断もできていると示されている。なぜ、読み上げテストでは、一部の名詞句において「の」の脱落が起きやすいのか。CLJ はこれらの日本語名詞句における「の」の知識がまだできていないのか、またそうではない場合なぜか、以下、読み上げテストと文法性判断テストにおけるそれらの名詞句における正答人数（表 33）を比較しながら、分析し、考察していく。

表 33 名詞句における文法性判断テストと読み上げテストの正答人数

(高親密度名詞句ケース)

名詞句	文法性判断テスト 正答人数	読み上げテスト正答人数
地域の特色	12	17
最新の状態	21	17
常識の範囲	25	19

「最新の状態」、「常識の範囲」は、文法性判断テストでは誤用判断問題として扱われる名詞句であった。しかし、文法性判断テストでは、CLJ によるこの二つの名詞句における正答人数は読み上げテストの方より高かった。つまり、CLJ はこれらの日本語名詞句における「の」に関する知識をもっているが、産出ではうまくいかないことがわかった。

迫田(2002)では、言語知識と言語運用の間にギャップがあり、言語運用はそのまま言語知識を反映しているとは限らないと指摘している。それはなぜだろうか。以下、文法性判断テストにおいて、これらの名詞句における「の」の有無を正しく判断したが、読み上げテストでは「の」が脱落した CLJ15 にフォローアップインタビューをした。

両名詞句における名詞と名詞の間に「の」を付ける必要があるか聞いたところ、確かに見たことがあり、また、日本語では名詞と名詞を繋ぐ時に、「の」を入れるので、ここで「の」を入れる必要があると感じるという。ただ、書き言葉は常にフォーマルな感じであり「の」を入れないと違和感を覚えるのに対して、話し言葉では、簡潔さも大事であり、「最新情報」、「最新作」、「出題範囲」などの名詞句も耳にしたことがあるので、「の」を入れずに話してもよいだろうという意見が得られた。

ここから、CLJ15 は「の」の脱落可否を判断した時に、日本語名詞句における修飾部と被修飾部の意味関係という文法的用法ではなく、教科書における「の」の説明(名詞と名詞を繋ぐ際に使用する)に従って解釈しているので、日本語の名詞句における「の」の文法的用法に関する明示的知識を持っていないことが分かった。明



示的知識なしに「最新の状態」、「常識の範囲」に「の」を入れる必要があると判断できたのは、インプットを受けることによって、日本語名詞句における「の」の用法が CLJ15 の中で暗示的知識になったためだろう。また、CLJ15 はこれらの名詞句における「の」に関する暗示的知識を持っているが、「の」を脱落するかどうかを判断する際に、単にその名詞句に着目するだけではなく、文体（書き言葉か、話し言葉か）の面も含めて考えていることが分かった。また、「N1+の+N2」における N1、N2 が他の名詞と繋ぐ際の形を参考にしており、「N1+□<sup>32</sup>」、「□+N2」の形を見たことがある場合、読み上げテストでは、「の」を意識的に脱落させようとしていることが分かった。

次に、読み上げテストでは、正答人数が他の名詞句より少ない「地域の特色」を分析する。この名詞句は文法性判断テストでは、正用判断問題として扱われているが、正答人数が読み上げテストのほうより更に低かったことから、CLJ では「の」に関する知識は不足している一方、産出では「の」を正しく産出する傾向が見られた。

CLJ によるこの名詞句の回答状況は他の名詞句より複雑であり、その「の」の脱落要因を探る為に、以下、両テストで正しく回答した CLJ1、文法性判断テストでは正しく回答したが、読み上げテストでは正しく回答しなかった CLJ9、文法性判断テストでは正しく回答しなかったが、読み上げテストでは正しく回答した CLJ16、両テストとも正しく答えなかった CLJ19 にインタビューした。4 人の回答内容を以下のようにまとめる。

CLJ1：教科書では、名詞と名詞の間に「の」を入れる文法説明があるし、「地域の特色」という言葉を見たこともある。

また、CLJ9、CLJ16、CLJ19 は文脈の影響を受けた傾向が強かったため、文法性判断テストと読み上げテストの調査文を以下に取り上げて説明する。

---

<sup>32</sup> 「□」の意味は以下の例を挙げながら、説明する。「最新情報」という名詞句（N1+N2）という名詞句構造では、「最新」は N1、「情報」は N2 で表す。N1 の「最新」は「情報」ではなく、ほかの名詞と組み合わせて名詞句になり、その名詞を表す際に、「□」で表す。また、同様に、N2 の「情報」は最新ではなく、他の名詞と名詞句になり、その名詞を表す際に、「□」で表記する。「N1+の+□」、「□+の+N1」においても上記と同じ意味で扱われる。

### 文法性判断テスト

そこで暮らす人々の家族形態や地域の特色があることを忘れてはならない。

### 読み上げテスト

そこで暮らす人々の家族形態や地域特色があることを忘れてはならない。

### 「CLJ9 の場合」

判断した時に、「地域の特色」に特に違和感を感じなかったが、読んだ時に、前の文では「家族形態」の前に「の」と「や」があるので、「地域特色」と並列関係があるかと思い「の」を入れずに読んだ。

### 「CLJ16 の場合」

文法性判断テストでは、前の文では「家族形態」には「の」や「や」があるので、「地域の特色」より「地域特色」だとすると並列関係を表せるとして判断した。しかし、読んだ際に、「地域特色」というと、中国語のように聞こえるので、「の」を入れて読んだ。

### 「CLJ19 の場合」

「の」と「家族形態」があるので、一つの文に「の」を複数入れると不自然な感じであり、「地域特色」にした。

文脈のことを考えず、日本語では、「地域の特色」、「地域特色」はどちらが正しいと思うかと CLJ9、CLJ16、CLJ19 に聞いたら、「地域の特色」だと回答した。挙げられた理由を以下に示す。

- ① 日本語では、二つの名詞を繋ぐ際に、「の」を入れることをよく見ており、教科書ではこの用法についての説明もあった (CLJ19)。
- ② 「地域特色」は中国語では四字として使われているが、日本語では「地域の特

色」、「地域の」、「の特色」のように「の」をつけることが多い気がする。例えば、「地域の人々」や、「大学の特色」などである。日本語では、「地域特色」だと、中国語のように聞こえるので不自然だと感じる（CLJ9、CLJ16）。

ここから、高親密度名詞句ケースでは、CLJは名詞句前後の文脈、その名詞句におけるN1、N2を他の名詞と繋ぐ際の形（「N1+の+□<sup>33</sup>、□+の+N2、N1+□、□+N2」）を参考にしながら、「の」の脱落を判断している傾向があった。また、CLJは教科書で提示された「の」の用法（名詞と名詞を繋ぐ際に使用する）に強いイメージを持っているが、名詞と名詞を繋ぐ際に、「の」の使用、不使用に関する文法的な規則が不明であることもわかった。

以上のことを踏まえ、高親密度名詞句ケースでは、CLJによる「の」の脱落特徴及び要因を、以下のようにまとめる。

高親密度名詞句ケースでは、CLJは名詞句における「の」に関する文法的用法に関する明示的知識<sup>34</sup>を持っていないが、インプットを受けることでそれに関する暗示的知識ができていくことがわかった。基本的に、このケースでは、CLJは「の」に関する暗示的知識の面が出来ているなら、CLJによる「の」の脱落も少ない傾向が見られた。CLJは「の」を脱落するかどうかを判断する際に、以下のことを考慮している。

- (1) 文章における文体、名詞句前後の文脈など複数の要素を含め、「の」の脱落可否を考えている。また、CLJはある名詞句における「の」を脱落しない要因を解釈した際に、名詞と名詞を繋ぐ時に「の」を入れるという教科書での用法を思い込んで解釈している傾向がみられる。
  - (2) 「N1+の+N2」におけるN1、N2とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」「N1+□」、「□+N2」）に引っ張られている。
- ① 文体や文脈を考慮する場合、「N1+の+N2」における「N1+□」、「□+N2」の形式

<sup>33</sup> 「□」の意味は以下の例を挙げながら、説明する。「数学の成績」という名詞句（N1+の+N2）という名詞句構造では、「数学」はN1、「成績」はN2で表す。N1の「数学」は「成績」ではなく、ほかの名詞と組み合わせて名詞句になり、その名詞を表す際にまた、同様に、N2の「成績」は数学ではなく、他の名詞と名詞句になり、その名詞を表す際に、「□」で表記する。

<sup>34</sup> 迫田（2002）では、明示的知識と暗示的知識について以下のように示されている。明示的知識、暗示的知識のいずれも学習者が言語に関する知識で、明示的知識のほうは授業や教科書などで、学習し、明確にそのルールが説明できる知識である。暗示的知識は明確にはそのルールが説明できないが母語の規則のように直感で判断できる知識である。

も見たことがあるということを根拠に、「の」を意識的に脱落させて話す傾向がある。例えば、「最新の状態」、「常識の範囲」がある。「最新情報」、「出題範囲」を見聞きすることがあるので、それを参考して、「最新の状態」を「最新状態」、「常識の範囲」を「常識範囲」に産出してしまう。

- ② 文体や文脈を考慮せず、単に「N1+の+N2」を考える際には、「N1+の+N2」における「N1+の+□」、「□+の+N2」の形式を見たことがあるということを根拠に、意識的に「の」を脱落させず日本語らしくすることもある。これは、CLJ にとっては「N1+N2」の形式が中国語らしいと感じられるためである。例えば、「地域の人々」や「大学の特色」を見聞きしたことがあるので、この名詞句では、「の」を付けると、日本語として自然だと認識し、「の」の脱落をしないようにする。

#### ・低親密度名詞句ケース

読み上げテストの低親密度名詞句ケースにおける各名詞句の正答人数を以下表 34 に示す。

表 34 低親密度名詞句ケースにおける各名詞句の正答人数

低親密度名詞句ケース	正答人数
政治の中心	22
法律の目的	21
歴史の舞台	11
家庭の主婦	0
梅雨の季節	21
公共の場所	2
精神の支柱	6
言論の自由	4
生存の危機	5
平均正答人数	10
標準偏差	8.86

表 34 から、低親密度名詞句ケースでは標準偏差が高親密度名詞句より 2 倍高いこ

とから、このケースの名詞句における正答人数の散らばり度が大きかった。中には、平均正答人数より極端に多い「政治の中心」、「法律の目的」、「梅雨の季節」もあれば、極端に少ない「家庭の主婦」、「公共の場所」、「言論の自由」、「精神の支柱」、「生存の危機」もあることがわかった。

なぜ、低親密度名詞句ケースにおけるほとんどの名詞句では、CLJは「の」を脱落しやすいか、また、一部の名詞句では、「の」の脱落を起こしにくいのか、「の」に関する知識面が関係しているかどうかを、以下、両テストにおける低親密度名詞句の正答人数を比較しながら、考察する。

表 35 名詞句における文法性判断テストと読み上げテストの正答人数  
(低親密度名詞句ケース)

名詞句	文法性判断テストの正答人数	読み上げテストの正答人数
政治の中心	22	22
法律の目的	22	21
梅雨の季節	23	21
歴史の舞台	13	11
家庭の主婦	0	0
公共の場所	4	2
精神の支柱	4	6
言論の自由	2	4
生存の危機	7	5

表 35 から以下のことが分かる。文法性判断テストにおける正答人数が多い名詞句（「政治の中心」、「法律の目的」、「梅雨の季節」）は読み上げテストにおける正答人数も高い。その一方、文法性判断テストにおける正答人数が少ない名詞句（歴史の舞台、家庭の主婦、公共の場所、精神の支柱、言論の自由）は読み上げテストにおいても、正答人数が少なかった。

以上のように、低親密度ケースでは、CLJは名詞句における「の」に関する知識はできているので、産出では「の」を脱落しなかったか、一方、「の」に関する知識は

できていないので、産出では、「の」を脱落したか。以下、CLJ10<sup>35</sup>、CLJ29<sup>36</sup>に対するフォローアップインタビュー調査から分かったことを示す。

### 「CLJ10 の場合」

「法律の目的」、「梅雨の季節」は日本語では見たことがなく、「政治の中心」は見たことがある。「梅雨」や「目的」のような言葉は単独に使われる場合が多いが他の名詞と一緒に使う時、「の」を付けることが多い気がする。例えば、「梅雨の時期」、「梅雨の頃」、「授業の目的」などである。また、「歴史の舞台」は日本語では見たことがないが、「政治家の舞台」、「サッカーの舞台」のような「... の舞台」の形式を見たことがある。それで、「の」を入れないと、違和感を覚えてしまう。更に、日本語では、二つの漢字の間に「の」を入れる場合が多いのではないか。

「家庭用品」、「集合場所」は日本語では見たことがあるが、「家庭の主婦」、「公共の場所」、「精神の支柱」、「言論の自由」、「生存の危機」は見たことがない。これらの言葉は中国語では、「家庭主婦」、「公共场所」、「精神支柱」、「言论自由」、「生存危机」のように、複合語のイメージが強いので、日本語でも同じではないかと思って判断した。

### 「CLJ29 の場合」

「都市の中心」、「仕事の目的」は見たことがあるから、「政治の中心」、「法律の目的」では、「の」を普通に入れてもいいと思う。しかし、「政治」、「中心」、「法律」、「目的」は普段あまり使わない言葉で、少し硬いと感じている。硬い語と硬い語と結ぶ際に、「の」を入れるとその名詞句自体は硬いニュアンスが伝わらないと思って、「の」を入れなかった。その他の名詞句は中国語では四字の形で使われているので、日本語でもそうではないかと思った。

以上のことを踏まえ、低親密度名詞句ケースでは、CLJ による「の」の脱落要因と

<sup>35</sup> CLJ10 は低親密度名詞句ケースでは、両テストにおける「政治の中心」、「法律の目的」、「梅雨の季節」、「歴史の舞台」では正しく回答したが、他の名詞句では正しく答えなかった。

<sup>36</sup> CLJ29 は両テストにおいて、「梅雨の季節」では正しく回答しできなかったため、フォローアップインタビュー調査の対象として扱った。

関わるものを、以下のようにまとめる。

高親密度名詞句ケースと同様に、低親密度名詞句ケースでは、「の」の脱落可否を判断した時に、教科書における「の」の説明（名詞と名詞を繋ぐ際に使用する）を使用する傾向があり、日本語の名詞句における「の」の文法的用法に関する明示的知識を持っていないことが分かった。また、「N1+の+N2」における N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがあるかによって、「の」が脱落するかどうかを判断する傾向が強かった。特に、以下二つの軸に従って判断している傾向がある。

- ① 低親密度名詞句の「N1+の+N2」における N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがある場合、「の」を脱落しないことが多い。例えば、「梅雨の時期」、「梅雨の頃」、「授業の目的」などを見聞きしたことがあるので、「梅雨の季節」、「法律の目的」では「の」の脱落しないことがある。ただ、中には、N1、N2 の硬さなどの要素を考え、「の」を意識的に脱落するという意見も聞いた。中には「政治の中心」を取り上げた。

「政治」と「中心」は普段硬い言葉だと捉え、「政治中心」のほうが更にこの名詞句の硬いニュアンスが伝わるという。

- ② 「N1+の+N2」における N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがない場合、中国語の影響を受けて「の」を脱落してしまうことが多い。例えば、「家庭の□」、「□の主婦」、「公共の□」、「□の場所」の言語形式を見聞きせず、中国語では四字で使われるイメージが強いので、「家庭の主婦」を「家庭主婦」、「公共場所」に産出してしまう。

以上のように、高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句ケースにおける CLJ による各名詞句の「の」の脱落を分析することで分かったことを、以下のようにまとめる。

高親密度名詞句ケースであれ、低親密度名詞句ケースであれ、その中の名詞句における「の」の脱落可否を判断した際に、フォローアップ調査の対象となる CLJ は、各日本語名詞句における「の」の用法に関する詳しい明示的知識を持っておらず、名詞と名詞を繋ぐ時に、「の」を入れるという教科書での用法説明で解釈する傾向が見られた。

また、高親密度名詞句ケースにおいても、低親密度においても、CLJは「の」の脱落可否を判断した際に、「N1+の+N2」におけるN1、N2は他の名詞と名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」、「N1+□」、「□+N2」）に引っ張られて判断する。高親密度名詞句では、CLJでは日本語名詞句における「の」の用法は暗示的知識になるが、「N1+の+N2」におけるN1、N2は他の名詞と名詞句になる際の形（「N1+□」、「□+N2」）を見たことは「の」を脱落してよいと思う時の根拠になることもある。

その一方、低親密度名詞句では、CLJでは日本語名詞句における「の」の用法は暗示的知識になっておらず、「N1+の+N2」におけるN1、N2は他の名詞と名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことは「の」を脱落してはいけないと思う際の根拠になる。また、「N1+の+N2」におけるN1、N2は他の名詞と名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがない場合、日本語における「の」の用法に関する明示的知識および暗示的知識が不足しており、日本語の「N1+N2」の複合語の生成ルールが不明であるため、CLJは「の」の脱落を判断した際に、母語の影響も受けている可能性があることが見られた。



## 7. まとめと今後の課題

本研究では、CLJによる日本語名詞句における「の」の脱落要因について、知識レベルの面を含め、日本語名詞句の頻度、CLJによる日本語名詞句の親密度の視点から検討した。結果は以下のように示す。

- (1) CLJによる日本語名詞句における「の」の有無判断及び脱落状況はCLJのその名詞句に対する親密度と関連があることが分かった。『BCCWJ』における日本語名詞句の頻度はCLJがその名詞句を見聞きする状況を反映できないため、本研究では効果が見られなかった。
- (2) CLJによる日本語名詞句に対する親密度の高低は知識レベルにおけるCLJによる「の」の有無判断、産出レベルにおけるCLJによる「の」の脱落状況に影響していることが分かった。その影響は以下「の」知識面と「の」の産出面に分けてまとめる。

### 「知識面」

フォローアップインタビュー調査では、名詞句における「の」の用法について、CLJは教科書における「の」の説明（名詞と名詞を繋ぐ際に使用する）を使って説明する傾向があり、日本語の名詞句における「の」の文法的用法に関する明示的知識を詳しく持っていないことが分かった。インプットを受けることでそれに関する暗示的知識ができていく可能性があるため、日本語名詞句における「の」の有無を判断することができることが見られた。しかしながら、低親密度名詞句より高親密度名詞句では、CLJによる「の」の使用有無の判断が簡単になることから、CLJにとっては親密度が低いものより高いもののほうが自分の中の暗示的知識になりやすいことが推測できた。

### 「産出面」

高親密度名詞句ケースより低親密度名詞句ケースではCLJによる「の」の脱落が生じやすいため、日本語名詞句の親密度の高低はCLJによる「の」の脱落に影響を

与えると考えられる。高親密度名詞句ケースの場合、親密度が高い名詞句が CLJ における暗示的知識になっているにもかかわらず、CLJ は「の」を必ずしも脱落しないわけではなかった。それに対して、低親密度名詞句ケースの場合、親密度が低い名詞句が暗示的知識にならなくても、CLJ は「の」を脱落するわけではなかったことから、「の」に関する知識の有無もただ CLJ による「の」の脱落要因の一つであることが分かった。

(3) 高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句ケースにおける CLJ による「の」の脱落特徴及び要因を、以下のように示す。

両ケースにおいて、CLJ は「の」の脱落可否を考えた際に「N1+の+N2」における N1、N2 は他の名詞と名詞句になる際の形「N1+□」、「□+N2、」に引っ張られているといえる。

#### ・高親密度名詞句ケースの場合

高親密度名詞句ケースでは、CLJ は基本的に「の」を脱落しないが、文脈や文体などの要素を考慮するかどうかでも、CLJ による「の」の脱落状況が変わる。

- ① 文体や文脈を考慮する場合、「N1+の+N2」における「N1+□」、「□+N2」の形式も見たことがあるということを根拠に、「の」を意識的に脱落させて話す傾向がある。例えば、「最新の状態」、「常識の範囲」がある。例に関する詳細な解釈は第 6 章（考察）の部分参照する。
- ② 文体や文脈を考慮せず、単に「N1+の+N2」を考える際には、「N1+の+N2」における「N1+の+□」、「□+の+N2」の形式を見たことがあるということを根拠に、意識的に「の」を脱落させず日本語らしくすることもある。これは、CLJ にとっては「N1+N2」の形式が中国語らしいと感じられるためである。例えば、「地域の特色」がある。例に関する詳細な解釈は第 6 章（考察）の部分参照する。

#### ・低親密度名詞句ケースの場合

低親密度名詞句では、CLJ は基本的に「の」を脱落しやすいが、「N1+の+N2」にお

ける N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形を見たことがあるかどうかによって、CLJ による「の」脱落状況も変わる。

- ① 「N1+の+N2」における N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがあることを根拠に、「の」を脱落しないことが多い。例えば、「梅雨の季節」、「法律の目的」がある。例に関する詳細な解釈は第 6 章（考察）の部分参照する。
- ② 「N1+の+N2」における N1、N2 とほかの名詞と繋いで名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」）を見たことがない場合、中国語の影響を受けて「の」を脱落してしまうことが多い。例えば、「家庭の主婦」、「公共の場所」がある。例に関する詳細な解釈は第 6 章（考察）の部分参照する。

以上のように、CLJ による「の」の脱落要因は CLJ による親密度と強く関わっているが、それ以外に、CLJ による「の」に関する知識の有無、その名詞句が含まれた文章の文脈・文体および「N1+の+N2」における N1、N2 と他の名詞を繋ぎ名詞句になる際の形（「N1+の+□」、「□+の+N2」、「N1+□」、「□+N2」）にも関連していることが分かった。

高親密度名詞句ケースでは、「の」に関する暗示的知識ができており、「の」を挿入しないと、中国語らしく感じられるので、CLJ は母語の影響を意識的に避けて「の」を脱落しないストラテジーを使用することがある。それに対して、低親密度名詞句ケースでは、日本語における「の」の用法に関する知識および暗示的知識が不足していることから、日本語の「N1+N2」の複合語の生成ルールが不明であるため、母語の影響を受けることで CLJ は「の」脱落をしてしまう。

このように、母語の影響が作用している可能性が高いと思われる、日本語では「の」が必要であり、中国語では「的」が必要な名詞句（日本語：N1+の+N2 ⇔ 中国語：N1+N2）ケースでは、CLJ は常に「の」の脱落をするわけではないことが分かった。親密度が高いものでは、CLJ は意識的に母語の影響を避けることで、「の」を脱落させないが、親密度が低いものでは、「の」の文法用法に関する知識などの不足のため、母語の影響を受けて「の」を脱落する傾向があることから、CLJ による日本語名詞句の親密度は母語の影響と何らかの関連性が見られる。第二言語習得研究においては、

言語転移の様相を明らかにすることは重要な課題の一つだとされており、それを解明していくには、学習者の親密度を一つの要素として考える必要があるだろう。

また、上級レベルの CLJ であっても、日本語名詞句における「の」の用法に関する明示的知識をそれほど持っておらず、インプットを受けることで得られた「の」に関する暗示的知識で、「の」を脱落するかどうかを判断している傾向が見られた。なぜ、このようなことになるかというと、使用している教科書の中で、名詞修飾の「の」がどのように扱われているかも一つの原因になるだろう。

現在、日本語国内外でよく使用されている教科書は名詞修飾の「の」についての説明がまだ十分になされていないのが現状である。特に、「N1+の+N2」における N1 と N2 の意味関係によって「の」使用・不使用になることが説明不足であるものが多い。「N1+の+N2」における N1、N2 の意味関係は複雑である。初期の段階で、名詞修飾の「の」に関する文型項目を導入する際に、その意味関係もよく説明して理解させると、学習者における知識不足による「の」脱落などの問題を避けられるだろう。

高親密度名詞句ケースであれ、低親密度名詞句ケースであれ、CLJ による日本語名詞句の「の」の脱落は、「N1+の+N2」における N1、N2 が他の名詞と名詞句になる際の形に影響されている傾向も見られた。今回の調査では、CLJ による「N1+の+N2」の親密度しか調査できず、CLJ による「N1+の」、「の+N2」の親密度調査を行わなかった。今後、この部分の親密度調査を含め、CLJ は「N1+の+N2」における「の」の脱落においては、「N1+の+□」、「□+の+N2」のどちらの影響を更に受けやすいかを検討していく必要がある。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導頂いた教官の奥野由紀子先生に深く感謝致します。御多忙中にも関わらずいつも熱心かつ親切にご指導くださり、本研究の全般に渡り多大なるご支援、ご協力を賜りました。また、本研究のコーパス調査の枠組みなどについて適宜ご指導くださいました長谷川守寿先生、統計分析などでご助言くださいました劉永亮先生、徐乃馨さん、孟盈さんに、日本語の修正をしてくださいました谷詩織さんに深く御礼申し上げます。

本研究を完成させるまで、本当に多くの方にご協力をいただきました。調査にご参加くれました日本語学習者と日本語母語話者、中国語母語話者の皆様に深く感謝しております。おかげさまで、貴重な研究データを得ることができました。

最後に、奥野のゼミの皆様からいつも貴重なご意見や励ましを頂きました。心より感謝いたします。

## 参考文献

- 天野成昭・近藤公久 (2000) 『NTT データベースシリーズ 日本語の語彙特性第 7 巻 頻度』 東京：三省堂.
- 奥野由紀子・金玄珠 (2010) 「日本語学習者の『の』の脱落に関する一考察—横断的発話資料に基づいて—」『留学生センター教育研究論集』 17:45-63.
- 奥野由紀子・金玄珠 (2011) 「漢字圏学習者の「の」の脱落における言語転移の様相—「の」「의」「的」の対応関係に着目して—」『国立国語研究所論集』 2:77-89.
- 奥野由紀子・王婧瑶 (2019) 「名詞句の日中言語双方向的検討による翻訳課題からの考察—親密度・定式度への考慮の必要性—」 首都大学東京人文科学研究科「人文学報」 第 515-7 号:67-78.
- 門田修平 (2006) 「単語認知研究の観点から見た単語親密度調査の必要性」横川博一編『日本人英語学習者の 英単語親密度 文字編』 pp. 3-14. 東京：くろしお出版.
- 建石 始 (2018) 「対照言語学の分析」『コーパスから学ぶ日本語学 日本語教育への用』 pp. 125-125. 朝倉書店.
- 鶴見千津子 (1998) 「日本語の読解における音読の影響—韓国語母語話者の場合—」『日本語教育』 98 号, pp. 85-96.
- 横川博一・薮内智・谷村緑 (2004) 「単語認知プロセスにおける語彙の生起・親密度情報の影響—語彙性判断課題・意味性判断課題による検討」『第 30 回全国英語教育学会長野研究大会発表要綱集』 pp. 696-699.
- 横川博一・薮内智 (2006a) 「親密度や頻度が英単語認知に及ぼす影響—語彙性判断課題によるパイロットスタディ」横川博一編『日本人英語学習者の英単語親密度 文字編』 pp. 103-110. 東京：くろしお出版.
- 松田真希子・森篤嗣・金村久美・後藤寛樹 (2006) 「日本語学習者の名詞句誤用と言語転移—アジア 7 ヶ国による日本語作文データに基づく分析—」『留学生教育』 11:45-53.
- 松島弘枝 (2009) 「中国人日本語学習者を対象にした 漢字二字熟語の親密度調査」 Sapiientia (43), 165-177, St. Thomas University.

- 迫田久美子 (2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク.
- 花井 愛 (2018)「日本語学習者は「条件」をどのように表現するのか —中国語話者の事実と仮定の表現差に着目して —」『日本語/日本語教育学研究』9, pp. 167-182.
- 山口智子 (2000)「日本人 EFL 学習者における英語単語の親密度の検討—視覚提示と聴覚提示の比較—」中国四国教育会教育研究紀要 30, pp. 69-74.
- 邱俞媛 (2003)「第二言語としての日本語単語の視覚・聴覚呈示における親密度」『広島大学大学院教育研究科紀要』第二部 52 号:253-259.
- 蘇雅玲 (2018)「日本語の連体修飾節における『の』の習得研究」日本言語文藝研究, 18, Jul. 2018, pp. 19-32. (ISSN 2225-4951 )
- 張麟声 (2009)「名詞にかかる連語的修飾構造の日中対照研究—「の」と“的”の使用の有無を中心に」『言語文化研究』(言語情報編)4:22-36. 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科.
- 張麟声 (2011a)「日本語を母語とする中国語学習者の「的」の過剰使用について(1) —連体修飾マーカ―の日本語中国語双方向習得研究の立場から—」大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究言語情報編』第 6 号, pp. 1-15.
- 趙馨 (2011)「中国人日本語学習者における連体修飾を表す「の」の誤用分析」修士論文 抄録 愛知教育大学.
- 陳 相州 (2014)「台湾人日本語学習者を対象とした日本語単語親密度データベースの構築」『比較文化研究』111:167-179.
- 姚新宇 (2018)「中国人日本語学習者の慣用句の理解—親密度と透明度の影響を中心に—」日本語教育学会秋季大会発表・口頭発表 pp. 226-231.
- Takahashi, A (2005). Familiarity and frequency effects of English verbs in EFL reading: Evidence from word recognition and processing of garden-path sentences. Master's thesis submitted to Graduate School, Kyoto University of Foreign Studies.

## 調査対象の教科書

- 『みんなの日本語初級Ⅰ（2003）』 スリーエーネットワーク.  
『みんなの日本語初級Ⅱ（2003）』 スリーエーネットワーク.  
『みんなの日本語中級Ⅰ（2003）』 スリーエーネットワーク.  
『みんなの日本語中級Ⅱ（2003）』 スリーエーネットワーク.  
『新編日本語 1（2009）』 修訂本 周平・陳小芬(編). 上海外語教育出版社.  
『新編日本語 2（2009）』 修訂本 周平・陳小芬(編). 上海外語教育出版社.  
『新編日本語 3（2009）』 修訂本 周平・陳小芬(編). 上海外語教育出版社.  
『新編日本語 4（2009）』 修訂本 周平・陳小芬(編). 上海外語教育出版社.  
『標準日本語初級上（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『標準日本語初級下（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『標準日本語中級上（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『標準日本語中級下（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『標準日本語上級上（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『標準日本語上級下（2010）』 新版 人民教育出版社.  
『総合日本語 1（2009）』 修訂版 北京大学出版社.  
『総合日本語 2（2009）』 修訂版 北京大学出版社.  
『総合日本語 3（2009）』 修訂版 北京大学出版社.  
『総合日本語 4（2009）』 修訂版 北京大学出版社.

## 使用した辞書

- 『現代汉语词典』 第7版 商務印書出版社.  
『古代汉语词典』 第2版 商務印書出版社.

## 使用した URL

- 『現代語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）国立国語研究所  
[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)



『北京大学中国語コーパス』『現代汉语语料库』北京大学中国语言  
中心(Center for Chinese Linguistics PUK)

<http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp>

jReadability PORTAL <https://jreadability.net/sys/ja>

## 添付資料

以下の添付資料にはフェースシート、文法性判断テスト A 版・B 版、読み上げテスト A 版・B 版、読み上げテスト A 版・B 版、親密度調査の A 版・B 版、各名詞句の各尺度を選んだ CLJ の人数分布図、CLJ による各名詞句の親密度の結果、フォローアップインタビュー調査内容（2 回）を含む。

添付資料 1

フェースシート

お名前：

国籍/出身地/母語： / /

所属：

最終学歴： a. 専門学校 b. 大学 c. 大学院 その他（ ）

日本語の学習歴： \_\_\_\_年 \_\_\_\_月

来日期間： \_\_\_\_年

日本語レベル： 日本語能力試験 N（ ）・（ ）年受験 （ ）点

その他\_\_\_\_\_

## 添付資料 2

### 文法性判断テスト (A 版)

以下の文を見ながら、下線の部分の形式を判断してください。正しいと思ったら、○を、正しくないと思ったら、✕を付けてください。一度判断したら、前に戻ることはできません。

例：1. 私は卒業したら、大学の先生になりたい。(○)

2. こんなに美味しい料理を食べられるのは初めてだよ。(✕)

1. 効果があるかはわからないが、あくまでも個人の感想なので、参考になればと思う。

2. 労働者は生活の辛さ、場合によって、生存危機にさえ直面しなければならぬ。

3. 教師、家庭主婦、母親として新しいこの一年にどのように過ごしていくかを考えたい。

4. パソコンを安全に使うためにも、常に Windows を最新状態に保つ必要があると思う。

5. 様々な社会現象、問題、話題人物など幅広いテーマを取材し、放送している。

6. わが社はあらゆるの方法で経費の削減に努めている。

7. 多くの人はひたすら仕事をやることを人生目標としている。

8. 今の大学生は、社会話題にあまり関心を持っていないみたいですね。

9. 紀元前20世紀から紀元前10世紀までの間、中国はずっと西安、洛陽を政治の中心としてきた。

10. 数年間、校長先生をしていた彼は言論自由がなければ生徒の幸せもないと言った。
11. このようなおしゃれなお店で買い物をすると、結構お金がかかるだろう。
12. 彼の見た目が実際年齢より年上のように見えるのは髪形の問題だと思う。
13. 人は不安によって、生命危機を感じ、不安だからこそ生きていく勇気を出すことができる。
14. 小説では、人物性格をストレートに表す言葉は、実はあまり使われません。
15. 奥さんのこれまでのお金の使い方が常識範囲であったのなら、奥さんに従うほうがいい。
16. 自分に本当に音楽才能があるかどうか、毎日悩んでいる。
17. 頑張っているのに成果があがらなくて何かとかわいそうな人っていますね。
18. 1950年代頃、中国では、簡体字というものが歴史舞台に正式に登場してきた。
19. このデータから分かるように、職場の環境がもたらす影響程度は個人によって異なっている。
20. 公共の場所では、他の人に迷惑をかけないようにマナーを守って行動するべきだ。
21. ビデオやカメラが普通の家庭に普及すると共に、記録メディアへに関する問い合わせも増えてきた。
22. 地域のファンを増やすためには、地域の風景に溶け込んで、様々な役割を果たしている。
23. この野菜は果物みたいの甘い味がしますね。
24. 彼女は母親が亡くなったことで、精神支柱を失ってしまった。

25. あの人が会社を辞めたのは、個人の問題ではなく、上司が原因だそうだ。
26. 政府は法律目的を達成するために、必要な解決策を考えないといけ  
ない。
27. 有名な女優なので、彼女は普通の女性と同じように、のんびりと過ごすことは  
できない。
28. 昔、京都では政治の実権を巡って二つの内乱が起きたことがあるそうだ。
29. 食べ残したの物を勝手に捨てないでください。
30. 梅雨の季節は、体調不良に陥りやすいといわれている。
31. 電車でお年寄りに席を譲るべきかどうかがある番組で今日の話題として取り上  
げられている。
32. 無駄なお金を使って塾に通わなくても、英語の成績を上げる方法がある  
だろう。
33. そこで暮らす人々の家族形態や地域の特色があることを忘れてはならな  
い。
34. エクセルで綺麗な文章を作るにはどんなテクニックが必要だろうか。

### 添付資料 3

#### 文法性判断テスト (B 版)

以下の文を見ながら、下線の部分の形式を判断してください。正しいと思ったら、○を、正しくないと思ったら、✕を付けてください。一度判断したら、前に戻ることとはできません。

例：1. 私は卒業したら、大学の先生になりたい。(○)

2. こんなに美味しい料理を食べられるのは初めてだよ。(✕)

1. 自分に本当に音楽才能があるかどうか、毎日悩んでいる。

2. 労働者は生活の辛さ、場合によって、生存危機にさえ直面しなければならない。

3. 小説では、人物性格をストレートに表す言葉は、実はあまり使われません。

4. 今の大学生は、社会話題にあまり関心を持っていないみたいです。

5. 様々な社会現象、問題、話題人物など幅広いテーマを取材し、放送している。

6. わが社はあらゆるの方法で経費の削減に努めている。

7. 多くの人はひたすら仕事をやることを人生目標としている。

8. パソコンを安全に使うためにも、常に Windows を最新状態に保つ必要があると思う。

9. 紀元前20世紀から紀元前10世紀までの間、中国はずっと西安、洛陽を政治の中心としてきた。

10. 彼の見た目が実際年齢より年上のように見えるのは髪形の問題だと思う。

11. このようなおしゃれなお店で買い物をすると、結構お金がかかるだろう。

12. 人は不安によって、生命危機を感じ、不安だからこそ生きていく勇気を出すことができる。
13. 教師、家庭主婦、母親として新しいこの一年にどのように過ごしていくかを考えた。
14. 数年間、校長先生をしていた彼は言論自由がなければ生徒の幸せもないと言った。
15. 奥さんのこれまでのお金の使い方が常識範囲であったのなら、奥さんに従うほうがいい。
16. 効果があるかはわからないが、あくまでも個人の感想なので、参考になればと思う。
17. 頑張っているのに成果があがらなくて何かとかわいそうな人っていますね。
18. 1950年代頃、中国では、簡体字というものが歴史舞台に正式に登場してきた。
19. このデータから分かるように、職場の環境がもたらす影響程度は個人によって異なっている。
20. 公共の場所では、他の人に迷惑をかけないようにマナーを守って行動するべきだ。
21. 電車でお年寄りに席を譲るべきかどうかがある番組で今日の話題として取り上げられている。
22. 地域のファンを増やすためには、地域の風景に溶け込んで、様々な役割を果たしている。
23. この野菜は果物みたいの甘い味がしますね。
24. 昔、京都では政治の実権を巡って二つの内乱が起きたことがあるそうだ。
25. 彼女は母親が亡くなったことで、精神支柱を失ってしまった。



26. あの人が会社を辞めたのは、個人の問題ではなく、上司が原因だそうだ。
27. そこで暮らす人々の家族形態や地域の特色があることを忘れてはならない。
28. ビデオやカメラが普通の家庭に普及すると共に、記録メディアへに関する問い合わせも増えてきた。
29. 食べ残した物を勝手に捨てないでください。
30. 梅雨の季節は、体調不良に陥りやすいといわれている。
31. 政府は法律目的を達成するために、必要な解決策を考えないといけない。
32. 無駄なお金を使って塾に通わなくても、英語の成績を上げる方法があるだろう。
33. 有名な女優なので、彼女は普通の女性と同じように、のんびりと過ごすことはできない。
34. エクセルで綺麗な文章を作るにはどんなテクニックが必要だろうか。

#### 添付資料 4

#### 読み上げテスト A 版

声を出しながら、以下の文章を読みましょう。なお、以下の「\_\_」に「の」を入れたほうが良いと思ったら、それも入れて読み上げてください。

例：1. 私<sup>わたし</sup>は卒業<sup>そつぎょう</sup>したら、大学<sup>だいがく</sup>\_\_先生<sup>せんせい</sup>になりたい。

2. こんなに美味<sup>おい</sup>しい\_\_料理<sup>りょうり</sup>を食<sup>た</sup>べられるのは初<sup>はじ</sup>めてだよ。

1. 彼の<sup>かれ</sup>見た目<sup>み</sup>が実<sup>め</sup>際<sup>じっさい</sup>\_\_年<sup>ねん</sup>齢<sup>れい</sup>より年<sup>とし</sup>上<sup>うえ</sup>のよう<sup>み</sup>に見える<sup>かみがた</sup>のは髪<sup>もんだい</sup>形<sup>おも</sup>の問題<sup>おも</sup>だと思う。

2. 様<sup>さま</sup>々な社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>現<sup>げん</sup>象<sup>しょう</sup>、問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>、話<sup>わ</sup>題<sup>だい</sup>\_\_人<sup>じん</sup>物<sup>ぶつ</sup>など幅<sup>は</sup>広<sup>びろ</sup>いテ<sup>しゅざい</sup>ーマ<sup>ほうそう</sup>を取<sup>しゅざい</sup>材<sup>ほうそう</sup>し、放<sup>ほう</sup>送<sup>そう</sup>して

いる。

3. 無<sup>む</sup>駄<sup>だ</sup>なお金<sup>かね</sup>を使<sup>つか</sup>って塾<sup>じゅく</sup>に通<sup>かよ</sup>わなくても、英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>\_\_成<sup>せい</sup>績<sup>せき</sup>を<sup>あ</sup>上<sup>ほうほう</sup>げる方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>があるだ

ろう。

4. 人<sup>ひと</sup>は不<sup>ふ</sup>安<sup>あん</sup>によっ<sup>せいめい</sup>て、生<sup>き</sup>命<sup>めい</sup>\_\_危<sup>き</sup>機<sup>き</sup>を<sup>かん</sup>感<sup>ふあん</sup>じ、不<sup>い</sup>安<sup>あん</sup>だか<sup>い</sup>らそ<sup>ゆうき</sup>生<sup>だ</sup>きてい<sup>だ</sup>く勇<sup>ゆう</sup>気<sup>き</sup>を出<sup>だ</sup>

すことができる。

5. このデ<sup>しよくば</sup>ータ<sup>かんきよう</sup>から分<sup>えいきよう</sup>かるよう<sup>ていど</sup>に、職<sup>こじん</sup>場<sup>じ</sup>の環<sup>かん</sup>境<sup>きよう</sup>がも<sup>えいきよう</sup>た<sup>ていど</sup>ら<sup>こじん</sup>す影<sup>えいきよう</sup>響<sup>ていど</sup>\_\_程<sup>こじん</sup>度<sup>き</sup>は個<sup>こじん</sup>人<sup>じん</sup>に

よっ<sup>こと</sup>て異<sup>こと</sup>なっ<sup>こと</sup>てい<sup>こと</sup>る。

6. 大<sup>だいがく</sup>学<sup>じだい</sup>\_\_時<sup>おも</sup>代<sup>おも</sup>、やっ<sup>おも</sup>てお<sup>おも</sup>け<sup>おも</sup>ばよ<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>った<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>うこ<sup>おも</sup>とが<sup>おも</sup>あ<sup>おも</sup>ります<sup>おも</sup>か。

7. 昔<sup>むかし</sup>、京<sup>きやうと</sup>都<sup>と</sup>では政<sup>せい</sup>治<sup>じ</sup>\_\_実<sup>じっけん</sup>権<sup>めぐ</sup>を<sup>ふた</sup>巡<sup>ないらん</sup>って二<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>の内<sup>お</sup>乱<sup>お</sup>が起<sup>お</sup>きた<sup>お</sup>こ<sup>お</sup>とが<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>る<sup>お</sup>そ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>だ。

8. 効<sup>こう</sup>果<sup>か</sup>がある<sup>こう</sup>か<sup>こう</sup>はわ<sup>こう</sup>か<sup>こう</sup>ら<sup>こう</sup>な<sup>こう</sup>い<sup>こう</sup>が、あ<sup>こう</sup>く<sup>こう</sup>ま<sup>こう</sup>で<sup>こう</sup>も<sup>こう</sup>個<sup>こう</sup>人<sup>こう</sup>\_\_感<sup>こう</sup>想<sup>こう</sup>な<sup>こう</sup>の<sup>こう</sup>で、参<sup>さん</sup>考<sup>こう</sup>に<sup>さん</sup>な<sup>さん</sup>れ

ば<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>う。

9. 電<sup>でん</sup>車<sup>しゃ</sup>でお<sup>としよ</sup>年<sup>としよ</sup>寄<sup>せき</sup>りに<sup>ゆず</sup>席<sup>せき</sup>を<sup>ゆず</sup>譲<sup>ゆず</sup>る<sup>ゆず</sup>べ<sup>ゆず</sup>き<sup>ゆず</sup>か<sup>ゆず</sup>ど<sup>ゆず</sup>う<sup>ゆず</sup>か<sup>ゆず</sup>あ<sup>ゆず</sup>る<sup>ゆず</sup>番<sup>ばん</sup>組<sup>ぐみ</sup>で<sup>きやう</sup>今<sup>きやう</sup>日<sup>わだい</sup>\_\_話<sup>わだい</sup>題<sup>だい</sup>とし<sup>わだい</sup>て

と<sup>と</sup>取<sup>と</sup>り<sup>と</sup>上<sup>と</sup>げ<sup>と</sup>ら<sup>と</sup>れ<sup>と</sup>て<sup>と</sup>い<sup>と</sup>る。

10. 1950年<sup>ねんだいごろ</sup>代<sup>ちゆうごく</sup>頃<sup>ちゆうごく</sup>、中<sup>かん</sup>国<sup>たいじ</sup>では、簡<sup>れきし</sup>体<sup>ぶたい</sup>字<sup>せいしき</sup>とい<sup>とうじやう</sup>う<sup>とうじやう</sup>の<sup>とうじやう</sup>が<sup>とうじやう</sup>歴<sup>れきし</sup>史<sup>ぶたい</sup>\_\_舞<sup>せいしき</sup>台<sup>とうじやう</sup>に<sup>とうじやう</sup>正<sup>せいしき</sup>式<sup>とうじやう</sup>に<sup>とうじやう</sup>登<sup>とうじやう</sup>場<sup>とうじやう</sup>し

てきた。

11. 近くの駅で人身\_\_事故が起きたため、学校に行けなかった。
12. 奥さんのこれまでのお金の使い方が常識\_\_範囲であったのなら、奥さんに  
従うほうがいい。
13. 有名な女優なので、彼女は普通\_\_女性と同じように、のんびりと過ごすこ  
とはできない。
14. パソコンを安全に使うためにも、常に Windows を最新\_\_状態に保つ必要があ  
ると思う。
15. 彼女は母親が亡くなったことで、精神\_\_支柱を失ってしまった。
16. ビデオやカメラが普通\_\_家庭に普及すると共に、記録メディアに関する  
問い合わせも増えてきた。
17. 初めて会う人に自己\_\_紹介をするとき、自分の趣味について話すことが  
多いよね。
18. 今の大学生は、社会\_\_話題にあまり関心を持っていないみたいです。
19. そこで暮らす人々の家族形態や地域\_\_特色があることを忘れてはならない。
20. 紀元前20世紀から紀元前10世紀までの間、中国はずっと西安、洛陽を政治  
\_\_中心してきた。
21. 教師、家庭\_\_主婦、母親として新しいこの一年にどのように過ごしていく  
かを考えたい。
22. 地域のファンを増やすためには、地域\_\_風景に溶け込んで、様々な役割を  
果たしている。
23. 仕事、恋愛、子育てにおいて信頼\_\_関係は大事なことで、それが無いと何

もうまくいかない。

24. あの人が会社を辞めたのは、個人\_\_問題ではなく、上司が原因だそうだ。

25. 多くの人はひたすら仕事をやることを人生\_\_目標としている。

26. 自分に本当に音楽\_\_才能があるかどうか、毎日悩んでいる。

27. 労働者は生活の辛さ、場合によって、生存\_\_危機にさえ直面しなければならない。

28. 公共\_\_場所では、他の人に迷惑をかけないようにマナーを守って行動するべきだ。

29. 日本では、運転\_\_免許を取るには、お金と時間が結構かかる。

30. 小説では、人物\_\_性格をストレートに表す言葉は、実はあまり使われません。

31. 数年間、校長先生をしていた彼は言論\_\_自由がなければ生徒の幸せもな  
いと言った。

32. 政府は法律\_\_目的を達成するために、必要な解決策を考えないといけない。

33. 梅雨\_\_季節は、体調不良になりやすいといわれている。

34. 回答\_\_用紙を三枚お配りしたので、全部揃っているかご確認ください。

添付資料 5

読み上げテスト B 版

声を出しながら、以下の文章を読みましょう。なお、以下の「\_\_」に「の」を入れたほうが良いと思ったら、それも入れて読み上げてください。

例：1. 私<sup>わたし</sup>は卒業<sup>そつぎょう</sup>したら、大学<sup>だいがく</sup>\_\_先生<sup>せんせい</sup>になりたい。

2. こんなに美味<sup>おい</sup>しい\_\_料理<sup>りょうり</sup>を食<sup>た</sup>べられるのは初<sup>はじ</sup>めてだよ。

1. 人<sup>ひと</sup>は不安<sup>ふあん</sup>によって、生命<sup>せいめい</sup>\_\_危機<sup>き</sup>を感じ<sup>かん</sup>、不安<sup>ふあん</sup>だからこそ生<sup>い</sup>きていく勇<sup>ゆう</sup>気<sup>き</sup>を出<sup>だ</sup>すことができる。

2. 紀元前<sup>きげんぜん</sup>20世紀<sup>せいき</sup>から紀元前<sup>きげんぜん</sup>10世紀<sup>せいき</sup>までの間<sup>あいだ</sup>、中<sup>ちゅう</sup>国<sup>ごく</sup>はずっと西<sup>せい</sup>安<sup>あん</sup>、洛<sup>らく</sup>陽<sup>よう</sup>を政<sup>せい</sup>治<sup>じ</sup>  
\_\_中<sup>ちゅう</sup>心<sup>しん</sup>してきた。

3. 無駄<sup>むだ</sup>なお金<sup>かね</sup>を使<sup>つか</sup>って塾<sup>じゅく</sup>に通<sup>かよ</sup>わなくても、英<sup>えい</sup>語<sup>ご</sup>\_\_成<sup>せい</sup>績<sup>せき</sup>を上<sup>あ</sup>げる方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>があるだ  
ろう。

4. このデ-タから分<sup>しよく</sup>かるように、職<sup>かん</sup>場<sup>きよう</sup>の環<sup>えい</sup>境<sup>きよう</sup>がもたらす影<sup>てい</sup>響<sup>ど</sup>\_\_程<sup>こ</sup>度<sup>じん</sup>は個人<sup>じん</sup>に  
よって異<sup>こと</sup>なっている。

5. 様<sup>さま</sup>々な社<sup>しゃ</sup>会<sup>かい</sup>現<sup>げん</sup>象<sup>しょう</sup>、問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>、話<sup>わ</sup>題<sup>だい</sup>\_\_人<sup>じん</sup>物<sup>ぶつ</sup>など幅<sup>は</sup>広<sup>びろ</sup>いテ-マを取<sup>しゆ</sup>材<sup>ざい</sup>し、放<sup>ほう</sup>送<sup>そう</sup>して  
いる。

6. 大<sup>だ</sup>学<sup>がく</sup>\_\_時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>、やっ<sup>おも</sup>てお<sup>おも</sup>け<sup>おも</sup>ばよ<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>ったと思<sup>おも</sup>うこ<sup>おも</sup>とが<sup>おも</sup>あ<sup>おも</sup>りますか。

7. 奥<sup>おく</sup>さん<sup>さん</sup>のこ<sup>かね</sup>れ<sup>つか</sup>ま<sup>かた</sup>で<sup>じよう</sup>の<sup>しき</sup>お<sup>はん</sup>金<sup>い</sup>の使<sup>い</sup>方<sup>は</sup>が常<sup>じつ</sup> 識<sup>し</sup>\_\_範<sup>はん</sup>囲<sup>い</sup>であ<sup>おく</sup>った<sup>おく</sup>のなら、奥<sup>おく</sup>さん<sup>さん</sup>に  
従<sup>したが</sup>う<sup>したが</sup>ほう<sup>したが</sup>が<sup>したが</sup>いい。

8. 小<sup>しょう</sup> 説<sup>せつ</sup>では、人<sup>じん</sup>物<sup>ぶつ</sup>\_\_性<sup>せい</sup>格<sup>かく</sup>をス<sup>す</sup>ト<sup>と</sup>レ-<sup>と</sup>に表<sup>あらわ</sup>す言<sup>こと</sup>語<sup>ば</sup>は、実<sup>じつ</sup>はあ<sup>つか</sup>ま<sup>つか</sup>り使<sup>つか</sup>われま<sup>つか</sup>せ  
ん。

9. パソコンを安全あんぜんに使うためにも、常に Windows を最新さいしん\_\_状態じょうたいに保つ必要がある  
とおも  
と思う。

10. ビデオやカメラが普通ふつう\_\_家庭かていに普及ふきゅうすると共に、記録メディアきろくに関する  
とあふ  
問い合わせも増えてきた。

11. 近くの駅で人身\_\_事故じこが起きたため、学校がっこうに行けなかった。

12. 昔、京都では政治\_\_実権じつけんを巡って二つの内乱ないらんが起きたことがあるそうだ。

13. 電車でお年寄りに席せきを譲るべきかどうかがある番組ばんぐみで今日\_\_話題わだいとして  
とあ  
取り上げられている。

14. 彼女は母親が亡くなったことで、精神\_\_支柱しちゅうを失ってしまった。

15. 有名な女優なので、彼女は普通\_\_女性じょせいと同じように、のんびりと過ごすこ  
とはできない。

16. 1950年代頃、中国では、簡体字かんたいじというものが歴史\_\_舞台ぶたいに正式に登場し  
てきた。

17. 初めて会う人に自己\_\_紹介しょうかいをするとき、自分の趣味しゅみについて話すことが  
おほ  
多いよね。

18. 今の大学生は、社会\_\_話題わだいにあまり関心かんしんを持っていないみたいです。

19. そこで暮らす人々の家族形態かぞくけいたいや地域\_\_特色とくしょくがあることを忘れてはならない。

20. 彼の見た目が実際\_\_年齢ねんれいより年上としうえのように見えるのは髪形かみがたの問題だと思おもう。

21. 公共\_\_場所ばしょでは、他の人に迷惑めいわくをかけないようにマナーを守って行動する  
べきだ。

22. 地域のファンを増やすためには、地域\_\_風景ふうけいに溶け込んで、様々な役割さまざまを  
は  
果たしている。

23. 仕事、恋愛、子育てにおいて信頼\_\_関係は大事なことで、それがないと何もうまくいかない。
24. あの人が会社を辞めたのは、個人\_\_問題ではなく、上司が原因だそうだ。
25. 多く的人是はひたすら仕事をやることを人生\_\_目標としている。
26. 教師、家庭\_\_主婦、母親として新しいこの一年にどのように過ごしていくかを考えたい。
27. 梅雨\_\_季節は、体調不良になりやすいといわれている。
28. 労働者は生活の辛さ、場合によって、生存\_\_危機にさえ直面しなければならない。
29. 日本では、運転\_\_免許を取るには、お金と時間が結構かかる。
30. 効果があるかはわからないが、あくまでも個人\_\_感想なので、参考になればと思う。
31. 数年間、校長先生をしていた彼は言論\_\_自由がなければ生徒の幸せもないと言った。
32. 政府は法律\_\_目的を達成するために、必要な解決策を考えないといけない。
33. 自分に本当に音楽\_\_才能があるかどうか、毎日悩んでいる。
34. 回答\_\_用紙を三枚お配りしたので、全部揃っているかご確認ください。

### 親密度調査 A 版

この調査は中国語を母語とする日本語学習者による日本語名詞句に対する親密度を調査しようとするものである。日本語名詞句の意味を知っているか知っていないかを問うものではない。

日本語名詞句の親密度とは、日常生活においては、中国語を母語とする日本語学習者は、ある日本語の名詞句をどの程度知っているか、又はどの程度見聞き慣れているかとするものである。

その評定尺度は以下、1～5 の順番で低いものから高いものへの 5 スケールからなる。各数字で表すスケールの意味は以下のように示す。

1. 一度も聞いたり見たりしたことがない。
2. ほとんど聞いた/見たことがない。
3. たまに聞く/見る。
4. よく聞く/見る。
5. 非常によく聞く/見る。

例：

#### 1. 大学の先生

1	2	3	4	⑤
---	---	---	---	---

#### 2. 理論の基礎

①	2	3	4	5
---	---	---	---	---



練習

1. 午前の授業

1                      2                      3                      4                      5

2. 社会の成員

1                      2                      3                      4                      5

3. 会社の同僚

1                      2                      3                      4                      5

4. 体育の先生

1                      2                      3                      4                      5

1. 生命の危機				
1	2	3	4	5
2. 政治の中心				
1	2	3	4	5
3. 英語の成績				
1	2	3	4	5
4. 影響の程度				
1	2	3	4	5
5. 話題の人物				
1	2	3	4	5
6. 常識の範囲				
1	2	3	4	5
3				

7. 人物の性格

1 2 3 4 5

8. 最新の状態

1 2 3 4 5

9. 普通の家庭

1 2 3 4 5

10. 政治の実権

1 2 3 4 5

11. 今日の話題

1 2 3 4 5

12. 精神の支柱

1 2 3 4 5

1 3．普通の女性

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 4．歴史の舞台

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 5．社会の話題

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 6．地域の特色

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 7．実際の年齢

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

1 8．公共の場所

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

19. 地域の風景

1 2 3 4 5

20. 個人の問題

1 2 3 4 5

21. 人生の目標

1 2 3 4 5

22. 家庭の主婦

1 2 3 4 5

23. 生存の危機

1 2 3 4 5

24. 梅雨の季節

1 2 3 4 5

25. 個人の感想

1 2 3 4 5

26. 言論の自由

1 2 3 4 5

27. 音楽の才能

1 2 3 4 5

28. 法律の目的

1 2 3 4 5

# 親密度調査 B 版

この調査は中国語を母語とする日本語学習者による日本語名詞句に対する親密度を調査しようとするものである。日本語名詞句の意味を知っているか知っていないかを問うものではない。

日本語名詞句の親密度とは、日常生活においては、中国語を母語とする日本語学習者は、ある日本語の名詞句をどの程度知っているか、又はどの程度見聞き慣れているかとするものである。

その評定尺度は以下、1～5 の順番で低いものから高いものへの 5 スケールからなる。各数字で表すスケールの意味は以下のように示す。

1. 一度も聞いたり見たりしたことがない。
2. ほとんど聞いた/見たことがない。
3. たまに聞く/見る。
4. よく聞く/見る。
5. 非常によく聞く/見る。

例：

1. 大学の先生

1                      2                      3                      4                      ⑤

2. 理論の基礎

①                      2                      3                      4                      5

練習

1. 午前の授業

1                      2                      3                      4                      5

2. 社会の成員

1                      2                      3                      4                      5

3. 会社の同僚

1                      2                      3                      4                      5

4. 体育の先生

1                      2                      3                      4                      5



1. 個人の感想

1                      2                      3                      4                      5

2. 生存の危機

1                      2                      3                      4                      5

3. 家庭の主婦

1                      2                      3                      4                      5

4. 最新の状態

1                      2                      3                      4                      5

5. 話題の人物

1                      2                      3                      4                      5

6. 人生の目標

1                      2                      3                      4                      5

7. 社会の話題

1 2 3 4 5

8. 政治の中心

1 2 3 4 5

9. 言論の自由

1 2 3 4 5

10. 実際の年齢

1 2 3 4 5

11. 生命の危機

1 2 3 4 5

12. 人物の性格

1 2 3 4 5

1 3. 常識の範囲

1                      2                      3                      4                      5

1 4. 音楽の才能

1                      2                      3                      4                      5

1 5. 歴史の舞台

1                      2                      3                      4                      5

1 6. 影響の程度

1                      2                      3                      4                      5

1 7. 公共の場所

1                      2                      3                      4                      5

1 8. 普通の家

1                      2                      3                      4                      5

1 9．地域の風景				
1	2	3	4	5
2 0．精神の支柱				
1	2	3	4	5
2 1．個人の問題				
1	2	3	4	5
2 2．法律の目的				
1	2	3	4	5
2 3．普通の女性				
1	2	3	4	5
2 4．政治の実権				
1	2	3	4	5
6				

2 5. 梅雨の季節

1                      2                      3                      4                      5

2 6. 今日の話題

1                      2                      3                      4                      5

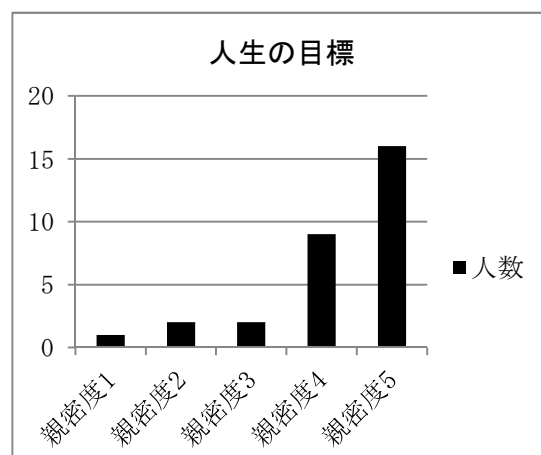
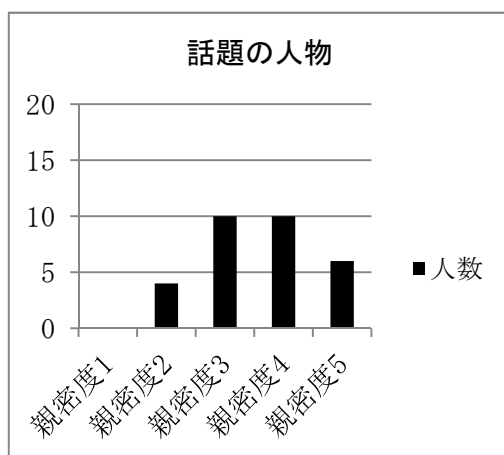
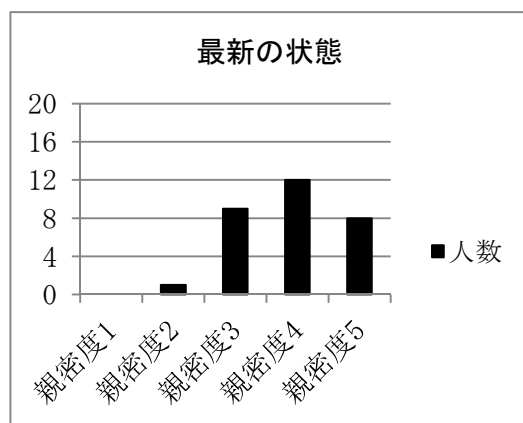
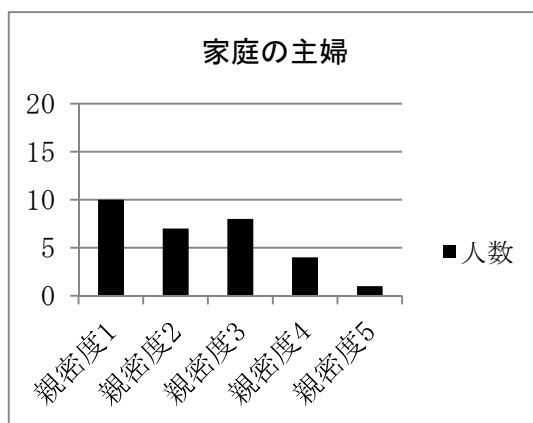
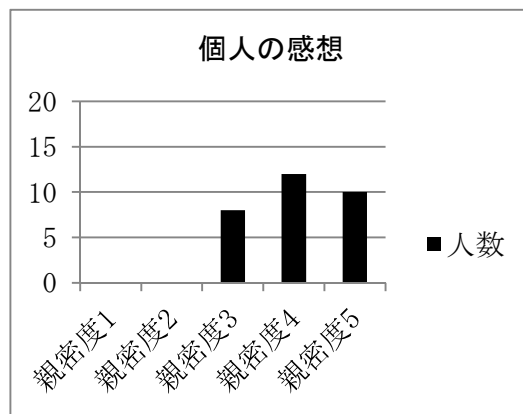
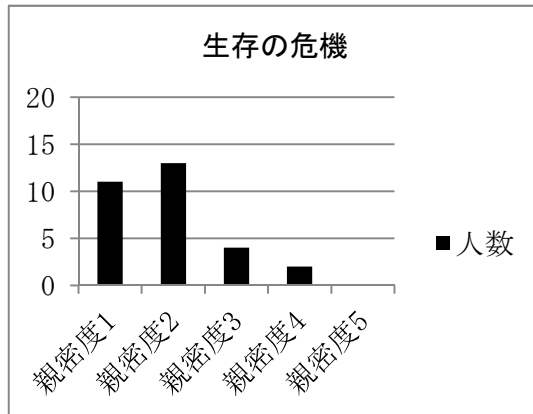
2 7. 英語の成績

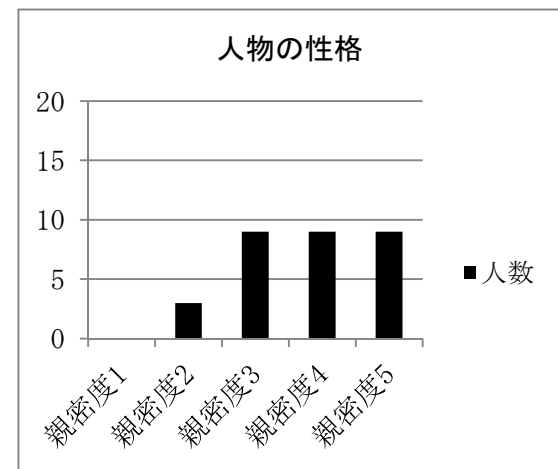
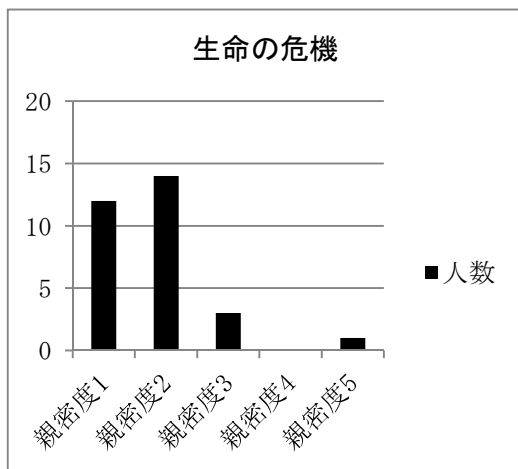
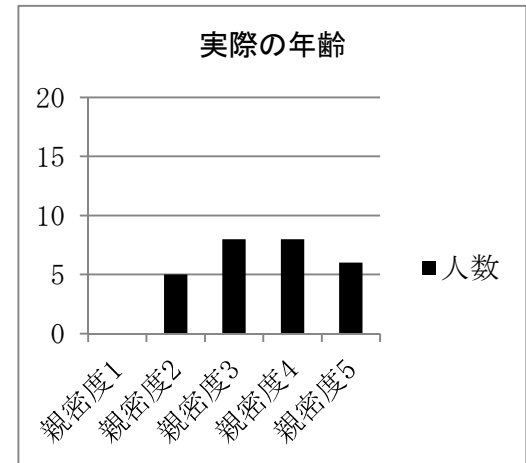
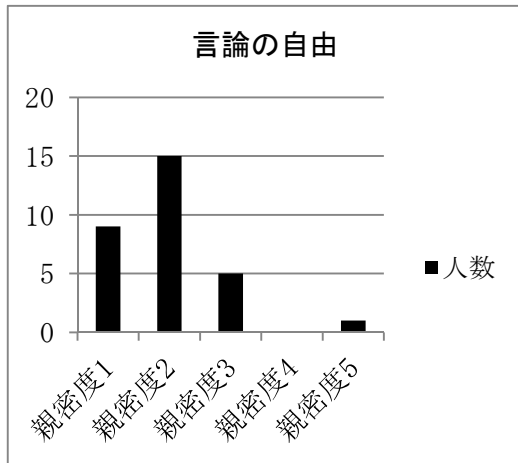
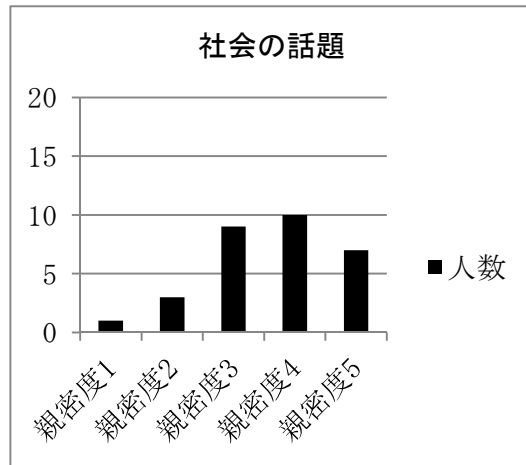
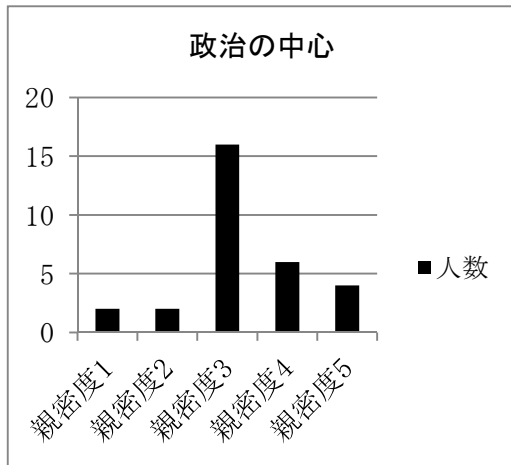
1                      2                      3                      4                      5

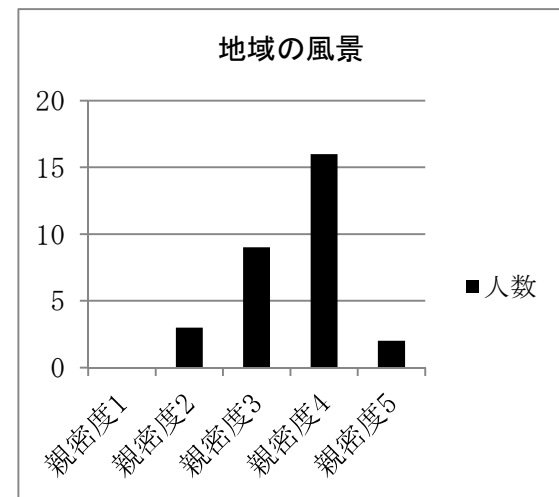
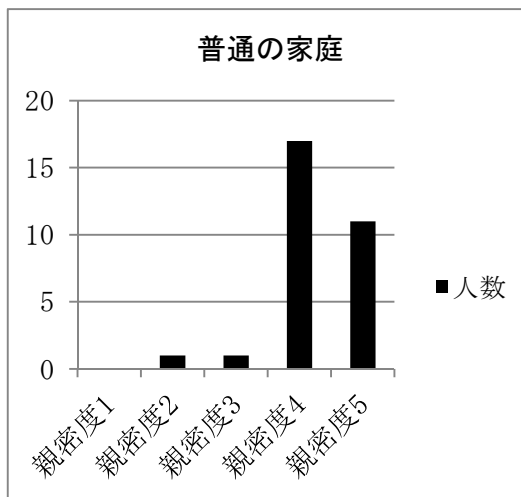
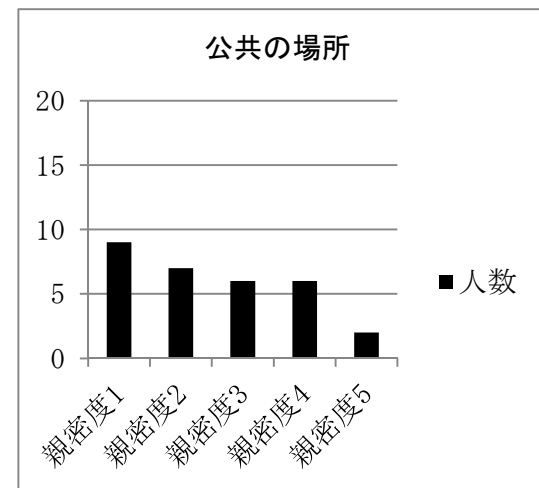
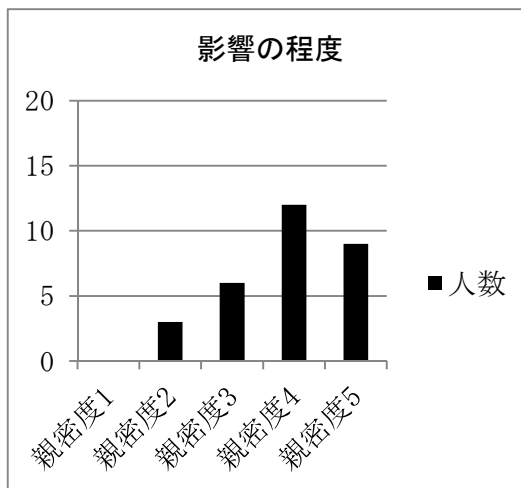
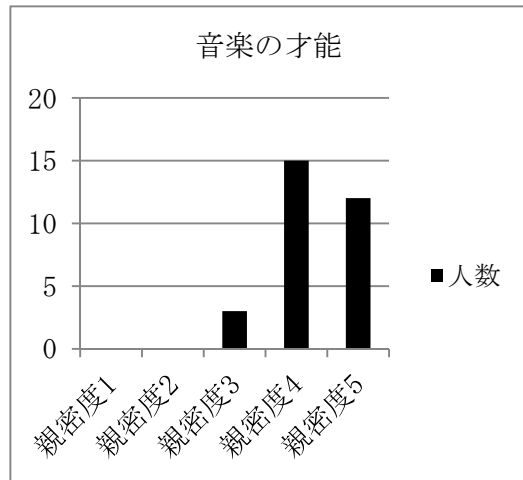
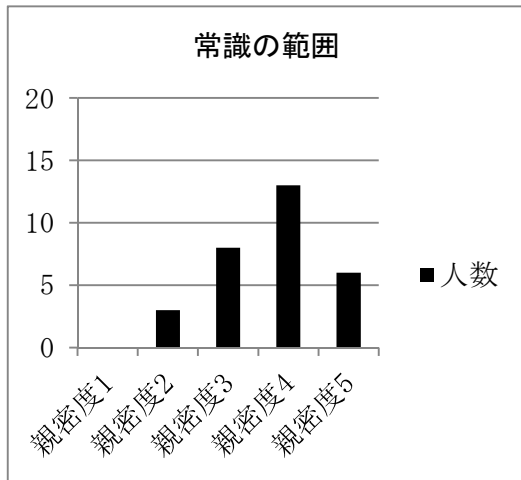
2 8. 地域の特徴

1                      2                      3                      4                      5

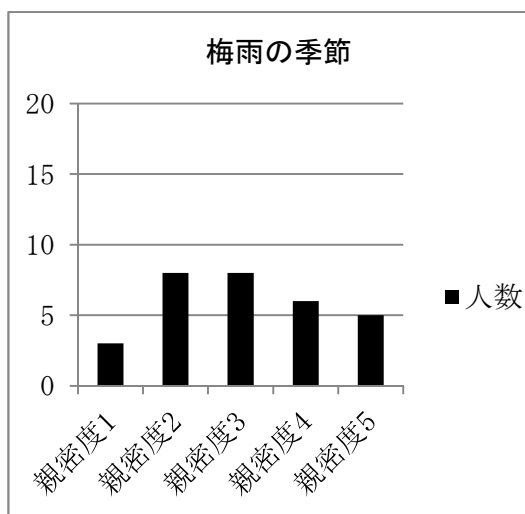
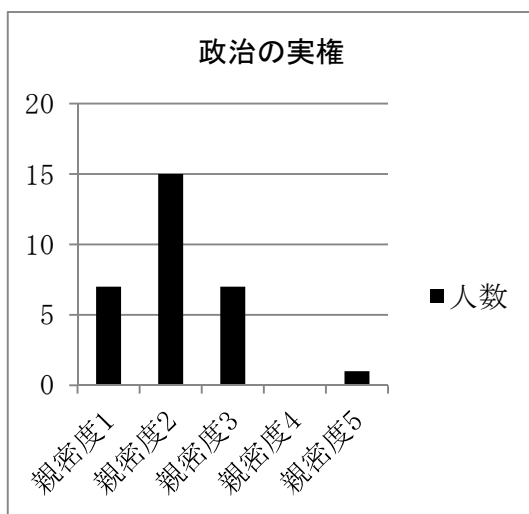
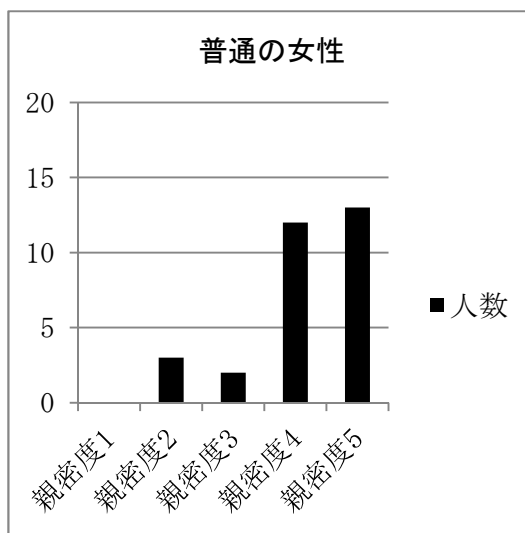
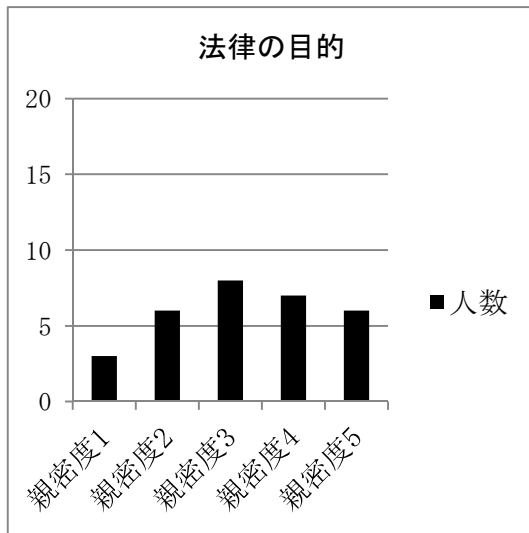
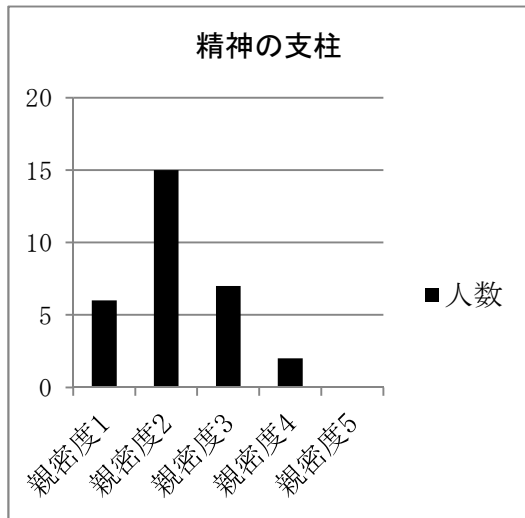
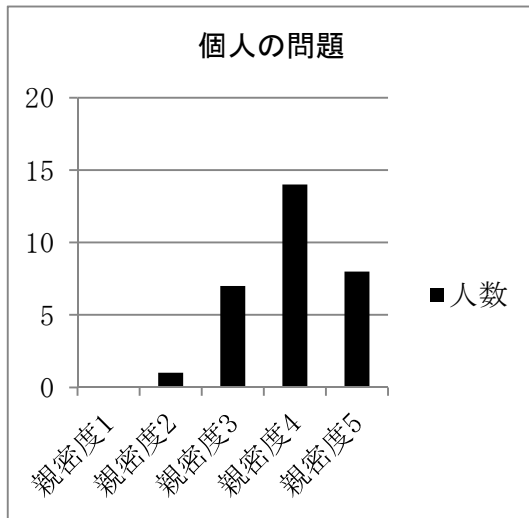
各名詞句の各尺度を選んだ CLJ の人数分布図

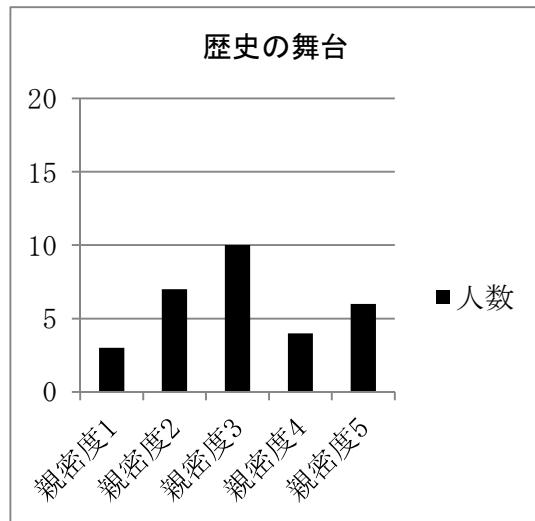
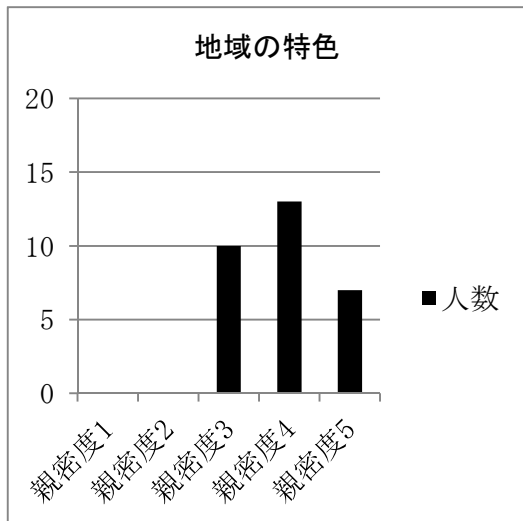
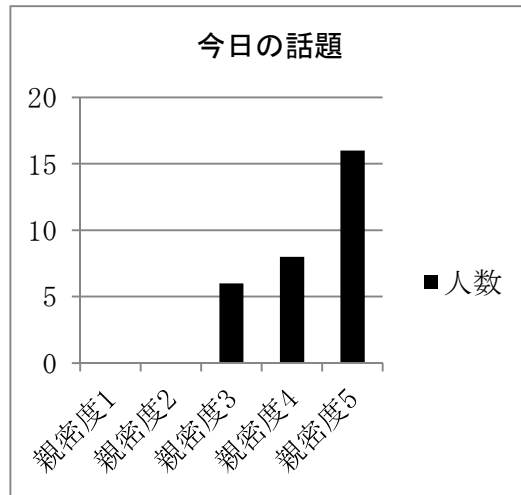
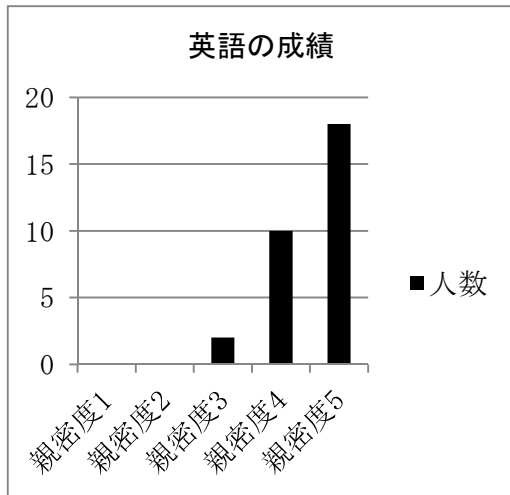












添付資料 9

CLJ による各日本語名詞句の親密度 (30 名)

項目	CLJ1	CLJ2	CLJ3	CLJ4	CLJ5	CLJ6	CLJ7	CLJ8	CLJ9	CLJ10
個人の感想	3	4	3	4	4	5	4	4	3	5
生存の危機	2	1	4	2	1	2	2	2	1	1
家庭の主婦	2	2	1	1	1	3	1	1	1	1
最新の状態	4	3	5	3	4	4	4	4	3	3
話題の人物	5	2	2	2	3	5	4	5	4	5
人生の目標	1	5	5	4	4	5	5	4	5	5
社会の話題	5	3	4	4	4	5	4	4	5	5
政治の中心	2	4	3	1	3	5	1	2	5	3
言論の自由	2	2	1	2	2	1	1	1	2	1
実際の年齢	5	4	5	5	4	5	4	4	4	3
生命の危機	2	2	5	2	1	1	2	2	1	3
人物の性格	5	4	5	3	4	4	4	3	4	3
常識の範囲	5	4	5	4	3	3	4	3	2	5
音楽の才能	5	5	5	4	4	5	4	5	4	4
歴史の舞台	3	3	2	3	2	2	1	2	2	2
影響の程度	5	4	5	4	4	5	3	4	4	5
公共の場所	2	2	3	2	1	5	4	2	1	2
普通の家庭	4	5	5	4	4	2	5	4	4	5
地域の風景	5	5	3	3	4	4	4	4	3	4
精神の支柱	2	4	1	1	1	2	2	2	2	2
個人の問題	4	4	4	4	5	5	5	4	3	3
法律の目的	2	4	4	3	1	1	4	3	4	5
普通の女性	4	3	5	4	2	4	4	2	4	4
政治の実権	2	2	1	3	1	1	2	2	2	2
梅雨の季節	2	3	2	2	5	2	4	2	1	5
今日の話題	5	5	5	4	4	5	4	4	4	5
英語の成績	5	4	5	4	4	4	4	3	5	5
地域の特色	4	5	5	4	3	5	4	3	4	5

項目	CLJ 11	CLJ 12	CLJ 13	CLJ 14	CLJ 15	CLJ 16	CLJ 17	CLJ 18	CLJ 19	CLJ 20
個人の感想	5	3	3	5	5	5	3	5	4	4
生存の危機	1	2	4	3	1	2	1	1	3	1
家庭の主婦	2	3	2	3	2	1	4	1	4	3
最新の状態	5	4	5	5	5	4	4	4	5	5
話題の人物	3	4	4	3	4	4	3	3	4	5
人生の目標	4	2	4	2	5	5	5	4	5	4
社会の話題	3	3	3	5	2	3	4	2	3	4
政治の中心	3	3	4	3	4	3	3	4	3	5
言論の自由	2	3	2	2	2	1	1	3	2	3
実際の年齢	2	3	2	3	2	2	2	3	4	4
生命の危機	1	1	2	3	3	2	1	2	1	2
人物の性格	3	2	5	4	2	4	3	5	3	4
常識の範囲	3	2	4	2	4	4	3	4	5	4
音楽の才能	4	4	3	5	3	5	4	3	4	4
歴史の舞台	5	3	5	3	3	3	4	4	3	4
影響の程度	4	3	2	5	4	2	4	2	4	4
公共の場所	2	2	1	3	3	4	1	1	4	3
普通の家庭	4	5	5	4	5	5	4	4	4	4
地域の風景	4	3	2	4	4	3	3	3	4	4
精神の支柱	4	1	2	3	2	3	2	1	2	3
個人の問題	4	3	3	5	5	5	4	5	4	4
法律の目的	3	4	4	5	3	3	5	3	5	5
普通の女性	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4
政治の実権	3	3	2	3	1	2	2	1	1	5
梅雨の季節	3	3	1	2	4	5	3	2	5	3
今日の話題	5	5	5	3	5	3	5	3	3	4
英語の成績	5	4	5	5	5	5	4	5	4	4
地域の特色	3	4	3	4	4	5	4	4	3	4

項目	CLJ 21	CLJ 22	CLJ 23	CLJ 24	CLJ 25	CLJ 26	CLJ 27	CLJ 28	CLJ 29	CLJ 30
個人の感想	3	4	4	5	3	4	5	4	5	4
生存の危機	1	3	2	1	2	3	2	2	2	2
家庭の主婦	2	3	5	2	3	1	4	4	3	3
最新の状態	4	3	5	3	3	4	3	4	2	3
話題の人物	3	5	3	3	4	4	3	3	2	4
人生の目標	3	5	5	5	5	5	5	3	4	4
社会の話題	3	4	5	3	4	3	5	2	1	4
政治の中心	5	3	3	3	3	3	4	3	4	3
言論の自由	1	3	5	1	3	2	2	2	2	2
実際の年齢	3	3	5	4	4	3	5	3	4	4
生命の危機	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
人物の性格	3	3	5	5	5	3	5	5	4	2
常識の範囲	3	3	4	5	3	4	5	4	4	4
音楽の才能	4	4	5	5	5	4	5	4	5	4
歴史の舞台	1	4	5	5	1	3	3	5	5	2
影響の程度	5	5	4	5	5	3	3	3	3	4
公共の場所	3	1	5	1	1	4	4	1	4	3
普通の家庭	3	5	5	5	4	4	4	4	4	4
地域の風景	4	3	4	4	3	4	2	2	4	4
精神の支柱	3	3	1	2	3	2	2	2	3	2
個人の問題	3	3	4	4	3	4	4	2	5	4
法律の目的	1	4	4	3	2	3	2	2	2	2
普通の女性	2	5	4	5	3	5	5	4	4	4
政治の実権	2	3	2	1	2	2	3	2	3	2
梅雨の季節	3	4	5	1	4	2	4	3	3	4
今日の話題	4	5	3	5	3	5	5	5	5	4
英語の成績	5	5	5	5	5	5	5	3	4	5
地域の特徴	5	3	5	3	4	3	3	4	3	4

### 【フォローアップインタビュー調査内容（2回）】

本研究では、親密度調査、読み上げテスト、文法性判断テストを実施した一週間後、処理できた読み上げテストの結果に基づき、CLJ にフォローアップインタビュー調査を実施した。中には、「の」をほぼ脱落しなかった CLJ1（24 個正しく産出した）、それほと脱落していなかった CLJ10（18 個正しく産出した）、脱落した CLJ29（11 個しか正しく産出しなかった）の 3 名を対象に、中国語で 5 分～10 分ぐらいのフォローアップインタビュー調査（一回目）を行った。また、2019 年 12 月の下旬、結果分析を行い、文法性判断テストと読み上げテストを比較し際に、疑問があるところを確認するために、上記の 3 名と、その他の 4 名ぐらいの調査協力者に中国語で 5 分ぐらいの追加インタビュー調査（二回目）を行った。

一回目では、主に、以下 2 つのことを巡ってインタビュー調査を行った。

(1) 你在做测试的时候，是以什么基准来判断是否使用或脱落「の」的？

【和訳】テストを受けた時に、どのような基準で「の」の使用、脱落を判断しているか。

(2) 对你来说做这个测试有哪些难或者简单的地方？

【和訳】テストを受けた時に、自分にとっては簡単な部分と難しい部分があったのでしょうか。

二回目では、文法性判断テストの結果と読み上げテストの結果を比較しながら、高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句における「の」の使用脱落の要因を探るために、両ケースにおける個別の名詞句を取り上げて、CLJ から意見をもらった。

2 回のフォローアップインタビュー調査の内容を提示する際に、CLJ の回答情報を含めて提供する。また、中国語と後付きの和訳という形で提示していく。まず、一回目の内容を示す。

## 【一回目】

CLJ1 の情報：CLJ1 は読み上げテストでは、よりできており、24 個正しく答えられた。

CLJ10 の情報：CLJ10 はそれほどできておらず、18 個正しく答えられた。

CLJ29 の情報：CLJ29 はできておらず、11 個しか正しく答えられなかった。

## CLJ1 の場合

(1) 你在做测试的时候，是以什么基准来判断是否使用或脱落「の」的？

【和訳】テストを受けた時に、どのような基準で「の」の使用、脱落を判断しているか。

CLJ1：首先见没见过一种表达很重要，其次就是参考课本上关于「の」の用法的说明和积累起来的语感去判断。有的时候感觉不加「の」很中文化，我一般都会加上「の」。另外，还有一些感觉能形成复合语的名词句我不会加「の」的。

【和訳】ある形式は見たことがあるかどうかは大事だと思います。それから、教科書における「の」の用法、今まで積み重ねた語感によって判断した。たまには、「の」を入れないと、中国語のように感じられるので、「の」を付ける。また、複合語になりそうなものでは「の」をつけない。例えば、「言論自由」、「生存危機」などですね。

著者：你怎么判断是不是复合语呢？

【和訳】どうやってある名詞句は複合語であるか、ではないかを判断している。

CLJ1：汉语和日语有很多东西不是一样的吗，汉语中作为复合语使用的话，日语里面可能也会做为复合语使用呢。

【和訳】日本語と中国語には同じものが多いんじゃないですか、中国語で複合語として使われるものは多分日本語でも言えるでしょう。

(2) 对你来说做这个测试有哪些难或者简单的地方？

【和訳】テストを受けた時に、自分にとっては簡単な部分と難しい部分があった

のでしょうか。

CLJ1：见过的，学过的就比较容易判断。比如说，「英语成绩」这种。还有刚才所说的汉语的复合语，「家庭主妇」，「精神支柱」，「言论自由」这种，在汉语里是复合语，在日语里可能也是复合语，这样的词判断起来容易。对我来说很难判断的事读起来感觉很日语的名词句，比如，「話題人物」，「個人問題」感觉要不要「の」都说的过去，判断起来就很难。

【和訳】見聞きしたり、勉強したことがあるものは簡単に判断できる。例えば、「英語の成績」など。先、言ったように中国語では複合語として使われている「家庭主妇」，「精神支柱」，「言论自由」などは日本語においても複合語だろうと思って、判断しやすい。私にとっては、読んだ時にすごく日本語らしいと感じるものは判断しにくい。例えば、「話題人物」、「個人問題」などでは、「の」が入らなくてもよいだろうかと感じるので、判断しにくいですね。

#### CLJ10 の場合

(1) 你在做测试的时候，是以什么基准来判断是否使用或脱落「の」的？

【和訳】テストを受けた時に、どのような基準で「の」の使用、脱落を判断しているか。

CLJ10：主要还是见过没见过，学过没学过，然后就是靠日积月累的语感或者汉语中的形式来判断。

【和訳】主に見たことがあるかどうか、学んだことがあるかどうかによって判断する。それから直感ですね。ある名詞句をよく見聞きする場合、その形式は自分の中の知識になり確実に判断できるが、それほど見聞きしない場合、名詞と名詞の間に「の」を繋ぐという文法や今まで積み重ねた語感や中国語での形式に基づいて判断するという。

著者：一个名词句见过没见过对你的判断会有什么影响吗？

【和訳】名詞句を見たことがあるかどうか、また、学んだことがあるかどうかは「の」の使用、脱落の判断に何か影響があると思うんですか。



CLJ10：一些名词句经常听的话，就潜移默化地成为了自己的知识很确切地能够判断，如果没怎么听过的话就不能确定会有些犹豫。有的时候也不是有「の」没「の」的问题，而是别的形式更常见，这个时候就会参照里面的形式去判断。比如说，「梅雨の季節」。「梅雨の季節」并不常见，但是「梅雨の時期」、「梅雨の頃」这种表达更常见，我就会参照它们去判断。

【和訳】

ある名詞句をよく見聞きする場合、その形式は自分の中の知識になり確実に判断できるが、それほど見聞きしない場合、確定できず、やはり迷いますね。たまには「の」があるかどうかの問題ではなく、ほかの形式がよくみているのです。例えば、「梅雨の季節」。「梅雨の季節」はあまり見たことがないが、「梅雨の時期」、「梅雨の頃」がよくみているので、参考しますね。

(2) 对你来说做这个测试有哪些难或者简单的地方？

【和訳】テストを受けた時に、自分にとっては簡単な部分と難しい部分があったのでしょうか。

CLJ10：判断的时候有些拿不定的地方，就觉得很难判断。比如说，「個人の問題/感想」这个名词句在口头语中可以说成「個人問題/個人感想」吧，另外感觉好像还有「個人的問題/感想」这种形式。

【和訳】なんか判断した時に、揺れた部分もあったので、難しかった。例えば、「個人の問題/感想」です。話し言葉では、「個人問題/個人感想」もいけそうじゃないか、また、「個人的問題/感想」もある気がしますね。

CLJ29 の場合

(1) 你在做测试的时候，是以什么基准来判断是否使用或脱落「の」的？

【和訳】テストを受けた時に、どのような基準で「の」の使用、脱落を判断しているか。

CLJ29：课本上关于「の」用法的说明，还有语感居多。然后看两个名词的词性。如果

是常见的单词的话，加「の」、不常见比较生硬的单词之间不加「の」的话可能会更好。还有就是感觉口头语中很多不用带「の」也可以传达意思。

【和訳】教科書での「の」の用法、語感が多い。それから、二つの名詞の性質を見ます。よく見たりする単語である場合、「の」を付けますが、見たことがそれほどではなく、硬い単語の場合、「の」を入れない方がよいと思う。

(2) 对你来说做这个测试有哪些难或者简单的地方？

【和訳】テストを受けた時に、自分にとっては簡単な部分と難しい部分があったのでしょうか。

CLJ29：口头语中，我觉得有很多都可以省略「の」，但是又不确定，所以很困惑。

【和訳】話し言葉では、多分「の」を省略しもよいと思うが、確定できないので、困った。

著者：那你有没有觉得有比较容易判断的名词句呢？

【和訳】判断しやすいものなんかあると思いますか。

CLJ29：一些常见的，常用的。比如，「英語の成績」。还有「精神支柱」这种。在汉语作为复合语使用的四字在日语里应该也会被用到。

【和訳】よく見聞きしたり、使ったりするものです。例えば、「英語の成績」。それから、「精神支柱」のようなものですね。中国語では四字でつかわれているものは日本語でも使用できるだろう。

## 【2 回目】

### 【高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句の個別の名詞句における「の」の脱落要因に関するフォローアップインタビュー調査】

次に、高親密度名詞句ケース、低親密度名詞句の個別の名詞句における「の」の脱落要因に関するフォローアップインタビュー調査を提示する。まず、高親密度名詞句ケースにおける「最新の状態」、「常識の範囲」、「地域の特色」における「の」の脱落要因に関するフォローアップインタビュー調査を示す。

### 高親密度名詞句ケースにおける「最新の状態」、「常識の範囲」、「地域の特色」における「の」の脱落要因に関するフォローアップインタビュー調査

#### ・「最新の状態」、「常識の範囲」について

CLJ15 の情報：CLJ15 は文法性判断テストでは、「最新の状態」、「常識の範囲」を正しく回答したが、読み上げテストでは、「の」の脱落をした。

著者：你觉得日语的「最新の状態」、「常識の範囲」这两个名词句中应该加「の」吗？

【和訳】日本語の「最新の状態」、「常識の範囲」では、「の」を入れる必要があると思いますか。

CLJ15：我确实有见过这种表达。而且，日语里面名词和名词连接起来的时候基本上都是要加「の」，不是吗。所以，我觉得在这里是有必要加「の」。不过，我觉得在书面语中，显得比较正规，不加「の」的话，我会感觉不自在，但是在口头语中，简练还是比较重要的吧，不加的话会显得更简练，只要能把意思传达不就好了嘛。而且，在日语里也会听到这些表达像「最新情報」、「最新作」、「出題範囲」，这些不都每加「の」吗。所以，我觉得口头语里面不用加「の」也行。

【和訳】確かにこのような表現を見たことがあります。しかも、日本語では名詞と名詞を繋ぐ時に、「の」を入れるんじゃないですか、だから、ここで「の」を入れる必要があると思います。ただ、書き言葉は常にフォーマルな感じであり「の」を入れないと違和感を覚えるのに対して、話し言葉では、簡潔さも

大事なことです。『の』を入れないほうが更に簡潔的に感じます。しかも、意思伝達できればいいんじゃないですか。『最新情報』や『最新作』、『出題範囲』などの言葉も見聞きしたことがあるし、話し言葉では『の』を入れなくてもいいと思う。

#### ・「地域の特色」について

CLJ1 の情報：CLJ1 は文法性判断テストにおいても、読み上げテストにおいても、「地域の特色」を正しく判断できた。

著者：你觉得这个名词句里应该加「の」吗。

【和訳】この名詞句では「の」が必要だと思いますか。

CLJ1：对呀。

【和訳】そうですよ。

著者：为什么？

【和訳】なぜでしょうか。

CLJ1：这个表达我有在哪里见过好像，然后教科书上不是有写日语里名词连接名词的时候，需要加「の」吗。

【和訳】なんかどこかで見たことがある気がする。それから、教科書では、書いてあるんじゃないですか。名詞と名詞の間に「の」を入れる文法説明があるし。

CLJ9 の情報：CLJ9 は文法性判断テストでは、「地域の特色」における「の」の有無を正しく判断したが、読み上げテストでは、「の」を脱落した。

著者：这道题你在文法性判断テスト里，觉得应该加「の」，而在这个読み上げテスト里读的时候没有加「の」，为什么呢。

【和訳】この項目は文法性判断テストでは、「の」を入れる必要だと判断したが、読み上げテストでは、「の」を入れていなかったですね。それはどうしてでしょうか。

CLJ9：我在判断的时候，没有多想并没有感觉到奇怪。但是你看，「家族形態」前面有「の」也有「や」，那说明「地域特色」和「家族形態」两个名词句肯定是并列关系。所以，我觉得这边应该也是个四字的词语比较好，就把「の」放入一起读了。

【和訳】判断した時に、あまり考えていなかったかもしれないが、「地域の特徴」に特に違和感を感じなかったですね。でも、ほら、読んだ時に、前の文では「家族形態」の前に「の」と「や」があるので、「地域特徴」と並列関係があるかと思い、四字語の方がいいのではないかと思って、「の」を入れずに読んだ。

著者：如果不考虑文脉关系的话，你觉得「地域の特徴」里应该加上「の」吗。

【和訳】この項目では、文脈のことを考えず、単に「地域の特徴」だと考える場合、「の」を入れる必要があると思いますか。

CLJ9：我觉得需要。

【和訳】必要だと思います。

著者：为什么？

【和訳】なぜですか。

CLJ9：汉语里面有「地域特色」这个四字的词，但是日语里面好像没有，基本上见到的都是「地域の...」、「... の特徴」这种。日语里面好像见到的都是「地域」的后面，「特徴」的前面通常都是加「の」的形式。所以，单独看这个名词词组的话，不加「の」感觉像中文。

【和訳】「地域の特徴」は中国語で「地域特色」のように四字で使われていますが、日本語では、このような表現を見たことがないですね。「地域の...」、「... の特徴」のような形式は基本的によく見るんですね。日本語の「地域」の後ろ、「特徴」の前に常に「の」を入れる形式が多かった。だから、単にこの名詞句を見ると、「の」を入れないと、中国語ぽいと感じますね。

CLJ16 の情報：CLJ16 は文法性判断テストでは、「地域の特徴」で正しく回答できなかったが、読み上げテストでは、正しく回答できた。

著者：这道题你在文法性判断テスト里，觉得不应该加「の」，而在这个読み上げテスト里读的时候却加了「の」，为什么呢。

【和訳】この項目は文法性判断テストでは、「の」をいれる必要がないと判断したが、読み上げテストでは、「の」を入れたけど、なぜでしょうか。

CLJ16：在判断测试里面，因为前文里有「家族形態」和「の」や「や」什么的，比起「地域の特色」，我觉得「地域特色」更能表现出并列关系，在选择判断中就用了「地域特色」。不过，要是读「地域特色」的话，总有点汉语的感觉，就加上了「の」。

【和訳】判断テストでは、前の文では「家族形態」には「の」や「や」があるので、「地域の特色」より「地域特色」だとすると並列関係を表せると思って判断した。しかし、読んだ際に、「地域特色」というと、中国語のように聞こえるので、「の」を入れて読んだ。

CLJ19 の情報：CLJ19 は文法性判断テストと読み上げテストでは、正しく答えられなかった。

著者：你为什么会觉得这里不需要加「の」呢。

【和訳】なぜ、ここ「の」がいらないと思いますか。

CLJ19：前面有「の」和「家族形態」，一个文章里有很多个「の」的话会觉得不自然，感觉和中文的「的」有点像，一个文章里「的」太多的话，会觉得很啰嗦，所以我觉得用「地域特色」会好一些就用了「地域特色」。

【和訳】「の」と「家族形態」があるので、一つの文に「の」を複数入れると不自然な感じですね。中国語の「的」とちょっと似ていると思います。一つの文に「的」を多く入れると、冗長な感じをします。「地域特色」の方がいいと思うので、「地域特色」にした。

著者：如果不考虑文脉关系的话，你觉得「地域の特色」里应该加上「の」吗。

【和訳】この項目では、文脈のことを考えず、単に「地域の特色」だと考える場合、

「の」を入れる必要があると思いますか。

CLJ19：需要吧。

【和訳】：必要でしょう。

著者：为什么呢？

CLJ19：日语里面两个名词连接在一起的时候，经常会使用「の」，而且教科书里也有这方面的说明。

【和訳】：日本語では、二つの名詞を繋ぐ際に、「の」を入れることをよく見ており、教科書ではこの用法についての説明もあった。

### 【低親密度名詞句の個別の名詞句における「の」の脱落要因に関するフォローアップインタビュー調査】

CLJ10 の情報：CLJ10 は低親密度名詞句ケースでは、両テストにおける「政治の中心」、「法律の目的」、「梅雨の季節」、「歴史の舞台」では正しく回答したが、他の名詞句では正しく答えなかった。

著者：「政治の中心」、「歴史の舞台」、「法律の目的」、「梅雨の季節」、「家庭の主婦」、「公共の場所」、「精神の支柱」、「言論の自由」、「生存の危機」这些词里，你有听过或见过哪些？

CLJ10：「法律の目的」、「梅雨の季節」好像还真没怎么见过呢，「政治の中心」学日语的时候有见过。像日语的这种「目的」啦、「梅雨」啦感觉单独使用的时候比较多，和其他词一起使用的时候好像多数会加「の」吧。比如说，「梅雨の時期」、「梅雨の頃」、「授業の目的」。在日语里好像没见过「歴史の舞台」，但是有见过「政治家的舞台」、「サッカーの舞台」这种像「... の舞台」的形式居多。而且，日语里面，两个名词连接的时候加「の」的情况比较多吧。

【和訳】「法律の目的」、「梅雨の季節」は日本語では見たことがなく、「政治の中心」は見たことがある。「梅雨」や「目的」のような言葉は単独に使われる場合が多いが、他の名詞と一緒に使う時、「の」を付けることが多い気がする。例えば、「梅雨の時期」、「梅雨の頃」、「授業の目的」などである。

また、「歴史の舞台」は日本語では見たことがないが、「政治家の舞台」、「サッカーの舞台」のような「... の舞台」の形式を見たことがある。それで、「の」を入れないと、違和感を覚えてしまう。更に、日本語では、二つの漢字の間に「の」を入れる場合が多いのではないか。

著者：哦，你是觉得日语里加「の」的情况居多哈。那「家庭主婦」、「公共場所」、「精神支柱」、「言論自由」、「生存危機」呢。

【和訳】日本語では、二つの漢字の間に「の」を入れる場合が多いと思っているんですね。じゃ、「家庭の主婦」、「公共の場所」、「精神の支柱」、「言論の自由」、「生存の危機」はどうでしょう？

CLJ10：这些词的话，我在日语里确实有见过「家庭用品」、「集合場所」的，这些好像都不用加「の」。说实话没见过你刚才在日语里面提到这些词。这些词在汉语里感觉作为复合语使用的印象比较强一些。我觉得在日语里面它们是不是也一样就这么判断了。

【和訳】「家庭用品」、「集合場所」は日本語では見たことがあるが、これらは「の」がいらないみたいですね。また、先、提示したあれらの言葉（「家庭の主婦」、「公共の場所」、「精神の支柱」、「言論の自由」、「生存の危機」）も日本語では見たことがないは見たことがない。これらの言葉は中国語では、「家庭主婦」、「公共场所」、「精神支柱」、「言论自由」、「生存危机」のように、複合語のイメージが強いので、日本語でも同じではないかと思って判断した。

CLJ29 の情報：両テストにおいて、「梅雨の季節」では正しく回答しかできなかったため、フォローアップインタビュー調査の対象として扱った。

著者：你觉得在「政治の中心」、「法律の目的」中应该加「の」吗，为什么。

CLJ29：我见过到「都市の中心」、「仕事の目的」这种表达，所以，感觉「政治の中心」、「法律の目的」里加「の」一般应该没问题。可是，、「政治」、「中心」、「法律」、「目的」这些词本身就很少见的，而且感觉很生硬，记得之前老师有说过，名词之间加「の」的话就会有些柔和感，生硬的词语和生硬的词语结合要表达生



硬的感觉的话，不加「の」会好一些吧。

【和訳】「都市の中心」、「仕事の目的」は見たことがあるから、「政治の中心」、「法律の目的」では、「の」を普通に入れてもいいと思う。しかし、「政治」、「中心」、「法律」、「目的」は普段あまり使わない言葉で、少し硬いと感じている。前、日本語を勉強したとき、日本語の先生が名詞と名詞の間に「の」を付ける、柔らかい感じになると言いました。実際、硬い語と硬い語と結ぶ際に、「の」を入れるとその名詞句自体は硬いニュアンスが伝わらないと思って、「の」を入れなかった。

著者：那你觉得「家庭主婦」、「公共场所」、「精神支柱」、「言论自由」、「生存危机」呢。

【和訳】「家庭の主婦」、「公共の場所」、「精神の支柱」、「言論の自由」、「生存の危機」はどうでしょう？

CLJ29：这些词在汉语里都是作为四字语来使用的，我就想日语里面是不是应该一样？

【和訳】これらの名詞句は中国語では四字の形で使われているので、日本語でもそうではないかと思った。